



研修プログラムガイド 2013



四国地区大学教職員能力開発ネットワーク



研修プログラムガイド2013の発刊にあたって

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（S P O D）」は、平成20年度文部科学省戦略的・大学連携支援事業の採択を機に設立されました。本事業は、平成22年度で国からの補助金交付が終了し、平成23年度からは、加盟校からの分担金による自主運営体制のもと、四国地区にあるすべての高等教育機関（33校）が連携して取組を継続しています。

本ガイドブックは、平成25年度にS P O Dネットワーク内で開催され、かつ加盟校が参加可能な全99のFD/SDプログラムを掲載しているものです。平成21年度より毎年作成され、加盟校の全教職員約7,000名に配布されています。ここに掲載されているプログラムは、授業改善のためのスキルや学生支援の実践とコツ、カリキュラム改善や組織改革に関するものまで、実践的で多様な内容であり、各加盟校の抱える実状や教職員のニーズに応じて受講できるものとなっています。また、研修の講師は、それぞれの分野に関する専門的な知識を持ち、高いインストラクショナル・スキルを身につけたプロフェッショナルです。提供プログラムにおいては、毎回実施されるアンケート結果も反映させ、質の高い研修内容と講師陣を確保し続けています。

昨年度、S P O Dが提供したプログラム受講者数は延べ2,000人を超えました。参加者は毎年増え続けており、四国地区の多くの教職員の皆様にS P O D事業をご活用いただいていることに深く感謝いたします。

平成24年6月に文部科学省は、大学改革の方向性として「大学改革実行プラン」を公表しました。本プランの中では、教員の教育力向上への支援のほか、国公私立大学の設置形態を超えた連携の本格展開を掲げています。これまでもS P O Dの取組は、大学間連携の好例として全国的にも注目を集めておりますが、今後も活動の質を高め、全国の高等教育機関の教育力向上を牽引する役割を担えるよう尽力して参ります。

引き続き加盟校の皆様には、ご協力・ご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会長

愛媛大学長 柳 澤 康 信

研修プログラムガイド2013目次

研修プログラムガイド利用の手引き	3	FD/SDプログラム(教職員対象)	45
SPODについて	4	講義のための話し方入門	46
はじめてSPOD研修プログラムを利用される方へ	9	大人数講義法の基本	46
日程別プログラム一覧	10	大人数講義法の基本 ー遠隔配信プログラムー	47
開催大学別プログラム一覧	12	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	47
テーマ別プログラム一覧	14	ルーブリック評価入門ー押しない・速い・楽チン成績評価のススメー	48
SPOD加盟校内講師派遣プログラム一覧	16	New!! 学習者の学習意欲を高める授業設計を行うための インストラクショナル・デザイン(ID) 入門ーARCS動機づけモデルの活用ー	48
研修プログラム		New!! 学習者の学習意欲を高める授業設計を行うための インストラクショナル・デザイン(ID) 入門ーARCS動機づけモデルの活用ー	49
FDプログラム(教員対象)	17	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは?	49
教育力開発基礎プログラム	18	動機を高め記憶に残る講義法ー理解・記憶・動機づけの理論ー	50
新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	19	学生を眠らせない講義法のコツ	50
授業デザインワークショップ	20	クリッカーで教育・研究が変わる!	51
学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	21	New!! 教職員のためのPowerPoint ー分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方ー	51
学生の学びを促すシラバスの書き方	22	New!! 教職員のためのPowerPoint ー分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方ー	52
グラフィック・シラバスの作成方法	22	パワーポイント2010基本技・便利技	52
学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方	23	eラーニング入門ーMoodleソフトを活用して きめ細やかな学習支援を実現しようー	53
基礎から学ぶ学習評価法	23	Adobe Premiere Elementsを使った動画教材作成法	53
基礎から学ぶ学習評価法	24	New!! 聴覚障がい学生支援における合理的配慮とは	54
学生の能力を高める評価法のコツ	24	FD・SDセミナー	54
学習評価の基本	25	New!! 教育の質保証と学習成果アセスメント	55
成績評価とフィードバックー評価の原則からルーブリック評価までー	25	教育系外部資金獲得のための申請書作成ワークショップ	55
大人数講義を魅力的にするテクニック	26	メンタルヘルス研修	56
New!! 学習意欲を高める授業づくりー学生はどんなときに学んでいるのか?ー	26	高等教育機関における安全衛生	56
New!! 学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは?	27	FDe養成プログラム (ファカルティ・ディベロッパー対象)	57
学習動機を高める第1回目の授業づくり	27	FDファシリテーター(FD担当者)養成研修	58
New!! 授業効果を高めるために授業の最初にすべきこと	28	ファカルティ・ディベロッパー養成研修	59
New!! 授業に活かせる理解と記憶の教育学	28	SDプログラム(職員対象)	61
New!! 授業に活かせる理解と記憶の教育学	29	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルI) 第1回	62
「プレゼンテーションの方法」の教え方	29	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルI) 第2回	63
「レポートの書き方」の教え方	30	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルII)	64
「日本語技法」の教え方①	30	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルIII)	65
「日本語技法」の教え方②	31	New!! 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(共通科目)	66
「情報整理の方法」の教え方	31	学務系職員養成プログラム研修(レベルI)	67
教室の雰囲気を変えるクラスルーム・コントロール術	32	New!! 学務系職員養成プログラム研修(レベルII)	67
New!! 教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法	32	次世代リーダー養成ゼミナール	68
New!! コミュニケーションで知識を蓄えるTBLチーム基盤型学習法	33	高等教育トップリーダーセミナー	70
学生の参加を促す授業方法	33	スタッフ・ポートフォリオ入門ー職員と大学が共に輝くためにー	70
協同学習の基本(入門編)	34	New!! 若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	71
授業へのグループワークの効果的な導入	34	New!! 若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	71
効果的なグループワークの進め方	35	New!! 若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	72
講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザインー考え方と進め方ー	35	大学職員のための企画力養成講座	72
能動的学習支援者必須! グループワークのためのファシリテーション入門	36	講師養成研修	73
初年次科目のためのグループワークの技法	36	ブレFDプログラム(大学院生対象)	75
初年次教育をアクティブに動かす方法	37	教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ	76
New!! LMS(Moodle)の講義への活用術	37	ファシリテーション力養成道場	77
New!! 効果的なeラーニングの活用方法	38	New!! TA講習	78
英語で授業をしたい教員のためのワークショップ	38	総合プログラム	79
New!! 担任教員に求められることー担任スキル開発ワークー	39	大学教育カンファレンスin徳島	80
New!! 担任教員に求められることー担任スキル開発ワークー	39	愛媛大学教育改革シンポジウム	81
マンネリ化しない公開授業の秘訣ー公開授業の効果的実践方法ー	40	SPODフォーラム2013	82
授業アンケートを見直しませんか?ーアンケートの効果的実施と活用方法ー	40	学内向け研修プログラム	83
New!! 職員相互の公開授業のあり方	41	各種研修プログラムの お申し込み・お問い合わせについて	89
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(東四国対象)	41		
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(西四国対象)	42		
高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	43		
New!! ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ	44		
New!! アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ	44		

研修プログラムガイド利用の手引き

〈検索方法について〉

本ガイドブックは、教職員の皆様に、様々なニーズから研修プログラムを探していただくために下記の3つの検索方法があります。

○日程別プログラム一覧 p.10～11

各研修プログラムを、日程順に掲載しています。日程から研修プログラムを検索したい場合に便利です。また、開催大学や内容（教員対象か職員対象かなど）についてもあわせて掲載しておりますので、ご参照ください。

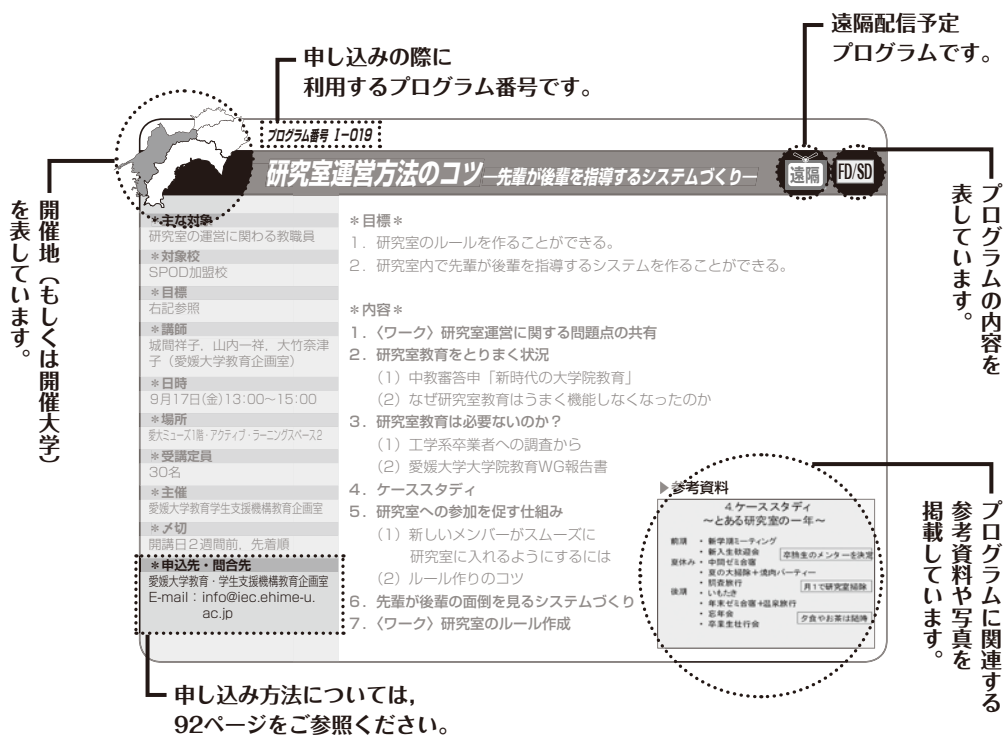
○開催大学別プログラム一覧 p.12～13

各研修プログラムを、開催大学別に掲載しています。開催大学から研修プログラムを検索したい場合に便利です。なお、遠隔配信の欄にマークが付いているプログラムは、システムが整備されている加盟校への遠隔配信を予定しているものです。遠隔配信の申し込み方法については、p.92 をご参照ください。

○テーマ別プログラム一覧 p.14～15

各研修プログラムを、テーマ別に掲載しています。内容から研修プログラムを検索したい場合に便利です。なお、開催大学についてもあわせて掲載しておりますので、ご参照ください。

〈研修プログラムの表記について〉



〈注〉各研修プログラムの日時、講師等の詳細が未定の箇所につきましては、問い合わせ先にご確認ください。また、プログラムの詳しい内容が決まり次第、SPODホームページ（<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>）に掲載していきますので、ご参照ください。

SPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)について

◇概要

四国地区大学教職員能力開発ネットワークは、FD/S D事業のネットワークであり、平成20年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業としてスタートし、現在、四国地区にある33の全ての高等教育機関が加盟するネットワークへと成長しています。

四国地区大学教職員能力開発ネットワークは、「Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education」の頭文字をとって「SPOD」と呼ばれています。

◇目標

SPODの全加盟校が連携してネットワーク事業を展開し、FDとSDという2つの事業の効率化、高度化、実質化を行うことで、教育の質の保証を図り、学生の豊かな学びと成長を支援する、実践的な力量をもった高等教育のプロフェッショナルの輩出を目指しています



◇運営体制

SPODは、安定した運営体制に特徴があります。徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学の4大学をネットワークコア校とし、FD/S D/事務担当者が月に1回程度集まり、ネットワークコア運営協議会を開催し、教職協働で事業の実施、運営上の諸課題を協議しています。このことが、ネットワークコア校間の教職員の関係を密にし、事業の推進力となっています。ネットワークコア校は、各県内加盟校のとりまとめや、県内加盟校会議を通じての情報提供のほか、各加盟校に対して、各種プログラムを提供し、プログラムに対する意見収集や、ニーズ把握調査の実施により、SPOD加盟校全体のニーズに対応できるよう日々プログラムの見直しを行っています。また、ネットワークコア校のFD/S D担当者が直接、加盟校を訪問する研修講師派遣事業も行っています。

さらに、全加盟校へ本事業の情報を提供するため、ホームページ上への研修講師プロフィールの掲載や研修資料の提供、定期的なメールマガジンの配信を行っています。

SPODでは、取組をよりよいものに改善していくため、外部の有識者5名で構成される事業評価委員会を設置しています。事業評価委員会では、毎年、SPODが作成した活動報告書をもとに、書面により事業評価を行っています。その評価結果をもとに、事業の改善や推進を行っています。

◇取組内容

(FD)

1. 全学的なFDの実践的指導者であるFDer（ファカルティ・ディベロッパー）を養成するための体系的プログラムの開発、実施
2. 教員としてのキャリアパスの早い段階において、基礎的な内容を学習できるように新任教員、大学院生、ポスドク向け標準的FD・プレFDプログラムの開発、実施
※特に、新任教員を対象とする研修の標準化を目指し取組に力を入れています。
3. 各種FDプログラムの体系化・標準化に向けた開発、実施
4. 教員の教育業績記録を可視化するためのティーチング・ポートフォリオの開発
※1～3の取組を進めるにあたり、国立教育政策研究所高等教育研究部での研究成果を積極的に活用し、SPOD内のみならず、日本全国のモデルになるようプログラム開発を推進しています。また4は、大学評価・学位授与機構と連携しながら取組を推進しています。

(SD)

1. 階層別、専門分野別のSDプログラムの開発、実施
 - a) 経営者、管理者養成プログラムの開発、実施
 - b) 専門職養成プログラムの開発、実施
 - c) 次世代リーダー養成プログラムの開発、実施
2. 職員の職歴や業績を可視化するためのスタッフ・ポートフォリオ（職員業績記録）の開発
3. 1と2の取組を実質化するための職員キャリアアップサポートの実施
具体的には、開発したスタッフ・ポートフォリオを活用しながら、キャリアアップ支援の実施や、国公私を通じた職員人事交流などを実施していきます。

(SPODフォーラム) ※p.82参照

SPODが、大学・高専の教職員自らの能力開発のために、多種多様で質の高いFD／SDプログラムを集中的に実施し、組織を超えた持続的な相互交流・関係づくりの場として毎年夏期4日間にわたり提供しているイベントで、本事業の目玉企画です。

SPOD-FDについて

【SPOD-FDの定義】

SPODにおけるFDは、教育・学習効果を最大限に高めることを目指した、

(1)授業改善、(2)カリキュラム改善、(3)組織整備・改革 への組織的な取組の総称です。

(1) 授業改善 (Instructional Development)

個々の授業をより良いものにするための取組みです。具体的には、授業評価アンケート、教員相互の授業参観、授業コンサルテーション、教授法に関する講演会、シンポジウム、ワークショップ、セミナーなどがこれにあたります。

〈SPODでの取組例〉

・新任教員研修 ・各種スキルアップ系研修 ・各種公開セミナー

〈各大学での取組例〉

・教員相互の授業参観、授業講評会 ・学生による授業評価アンケート
・各種セミナー ・学生との意見交換会

(2) カリキュラム改善 (Curriculum Development)

学部、学科、課程、コース等において提供されるカリキュラムや教育プログラムをより良いものにするための取組です。具体的には、カリキュラム・ポリシーの制定、授業科目の新設・改廃、授業科目間の関連性の検討、カリキュラムの現状診断・評価・開発、またこれらに関わるセミナーなどがこれにあたります。

〈SPODでの取組例〉

・ファカルティ・ディベロッパー*養成研修、FDファシリテーター養成研修
・カリキュラム改善に関するセミナー

〈各大学での取組例〉

・カリキュラム・ポリシー制定に関する学内FD研修会

- ・カリキュラム・ポリシーに対応した各授業科目の授業内容の検討
- ・カリキュラム・マップの作成 ・副専攻制導入の検討

(3) 組織の整備・改革 (Organizational Development)

教育・学生支援に関わる組織の構造や組織間の関係をより機能的なものにするための取組です。具体的には、教育・学生支援に関わる委員会の設置・改廃、各委員会の役割の検討、組織の現状診断・評価・再編、組織間での連携協力、管理職等を対象とした各種研修会がこれにあたります。

〈SPODでの取組例〉

- ・ファカルティ・ディベロッパー* 養成研修、FDファシリテーター養成研修

〈各大学での取組例〉

- ・SPODに関するFD実施体制の構築
- ・FD委員会等組織の見直し
- ・学科・コースの再編及びそれに伴う教員の再配置
- ・教育重点型教員の配置

(1), (2)においては、組織レベルのみならず教員個人レベルにおける取組も重要です。そして、(1), (2), (3)いずれにおいても、常にPDCAサイクルを意識して、持続的に改善を図る姿勢が肝要であると考えます。

*ファカルティー・ディベロッパー (FDer) とは、FDの責任者として、各種研修プログラムの企画・実施や各教員への教育技術の支援を行う専門家です。教育技術のみならず、カリキュラムの改善や組織整備等も担います。高等教育センター等に所属しますが、学部にも所属している教員が、兼任でその役割を担うことも多くあります。

【SPOD－FDプログラムのレベルについて】

国立教育政策研究所が開発したFDマップを利用して、本ガイドブックに掲載されているSPOD－FDプログラムのレベル分類をおこなっています。FDマップとは、FDプログラムを体系的に整理できる枠組です（図参照）。FDマップでは、横軸にFDプログラムを実施する対象を示し、「ミクロ・レベル（授業・教授法の開発）」「ミドル・レベル（カリキュラム・プログラム開発）」「マクロ・レベル（組織の教育環境・教育制度の開発）」に分類しています。そして縦軸にFDを実施する対象者の能力開発の段階を示し、「Ⅰ．導入（気づく・わかる）」「Ⅱ．基本（実践できる）」「Ⅲ．応用（開発・報告できる）」「Ⅳ．支援（教えられる）」と4つのフェーズに分かれています。

本ガイドブック「テーマ別索引」（p.14）に、各プログラムのレベルとフェーズを提示しておりますのでご参照ください。

レベル フェーズ	ミクロ 個々の教員 授業・教授法	ミドル 教務委員 カリキュラム・プログラム	マクロ 管理者 組織の教育環境・教育制度
Ⅰ．導入 (気づく・わかる)			
Ⅱ．基本 (実践できる)			
Ⅲ．応用 (開発・報告できる)			
Ⅳ．支援 (教えられる)			

図．FDマップのフレームワーク

参考・引用文献

国立教育政策研究所 FDer研究会『大学・短大でFDに携わる人のためのFDマップと利用ガイドライン』国立教育政策研究所, 2009

SPOD-SDについて

(1) SPOD-SDの定義

SPOD-SDとは、地域の「知の拠点」である四国内の大学等の職員が組織的に共同開発した職員養成プログラムにより、『大学、短期大学、高等専門学校のジェネラリストとしての広汎な素養に加え、スペシャリストとして特定の分野における能力開発を行うことにより、高等教育のプロフェッショナルを育成する』取組を指す。このSPOD-SDにおける職員養成プログラムをSPOD-SDプログラムという。

学士課程答申では、大学職員の職能開発について現状と課題を整理し、改善に向けた方策を示しています。SPOD-SDにおいては、この現状と課題を踏まえ、大学等の職員として一般的に求められる大学人・社会人基礎力及び大学等における複数の業務領域での知見（総務、財務、人事、企画、教務、研究、社会連携、生涯学習など）を持ち、大学等における問題に関する知識・理解などを備えたジェネラリストの育成に加え、教育方法の改革の実践を支える人材、経営を支援する人材、国際交流を支援する人材及び地域連携を支援する人材など、特定の分野において、より高度な専門性を備えたスペシャリストの育成を目指しています。

また、SPOD-SDでは、大学等の職員に必要な資質とは、ジェネラリスト的な要素とスペシャリスト的な要素を統合したハイブリッドな要素を備えることであり、これが、高等教育のプロフェッショナルの養成につながると考えております。このため、SPOD-SDの定義を「大学等のジェネラリストとしての広汎な素養に加え、スペシャリストとして特定の分野における能力開発を行うことにより、高等教育のプロフェッショナルを育成する」こととしました。

(2) SPOD-SDプログラムの開発

高等教育機関の職員は、大学人として社会人基礎力を持ち、高等教育を取り巻く環境や職員の果たすべき役割を的確に把握し、企画立案等に積極的に参画できる資質が求められています。このためSPOD-SDプログラムでは、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を可視化し、職場外研修（OFF-JT）及び職場内研修（OJT）を「意図的・計画的・持続的」に実施することにより、職員の能力開発の実質化を図ります。

なお、SPOD-SDプログラム等の開発・実施は、全加盟校による協働を目指しています。各県のコア校が中心となり、1）職員がSDプログラム開発手法を学び、2）その上で、具体的なSDプログラムを開発し、3）開発されたSDプログラムを実施し、4）実施したSDプログラムの評価・改善を行います。

(3) SPOD-SDプログラムの構成

SPOD-SDプログラムは次の3つの柱で構成されています。

1) SPOD-SD大学（OFF-JT）

SPODにおける職員養成プログラムは、その養成プログラム全体を大学における課程の履修と想定しています。そのカリキュラムは共通教育、専門教育及び大学院における履修方式をとることとし、その課程認定については、認定必要単位を設定しています。

具体的には、SPOD-SD大学としてSDプログラムの単位認定制度を図のように構想しています。専門職養成課程として共通教育と専門教育の各プログラムを構築し、リーダー養成課程として次世代リーダー養成プログラム及び管理者・経営者養成プログラムを構築しました。

1. 専門職養成課程

大学職員の専門性を育成するSDプログラムを学士、修士、博士課程として位置づける。そのため、各専門領域を学部や研究科として位置づける。

	専門教育 (専門職養成プログラム)	共通教育 (基礎力養成プログラム)
学士課程 レベル 1 専門〇〇単位 共通〇〇単位	医学部(研究科) 医事学部(研究科) 情報処理学部(研究科) 国際交流学部(研究科) 図書学部(研究科) 施設学部(研究科) 財務学部(研究科) 総務学部(研究科) 研究協力学部(研究科) 学務学部(研究科)	大学人・社会人としての基礎力を養成するための共通研修科目
修士課程(専門) レベル 2 専門〇〇単位 共通〇〇単位		
博士課程(専門) レベル 3 専門〇〇単位 共通〇〇単位		

2. リーダー養成課程

大学のミドルリーダー、トップリーダーに必要な知識・技術・姿勢を育成するSDプログラムを修士、博士課程として位置づける。なお、修士課程(リーダー)を受講する際は、修士課程(専門)以上のプログラムを受講中または修了していることを原則とする。

修士課程(リーダー) 〇〇単位	次世代リーダー養成プログラム
博士課程(リーダー) 〇〇単位	経営者・管理者養成プログラム(高等教育トップリーダーセミナー)

図. SPOD – SD 大学構想図

さらに、SPOD–SDプログラムにより知識・能力を身につけた職員自らが、次のSPOD–SDプログラムの講師となり、次世代の職員を育成していくというサイクルを確立することで、SPOD–SDの取組を継続的に実施していくことが可能となります。

2) スタッフ・ポートフォリオ（職員業績記録）の作成（OJT）

職員個々人のキャリア形成に向けて、スタッフ・ポートフォリオ（職員業績記録）を作成します。これにより、大学等職員としての自己認識と方向性を明確にします。スタッフ・ポートフォリオの導入に当たっては、職員のキャリア・アップの参考となるものとします。

3) 職員キャリア・アップ・サポート制度（OJT）

キャリア・アップ・サポートとして、スタッフ・ポートフォリオに掲げる職員としてのビジョン及びゴールの目標設定や目標達成に向けて、上司が部下に対して相談、助言等を行うメンター制度を導入します。これにより、大学等の組織と職員個人の方向性を近づけることが可能となります。さらに、キャリア・アップを目指す職員が他大学への人事交流を希望する場合等のSPOD加盟校間における連絡・調整など、人事交流を円滑に推進するなどのサポートも実施します。

SPOD–SDプログラムは、国内の大学等における本格的な職員養成プログラムとなることを目指しています。このため、四国内における大学等の協働だけでなく、国内の各関係機関や学会等とも連携し、教員と職員が協働して開発することが肝要であると考えます。

はじめて SPOD 研修プログラムを利用される方へ

◇授業を担当して間もない方へのおすすめプログラム

※シラバスの書き方や評価法、様々な授業方法などについて総合的・集中的に学ぶことができます。

プログラム名	開催日時	詳細
教育力開発基礎プログラム	8月30日～31日	p.18
新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	9月12日～13日	p.19
授業デザインワークショップ	7月6日～7日, 9月2日～4日	p.20
学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	9月2日～3日	p.21

◇授業の基本から学びたい方へのおすすめプログラム

※授業の基本について目的別に短時間で学ぶことができます。

プログラム名	開催日時	詳細
学生の学びを促すシラバスの書き方	12月16日	p.22
学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方	1月22日	p.23
基礎から学ぶ学習評価法	9月18日, 12月16日	p.23,24
学習評価の基本	SPODフォーラム期間中	p.25
成績評価とフィードバックー評価の原則からルーブリック評価までー	9月12日	p.25
大人数講義を魅力的にするテクニック	9月17日	p.26
大人数講義法の基本	SPODフォーラム期間中 9月10日(遠隔配信のみ)	p.46,47
講義のための話し方入門	8月30日	p.46

◇授業に参加型学習を取り入れたい方へのおすすめプログラム

プログラム名	開催日時	詳細
学生の参加を促す授業方法	12月13日	p.33
効果的なグループワークの進め方	SPODフォーラム期間中	p.35
講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザインー考え方と進め方ー	9月5日	p.35

◇担任スキルを磨きたい高専教員の方へのおすすめプログラム

プログラム名	開催日時	詳細
担任教員に求められることー担任スキル開発ワークー	6月11日, 8月1日	p.39

◇大学職員として基礎的能力を身につけたい方へのおすすめプログラム

プログラム名	開催日時	詳細
大学人, 社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルI)	5月9日～10日(第1回) 10月17日～18日(第2回)	p.62,63
学務系職員養成プログラム研修(レベルI)	SPODフォーラム期間中	p.67

日程別プログラム一覧

日 程	プログラム名	開催大学	内容	ページ
4月				
4月4日(木)	学生を眠らせない講義法のコツ	愛媛大学	FD/SD	p.50
4月4日(木)	学習動機を高める第1回目の授業づくり	愛媛大学	FD	p.27
4月5日(金)	教室の雰囲気を変えるクラスルーム・コントロール術	愛媛大学	FD	p.32
4月5日(金)	学生の能力を高める評価法のコツ	愛媛大学	FD	p.24
5月				
5月9日(木)～10日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅠ)第1回	愛媛大学	SD	p.62
5月23日(木)～25日(土)	次世代リーダー養成ゼミナール(第1回)	愛媛大学	SD	p.68
6月				
6月3日(月)	授業アンケートを見直しませんか? -アンケートの効果的实施と活用方法-	徳島工業短期大学	FD	p.40
6月11日(火)	担任教員に求められること -担任スキル開発ワーク-	新居浜工業高等専門学校	FD	p.39
6月13日(木)～14日(金)	講師養成研修	愛媛大学	SD	p.73
6月15日(土)	教職員のためのPowerPoint-分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方-	香川短期大学	FD/SD	p.51
6月20日(木)	教育の質保証と学習成果アセスメント	松山大学	FD/SD	p.55
6月22日(土)～23日(日)	FDファシリテーター(FD担当者)養成研修	徳島大学	FDer	p.58
6月28日(金)	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	香川大学	SD	p.71
6月上旬	メンタルヘルス研修	愛媛大学	FD/SD	p.56
7月				
7月2日(火)	学生の学び意欲を引き出す授業とは?	愛媛県立医療技術大学	FD/SD	p.49
7月4日(木)～5日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅢ)	愛媛大学	SD	p.65
7月6日(土)～7日(日)	第20回授業デザインワークショップ	愛媛大学	FD	p.20
7月8日(月)	ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ	愛媛大学	FD	p.44
7月18日(木)	大学職員のための企画力養成講座	高知大学	SD	p.72
7月26日(金)	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	高知工科大学	SD	p.72
7月中旬	学務系職員養成プログラム研修(レベルⅡ)	愛媛大学	SD	p.67
8月				
8月1日(木)	英語で授業をしたい教員のためのワークショップ	愛媛大学	FD	p.38
8月1日(木)	担任教員に求められること -担任スキル開発ワーク-	高知工業高等専門学校	FD	p.39
8月1日(木)～3日(土)	次世代リーダー養成ゼミナール(第2回)	南大坂コンソーシアム(会場提供)	SD	p.68
8月19日(月)	授業に活かせる理解と記憶の教育学	香川県立保健医療大学	FD	p.28
8月27日(火)	動機を高め記憶に残る講義法 -理解・記憶・動機づけの理論-	愛媛大学	FD/SD	p.50
8月30日(金)	ルーブリック評価入門-ブレない・速い・楽チン成績評価のススメ-	愛媛大学	FD/SD	p.48
8月30日(金)	講義のための話し方入門	愛媛大学	FD/SD	p.46
8月30日(金)	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	SD	p.71
8月30日(金)～31日(土)	教育力開発基礎プログラム	徳島大学	FD	p.18
8月下旬(SPODフォーラム)	グラフィック・シラバスの作成方法	愛媛大学	FD	p.22
8月下旬(SPODフォーラム)	学習評価の基本	愛媛大学	FD	p.25
8月下旬(SPODフォーラム)	効果的なグループワークの進め方	愛媛大学	FD	p.35
8月下旬(SPODフォーラム)	大人数講義法の基本	愛媛大学	FD/SD	p.46
8月下旬(SPODフォーラム)	高等教育トップリーダーセミナー	愛媛大学	FD/SD	p.70
8月下旬(SPODフォーラム)	学務系職員養成プログラム研修(レベルⅠ)	愛媛大学	SD	p.67
9月				
9月2日(月)～3日(火)	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	高知大学	FD	p.21
9月2日(月)～4日(水)	第21回授業デザインワークショップ	愛媛大学	FD	p.20
9月3日(火)	Adobe Premiere Elementsを使った動画教材作成法	愛媛大学	FD/SD	p.53
9月5日(木)	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン -考え方と進め方-	高知大学	FD	p.35
9月6日(金)	コミュニケーションで知識を蓄えるTBLチーム基盤型学習法	高知大学	FD*	p.33
9月6日(金)	パワーポイント2010基本技・便利技	愛媛大学	FD/SD	p.52
9月6日(金)	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門-ARCS動機づけモデルの活用-	愛媛大学	FD/SD	p.49
9月6日(金)	授業に活かせる理解と記憶の教育学	高知学園短期大学	FD	p.29
9月10日(火)	大人数講義法の基本 -遠隔配信プログラム-	愛媛大学	FD/SD	p.47
9月12日(木)	成績評価とフィードバック -評価の原則からルーブリック評価まで-	高知大学	FD	p.25
9月12日(木)	教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	FD*	p.32
9月12日(木)～13日(金)	新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	香川大学	FD	p.19
9月12日(木)～13日(金)	教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ	愛媛大学	プレFD	p.76
9月13日(金)	教職員のためのPowerPoint-分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方-	愛媛大学	FD/SD	p.52
9月17日(火)	聴覚障がい学生支援における合理的配慮とは	愛媛大学	FD/SD	p.54

日 程	プログラム名	開催大学	内容	ページ
9月17日(火)	LMS(Moodle)の講義への活用術	香川大学	FD	p.37
9月17日(火)	大人数講義を魅力的にするテクニック	香川大学	FD	p.26
9月17日(火)～18日(水)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(西四国対象)	愛媛大学	FD	p.42
9月17日(火)～18日(水)	アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ	愛媛大学	FD	p.44
9月18日(水)	基礎から学ぶ学習評価法	高松大学・高松短期大学	FD	p.24
9月18日(水)	学習意欲を高める授業づくりー学生はどんなときに学んでいるのか?ー	今治明德短期大学	FD	p.26
9月20日(金)	eラーニング入門ーMoodleソフトを活用してきめ細やかな学習支援を実現しようー	愛媛大学	FD/SD	p.53
9月26日(木)～27日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅡ)	愛媛大学	SD	p.64
9月26日(木)～27日(金)	ファシリテーション力養成道場	高知大学	プレFD	p.77
9月30日(月)	TA講習	高知大学	プレFD	p.78
9月上旬	職員相互の公開授業のあり方	高知県立大学・高知短期大学	FD	p.41
9月中	マンネリ化しない公開授業の秘訣ー公開授業の効果的実践方法ー	四国大学・四国大学短期大学部	FD	p.40
9月中	スタッフ・ポートフォリオ入門ー職員と大学が共に輝くためにー	高知県立大学・高知短期大学	SD	p.70
9月中	高等教育機関における安全衛生	愛媛大学	FD/SD	p.56
10月				
10月4日(金)～6日(日)	ファカルティ・ディベロッパー養成研修	愛媛大学	FDer	p.59
10月17日(木)～18日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅠ)第2回	愛媛大学	SD	p.63
11月				
11月8日(金)	講師養成研修	愛媛大学	SD	p.73
11月14日(木)～16日(土)	次世代リーダー養成ゼミナール(第3回)	香川大学	SD	p.68
11月15日(金)～17日(日)	高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	愛媛大学	FD	p.43
11月上旬	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門ーARCS動機づけモデルの活用ー	徳島大学	FD*/SD	p.48
11月下旬	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは?	阿南工業高等専門学校	FD/SD	p.49
12月				
12月13日(金)	学生の参加を促す授業方法	香川大学	FD	p.33
12月13日(金)	初年次教育をアクティブに動かす方法	香川大学	FD	p.37
12月16日(月)	学生の学びを促すシラバスの書き方	香川大学	FD	p.22
12月16日(月)	基礎から学ぶ学習評価法	香川大学	FD	p.23
12月17日(火)	クリッカーで教育・研究が変わる!	香川大学	FD/SD	p.51
12月上旬	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(共通科目)	愛媛大学	SD	p.66
12月～1月中	大学教育カンファレンスin徳島	徳島大学	FD*/SD	p.80
1月				
1月22日(水)	学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方	高知大学	FD*	p.23
1月23日(木)～24日(金)	次世代リーダー養成ゼミナール(第4回)	徳島大学	SD	p.68
1月中旬	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	愛媛大学	FD/SD	p.47
1月～3月中	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(東四国対象)	徳島大学	FD	p.41
2月				
2月7日(金)～8日(土)	ファシリテーション力養成道場	高知大学	プレFD	p.77
2月28日(金)	「プレゼンテーションの方法」の教え方	香川大学	FD	p.29
2月28日(金)	「レポートの書き方」の教え方	香川大学	FD	p.30
3月				
3月4日(火)	「日本語技法」の教え方①	香川大学	FD	p.30
3月4日(火)	「日本語技法」の教え方②	香川大学	FD	p.31
3月7日(金)	協同学習の基本(入門編)	香川大学	FD	p.34
3月7日(金)	「情報整理の方法」の教え方	香川大学	FD	p.31
3月20日(木)	授業効果を高めるために授業の最初にすべきこと	高知大学	FD*	p.28
3月26日(水)	初年次科目のためのグループワークの技法	高知大学	FD	p.36
3月27日(木)	能動的学習支援者必須! グループワークのためのファシリテーション入門	高知大学	FD*	p.36
3月31日(月)	TA講習	高知大学	プレFD	p.78
3月中	教育系外部資金獲得のための申請書作成ワークショップ	愛媛大学	FD/SD	p.55
1～3月中	愛媛大学教育改革シンポジウム	愛媛大学	FD*/SD	p.81
その他・未定				
未定(年4回程度)	FD・SDセミナー	徳島大学	FD/SD	p.54
未定	授業へのグループワークの効果的な導入	香川大学	FD	p.34

内容についての説明	FD …………… 教員対象	SD …………… 職員対象
	FD* …………… 教員対象 (学生・院生も参加可能)	FDer …………… ファカルティ・ディベロッパー対象
	FD/SD …… 教職員対象	プレFD …… 大学院生対象

開催大学別プログラム一覧

大学名	プログラム名	日程	遠隔配信	プログラムNo.	ページ
徳島大学	FDファシリテーター(FD担当者)養成研修	6月22日(土)～23日(日)		T-001	p.58
徳島大学	教育力開発基礎プログラム	8月30日(金)～31日(土)		T-002	p.18
徳島大学	FD・SDセミナー	未定(年4回程度)		T-003	p.54
徳島大学	大学教育カンファレンスin徳島	12月～1月中		T-004	p.80
徳島大学	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<東四国対象>	1月～3月中		T-005	p.41
徳島大学	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門-A RCS動機づけモデルの活用-	11月上旬		T-006	p.48
徳島大学	次世代リーダー養成ゼミナール(第4回)	1月23日(木)～24日(金)		T-007	p.68
四国大学・ 四国大学短期大学部	マンネリ化しない公開授業の秘訣ー公開授業の効果的実践方法ー	9月中		T-008	p.40
徳島文理大学・徳島文理 大学短期大学部	教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法	9月12日(木)		T-009	p.32
徳島工業短期大学	授業アンケートを見直しませんか?ーアンケートの効果的実施と活用方法ー	6月3日(月)		T-010	p.40
阿南工業高等専門学校	学生の学び意欲を引き出す授業とは?	11月下旬		T-011	p.27
香川大学	新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	9月12日(木)～13日(金)		K-001	p.19
香川大学	LMS(Moodle)の講義への活用術	9月17日(火)		K-002	p.37
香川大学	大人数講義を魅力的にするテクニック	9月17日(火)		K-003	p.26
香川大学	学生の参加を促す授業方法	12月13日(金)		K-004	p.33
香川大学	初年次教育をアクティブに動かす方法	12月13日(金)		K-005	p.37
香川大学	学生の学びを促すシラバスの書き方	12月16日(月)		K-006	p.22
香川大学	基礎から学ぶ学習評価法	12月16日(月)		K-007	p.23
香川大学	クリッカーで教育・研究が変わる!	12月17日(火)		K-008	p.51
香川大学	「プレゼンテーションの方法」の教え方	2月28日(金)		K-009	p.29
香川大学	「レポートの書き方」の教え方	2月28日(金)		K-010	p.30
香川大学	「日本語技法」の教え方①	3月4日(火)		K-011	p.30
香川大学	「日本語技法」の教え方②	3月4日(火)		K-012	p.31
香川大学	協同学習の基本(入門編)	3月7日(金)		K-013	p.34
香川大学	「情報整理の方法」の教え方	3月7日(金)		K-014	p.31
香川大学	授業へのグループワークの効果的な導入	未定		K-015	p.34
香川大学	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	6月28日(金)		K-016	p.71
香川大学	次世代リーダー養成ゼミナール(第3回)	11月14日(木)～16日(土)		K-017	p.68
香川県立保健医療大学	授業に活かせる理解と記憶の教育学	8月19日(月)		K-018	p.28
高松大学・高松短期大学	基礎から学ぶ学習評価法	9月18日(水)		K-019	p.24
香川短期大学	教職員のためのPowerPoint-分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方-	6月15日(土)		K-020	p.51
愛媛大学	第20回授業デザインワークショップ	7月6日(土)～7日(日)		I-001	p.20
愛媛大学	第21回授業デザインワークショップ	9月2日(月)～4日(水)		I-002	p.20
愛媛大学	学生を眠らせない講義法のコツ<春期FD・SDスキルアップ講座>	4月4日(木)		I-003	p.50
愛媛大学	学習動機を高める第1回目の授業づくり<春期FD・SDスキルアップ講座>	4月4日(木)		I-004	p.27
愛媛大学	教室の雰囲気を変えるクラスルーム・コントロール術<春期FD・SDスキルアップ講座>	4月5日(金)		I-005	p.32
愛媛大学	学生の能力を高める評価法のコツ<春期FD・SDスキルアップ講座>	4月5日(金)		I-005	p.24
愛媛大学	英語で授業をしたい教員のためのワークショップ<夏期FD・SDスキルアップ講座>	8月30日(金)		I-007	p.38
愛媛大学	動機を高め記憶に残る講義法ー理解・記憶・動機づけの理論ー<夏期FD・SDスキルアップ講座>	8月27日(火)		I-008	p.50
愛媛大学	ルーブリック評価入門ーブレない・速い・楽チン成績評価のスズメー<夏期FD・SDスキルアップ講座>	8月30日(金)		I-009	p.48
愛媛大学	講義のための話し方入門<夏期FD・SDスキルアップ講座>	8月30日(金)		I-010	p.46
愛媛大学	Adobe Premiere Elementsを使った動画教材作成法<夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月3日(火)		I-011	p.53
愛媛大学	パワーポイント2010基本技・便利技<夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月6日(金)		I-012	p.52
愛媛大学	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門-A RCS動機づけモデルの活用ー<夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月6日(金)		I-013	p.49
愛媛大学	大人数講義法の基本ー遠隔配信プログラムー<夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月10日(火)		I-014	p.47
愛媛大学	教職員のためのPowerPoint-分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方ー<夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月13日(金)		I-015	p.52
愛媛大学	効果的なeラーニングの活用方法<夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月17日(火)		I-016	p.38

大学名	プログラム名	日程	遠隔配信	プログラムNo.	ページ
愛媛大学	聴覚障がい学生支援における合理的配慮とは<夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月17日(火)		I-017	p.54
愛媛大学	eラーニング入門-Moodleソフトを活用してきめ細やかな学習支援を実現しよう<夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月20日(金)		I-018	p.53
愛媛大学	グラフィック・シラバスの作成方法<夏期FD・SDスキルアップ講座>	8月下旬(SP0Dフォーラム)		I-019	p.22
愛媛大学	学習評価の基本<夏期FD・SDスキルアップ講座>	8月下旬(SP0Dフォーラム)		I-020	p.25
愛媛大学	効果的なグループワークの進め方<夏期FD・SDスキルアップ講座>	8月下旬(SP0Dフォーラム)		I-021	p.35
愛媛大学	大人数講義法の基本<夏期FD・SDスキルアップ講座>	8月下旬(SP0Dフォーラム)		I-022	p.46
愛媛大学	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	1月中旬	遠隔	I-023	p.47
愛媛大学	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<西四国対象>	9月17日(火)~18日(水)		I-024	p.42
愛媛大学	高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	11月15日(金)~17日(日)		I-025	p.43
愛媛大学	ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ	7月8日(月)		I-026	p.44
愛媛大学	アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ	9月17日(火)~18日(水)		I-027	p.44
愛媛大学	ファカルティ・ディベロッパー養成研修	10月4日(金)~6日(日)		I-028	p.59
愛媛大学	教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ	9月12日(木)~13日(金)		I-029	p.76
愛媛大学	教育系外部資金獲得のための申請書作成ワークショップ	3月中		I-030	p.55
愛媛大学	愛媛大学教育改革シンポジウム	1~3月中		I-031	p.81
愛媛大学	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅠ)第1回	5月9日(木)~10日(金)		I-032	p.62
愛媛大学	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅠ)第2回	10月17日(木)~18日(金)		I-033	p.63
愛媛大学	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅡ)	9月26日(木)~27日(金)		I-034	p.64
愛媛大学	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅢ)	7月4日(木)~5日(金)		I-035	p.65
愛媛大学	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(共通科目)	12月上旬		I-036	p.66
愛媛大学	次世代リーダー養成ゼミナール(第1回)	5月23日(木)~25日(土)		I-037	p.68
愛媛大学	高等教育トップリーダーセミナー	8月下旬(SP0Dフォーラム中)		I-038	p.70
愛媛大学	学務系職員養成プログラム研修(レベルⅠ)	8月下旬(SP0Dフォーラム中)		I-039	p.67
愛媛大学	学務系職員養成プログラム研修(レベルⅡ)	7月中旬		I-040	p.67
愛媛大学	メンタルヘルス研修	6月上旬		I-041	p.56
愛媛大学	高等教育機関における安全衛生	9月中		I-042	p.56
愛媛大学	講師養成研修	6月13日(木)~14日(金) 11月8日(金)		I-043	p.73
愛媛県立医療技術大学	学生の学び意欲を引き出す授業とは?	7月2日(火)		I-044	p.49
聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	8月30日(金)		I-045	p.71
松山大学	教育の質保証と学習成果アセスメント	6月20日(木)		I-046	p.55
今治明德短期大学	学習意欲を高める授業づくりー学生はどんなときに学んでいるのか?ー	9月18日(水)		I-047	p.26
新居浜工業高等専門学校	担任教員に求められることー担任スキル開発ワークー	6月11日(火)		I-048	p.39
高知大学	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	9月2日(月)~3日(火)		Y-001	p.21
高知大学	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザインー考え方と進め方(秋季FDセミナー)	1月30日(水)		Y-002	p.35
高知大学	コミュニケーションで知識を蓄えるTBLチーム基盤型学習法(秋季FDセミナー)	9月6日(金)		Y-003	p.33
高知大学	成績評価とフィードバックー評価の原則からルーブリック評価まで(秋季FDセミナー)	9月12日(木)	遠隔	Y-004	p.25
高知大学	学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方<春季FDセミナー>	1月22日(水)		Y-005	p.23
高知大学	授業効果を高めるために授業の最初にすべきこと<春季FDセミナー>	3月20日(木)		Y-006	p.28
高知大学	初年次科目のためのグループワークの技法<春季FDセミナー>	3月26日(水)		Y-007	p.36
高知大学	能動的学習支援者必須!グループワークのためのファシリテーション入門<春季FDセミナー>	3月27日(木)		Y-008	p.36
高知大学	ファシリテーション力養成道場	9月26日(木)~27日(金) 2月7日(金)~8日(土)		Y-009	p.77
高知大学	TA講習	9月30日(月), 3月31日(月)		Y-010	p.78
高知大学	大学職員のための企画力養成講座	7月18日(木)		Y-011	p.72
高知県立大学・高知短期大学	職員相互の公開授業のあり方	9月上旬		Y-012	p.41
高知県立大学・高知短期大学	スタッフ・ポートフォリオ入門ー職員と大学が共に輝くためにー	9月中		Y-013	p.70
高知工科大学	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	7月26日(金)		Y-014	p.72
高知学園短期大学	授業に活かせる理解と記憶の教育学	9月6日(金)		Y-015	p.29
高知工業高等専門学校	担任教員に求められることー担任スキル開発ワークー	8月1日(木)		Y-016	p.39
南大阪コンソーシアム(会場提供)	次世代リーダー養成ゼミナール(第2回)	8月1日(木)~3日(土)		Y-017	p.68

テーマ別プログラム一覧

プログラム名〈FDプログラム〉	レベル・フェーズ			開催場所	ページ
	ミクロ	ミドル	マクロ		
授 業 の 基 本					
教育力開発基礎プログラム	IⅡ			徳島大学	p.18
新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	IⅡ			香川大学	p.19
第20回授業デザインワークショップ	IⅡ			愛媛大学	p.20
第21回授業デザインワークショップ	IⅡ			愛媛大学	p.20
学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	IⅡ			高知大学	p.21
学生の学びを促すシラバスの書き方	IⅡ			香川大学	p.22
グラフィック・シラバスの作成方法〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.22
学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	IⅡ			愛媛大学	p.47
学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方〈春季FDセミナー〉	IⅡ			高知大学	p.23
基礎から学ぶ学習評価法	IⅡ			香川大学	p.23
基礎から学ぶ学習評価法	IⅡ			高松大学・高松短期大学	p.24
学生の能力を高める評価法のコツ〈春期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.24
ルーブリック評価入門ーブレない・速い・楽チン成績評価のススメー〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.48
学習評価の基本〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.25
成績評価とフィードバックー評価の原則からルーブリック評価までー〈秋季FDセミナー〉	IⅡ			高知大学	p.25
大人数講義を魅力的にするテクニック	IⅡ			香川大学	p.26
大人数講義法の基本ー遠隔配信プログラムー〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.47
大人数講義法の基本〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.46
学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門ーARCS動機づけモデルの活用ー	IⅡ			徳島大学	p.48
学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門ーARCS動機づけモデルの活用ー〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.49
学生の学び意欲を引き出す授業とは？	IⅡ			愛媛県立医療技術大学	p.49
学習意欲を高める授業づくりー学生はどんなときに学んでいるのか？ー	IⅡ			今治明德短期大学	p.26
学生の学び意欲を引き出す授業とは？	IⅡ			阿南工業高等専門学校	p.27
学習動機を高める第1回目の授業づくり〈春期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.27
授業に活かせる理解と記憶の教育学	IⅡ			香川県立保健医療大学	p.28
授業に活かせる理解と記憶の教育学	IⅡ			高知学園短期大学	p.29
動機を高め記憶に残る講義法ー理解・記憶・動機づけの理論ー〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.50
「プレゼンテーションの方法」の教え方	IⅡ			香川大学	p.29
「レポートの書き方」の教え方	IⅡ			香川大学	p.30
「日本語技法」の教え方①	IⅡ			香川大学	p.30
「日本語技法」の教え方②	IⅡ			香川大学	p.31
「情報整理の方法」の教え方	IⅡ			香川大学	p.31
学生を眠らせない講義法のコツ〈春期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.50
教室の雰囲気を変えるクラスルーム・コントロール術〈春期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.32
授業効果を高めるために授業の最初にすべきこと〈春季FDセミナー〉	IⅡ			高知大学	p.28
講義のための話し方入門〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.46
教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法	IⅡ			徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	p.32
教職員のためのPowerPointー分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方ー	IⅡ			香川短期大学	p.51
教職員のためのPowerPointー分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方ー〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.52
参 加 型 学 習					
コミュニケーションで知識を蓄えるTBLチーム基盤型学習法〈秋季FDセミナー〉	IⅡ			高知大学	p.33
学生の参加を促す授業方法	IⅡ			香川大学	p.33
初年次教育をアクティブに動かす方法	IⅡ			香川大学	p.37
協同学習の基本(入門編)	IⅡ			香川大学	p.34
授業へのグループワークの効果的な導入	IⅡ			香川大学	p.34
効果的なグループワークの進め方〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.35
講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザインー考え方と進め方ー〈秋季FDセミナー〉	IⅡ			高知大学	p.35
初年次科目のためのグループワークの技法〈春季FDセミナー〉	IⅡ			高知大学	p.36
能動的学習支援者必須！グループワークのためのファシリテーション入門〈春季FDセミナー〉	IⅡ			高知大学	p.36
クリッカーで教育・研究が変わる！	IⅡ			香川大学	p.51
I C T					
クリッカーで教育・研究が変わる！	IⅡ			香川大学	p.51
教職員のためのPowerPointー分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方ー	IⅡ			香川短期大学	p.51
教職員のためのPowerPointー分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方ー〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.52
パワーポイント2010基本技・便利技〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.52

LMS(Moodle)の講義への活用術	I II			香川大学	p.37
効果的なeラーニングの活用方法<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.38
eラーニング入門-Moodleソフトを活用してきめ細やかな学習支援を実現しよう<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.53
Adobe Premiere Elementsを使った動画教材作成法<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.53
多様な学生への支援					
聴覚障がい学生支援における合理的配慮とは<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.54
英語で授業をしたい教員のためのワークショップ<夏期FD・SDスキルアップ講座>	I II			愛媛大学	p.38
高専プログラム					
担任教員に求められることー担任スキル開発ワークー	I II			新居浜工業高等専門学校	p.39
担任教員に求められることー担任スキル開発ワークー	I II			高知工業高等専門学校	p.39
高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ				愛媛大学	p.43
評価・アセスメント					
マンネリ化しない公開授業の秘訣ー公開授業の効果的実践方法ー	I II	I II III IV		四国大学・四国大学短期大学部	p.40
授業アンケートを見直しませんか?ーアンケートの効果的実施と活用方法ー	I II	I II III IV		徳島工業短期大学	p.40
教育の質保証と学習成果アセスメント	I II	I II III IV		松山大学	p.55
職員相互の公開授業のあり方	I II	I II III IV		高知県立大学・高知短期大学	p.41
ファカルティ・ディベロップメント					
FDファシリテーター(FD担当者)養成研修		I II III IV		徳島大学	p.58
ファカルティ・ディベロッパー養成研修		I II III IV		愛媛大学	p.59
教育系外部資金獲得のための申請書作成ワークショップ		I II III IV		愛媛大学	p.55
総合プログラム					
大学教育カンファレンスin徳島	I II III IV	I II III IV	I II	徳島大学	p.80
愛媛大学教育改革シンポジウム	I II III IV	I II III IV	I II	愛媛大学	p.81
SPODフォーラム2013	I II III IV	I II III IV	I II	愛媛大学	p.82
プレFD					
教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ	I II			愛媛大学	p.76
ファシリテーション力養成道場	I II			高知大学	p.77
TA講習	I			高知大学	p.78
ポートフォリオ					
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<東四国対象>				徳島大学	p.41
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<西四国対象>				愛媛大学	p.42
高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ				愛媛大学	p.43
ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ				愛媛大学	p.44
アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ				愛媛大学	p.44

プログラム名<SDプログラム>	開催場所	ページ
職場における多様性と健康		
メンタルヘルス研修	愛媛大学	p.55
高等教育機関における安全衛生	愛媛大学	p.56
ビジネススキル		
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅠ)第1回	愛媛大学	p.62
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅠ)第2回	愛媛大学	p.63
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅡ)	愛媛大学	p.64
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅢ)	愛媛大学	p.65
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(共通科目)	愛媛大学	p.66
学務系職員養成プログラム研修(レベルⅠ)	愛媛大学	p.67
学務系職員養成プログラム研修(レベルⅡ)	愛媛大学	p.67
大学職員のための企画力養成講座	高知大学	p.72
若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	香川大学	p.71
若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	p.71
若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	高知工科大学	p.72
スタッフ・ポートフォリオ入門ー職員と大学が共に輝くためにー	高知県立大学・高知短期大学	p.70
リーダーシップ・組織開発		
次世代リーダー養成ゼミナール(第1回)	愛媛大学	p.68
次世代リーダー養成ゼミナール(第2回)	南大宮コンソーシアム(金曜夜校)	p.68
次世代リーダー養成ゼミナール(第3回)	香川大学	p.68
次世代リーダー養成ゼミナール(第4回)	徳島大学	p.68
高等教育トップリーダーセミナー	愛媛大学	p.70
講師養成研修	愛媛大学	p.73

SPOD加盟校内講師派遣プログラム一覧

大 学 等 名	プログラム名	対象校	区分	ページ
徳 島				
徳島大学	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン (ID) 入門 -ARCS動機づけモデルの活用-	SPOD全加盟校	FD*/SD	p.48
鳴門教育大学	FD・SDを効果的に進める組織づくり-事例紹介とお悩み相談-	学内向け	FD/SD	
四国大学・四国大学短期大学部	マンネリ化しない公開授業の秘訣-公開授業の効果的実施方法-	SPOD全加盟校	FD	p.40
徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	教えないで成績を上げるTBL (チーム基盤型学習) という授業方法	SPOD全加盟校 (徳島・香川県内)	FD	p.32
徳島工業短期大学	授業アンケートを見直しませんか?-アンケートの効果的実施と活用方法-	SPOD全加盟校	FD	p.40
阿南工業高等専門学校	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは?	SPOD加盟校 (高専のみ)	FD	p.27
香 川				
香川大学	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	SPOD全加盟校	SD	p.71
香川県立保健医療大学	授業に活かせる理解と記憶の教育学	SPOD全加盟校	FD	p.28
四国学院大学	FD・SDを効果的に進める組織づくり-事例紹介とお悩み相談-	学内向け	FD/SD	
高松大学・高松短期大学	基礎から学ぶ学習評価法	SPOD全加盟校	FD	p.24
香川短期大学	教職員のためのPowerPoint -分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方-	SPOD全加盟校	FD/SD	p.51
香川高等専門学校	FD・SDを効果的に進める組織づくり-事例紹介とお悩み相談-	学内向け	FD/SD	
愛 媛				
愛媛大学	教職員のためのPowerPoint -分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方-	SPOD全加盟校	FD/SD	p.52
愛媛県立医療技術大学	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは?	SPOD全加盟校	FD	p.49
聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	SPOD全加盟校	SD	p.71
松山大学・松山短期大学	教育の質保証と学習成果アセスメント	SPOD全加盟校	FD/SD	p.55
松山東雲女子大学・松山東雲短期大学	FD・SDを効果的に進める組織づくり-事例紹介とお悩み相談-	学内向け	FD/SD	
今治明德短期大学	学習意欲を高める授業づくり-学生はどんなときに学んでいるのか?-	SPOD全加盟校	FD	p.26
環太平洋大学短期大学部	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	学内向け	FD/SD	
新居浜工業高等専門学校	担任教員に求められること-担任スキル開発ワーク-	SPOD加盟校 (高専のみ)	FD	p.39
弓削商船高等専門学校	クラスルームコントロール	学内向け	FD	
高 知				
高知大学	大学職員のための企画力養成講座	SPOD全加盟校	SD	p.72
高知県立大学・高知短期大学	スタッフ・ポートフォリオ入門-職員と大学が共に輝くために-	SPOD全加盟校	SD	p.70
高知工科大学	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	SPOD全加盟校	SD	p.72
高知学園短期大学	授業に活かせる理解と記憶の教育学	SPOD全加盟校	FD	p.29
高知工業高等専門学校	担任教員に求められること-担任スキル開発ワーク-	SPOD全加盟校	FD	p.39

【本件に関するお問い合わせ先】

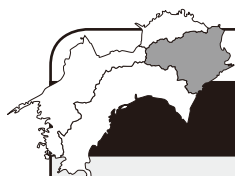
SPOD事務局 (愛媛大学教育企画課)

TEL : 089-927-9154 E-mail : spod@stu.ehime-u.ac.jp



FDプログラム

(教員対象)



プログラム番号 T-002

教育力開発基礎プログラム

FD

*主な対象

新任教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

1. FD活動の理念、活動計画を理解する。
2. 授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する。
3. 授業研究の仕方を理解し、実践できるようにする。
4. FD参加者同士の仲間づくりをする。

*講師

川野卓二、宮田政徳、香川順子、吉田博 他 (徳島大学教育改革推進センター)

*日時

8月30日(金)~31日(土)

*場所

徳島大学 大学開放実践センター
2階 (6号館 201)

*受講定員

30名

*主催

徳島大学FD委員会

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

徳島大学 教育改革推進センター
E-mail: t-spod@cue.
tokushima-u.ac.jp

内容

1日目

1. オリエンテーション
研修のねらいと意義
進め方とスタッフ紹介
2. アイスブレイク
参加者自己紹介・交流
3. ワークショップ
よい授業・悪い授業
理想の授業と現状から授業の課題を探る
4. 講義Ⅰ よりよい授業実施のために
授業設計と評価
シラバス・授業計画書の作成方法
模擬授業の計画と準備
5. ワークⅠ 模擬授業・授業検討会
グループごとに分かれて実施



2日目

6. 模擬授業実施 (全体共有)
グループ代表による模擬授業
7. プログラムのまとめ
活動のふりかえり
修了証授与
アンケート

(備考)

※二日間続けての参加が必須です。
一日だけの参加はできません。



▶参考資料

徳島大学FD推進ハンドブック (第1巻~第4巻)

▶受講者の声 (2012年度 アンケートから得られた意見)

- ・教育内容の質的向上を促す要因をより実践的なレベルで指導して頂けたのが良かった。
- ・授業する自分を客観的に見る機会ができ、建設的な意見をもらう事ができた。
- ・他人の授業を見て、自分の授業にとり入れられる所など、学ぶべき所が多かった。
- ・学生の立場でも模擬授業に参加したことで、つまずいたり、困ったりするポイントが分かったような気がした。
- ・シラバス作成から授業計画の立て方まで細かくまとめられていた冊子は良かった。今まで自己流でやっていた所の改善点が浮きぼりになった。

▶準備物等

事前に普段の授業 (あるいは今後担当予定、担当したい授業) のシラバス、ある日の授業計画 (講義1回分) の準備が必要になります。また、初日に模擬授業を行いますので、ご自身が選ばれた担当授業の中からワンシーンを選び、スライド等をご準備頂くことになります。

プログラム番号 K-001

新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」

FD

***主な対象**

新規採用された教員（大学での授業担当経験5年以上を除く）
参加を希望する教員

***対象校**

SPOD全加盟校

***目標**

授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連のプロセスをグループワーク形式で体験し、授業実施のために必要な能力を身につける

***講師**

香川大学大学教育開発センター
教員

***日時**

9月12日(木)～13日(金)

***場所**

休暇村讃岐五色台（香川県坂出市）

***受講定員**

30名

***主催**

香川大学大学教育開発センター

***メー**

開講日2週間前、先着順

***申込先・問合せ**

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

内容

1日目

1. オリエンテーション
2. アイスブレイク
3. グループワークⅠ「学生の考える良い授業と悪い授業」
4. 講義Ⅰ「シラバスの書き方」
目標設定の仕方
授業計画の立て方
5. グループワークⅡ「全学共通科目の開発Ⅰ」
目標設定
授業計画
シラバス作成
6. 講義Ⅱ「様々な授業方法」
講義形式のメリット・デメリット
双方向型授業のコツ
マイクロティーチング
7. 講義Ⅲ「よりよい成績評価の仕方」
成績評価の目的
評価の方法と評価対象
8. グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」
授業計画と評価計画
9. グループ発表Ⅰ「中間発表」
10. グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」
授業計画案作成



2日目

11. グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」
役割決定
授業の練習
12. グループ発表Ⅱ「ミニ授業」



(※宿泊研修です。1日だけの参加はできません。)

▶参考資料

『愛媛大学FDハンドブック もっと!! 授業を良くする』第1巻改訂第2版
『愛媛大学FDハンドブック もっと!! 授業を良くする』第2巻改訂第2版

▶受講者の声

〇もっとも学んだことは、学生のために、学生が理解できるようなシラバスを作ることが大切である、という点である。シラバスが、学生に説明を行うためのものであるという認識がなかったわけではなく、自分の考えていることをどのように表現するかに力点が置かれ、この授業を受講することによって学生がどのような力を身に付けることができるのか、どのような学習を行うのか、どのような課題があるのかなど、きめ細かく説明することの大切さを学びました。シラバスは、教師の学生に対する約束事であるということだけにとどまらず、学生が学びの指針となるものでなければならない。十分に検討を加え、学生にとって良いシラバスが書けるとともに、学生が満足できる授業が行えるよう授業内容や授業形態、課題の提示などを工夫していきたいと思う。

〇これまではシラバス作成や15回の授業の組み立てを自己流でおこなっていたが、本ワークショップで授業組み立て方法やシラバス作成方法のポイントを学ぶことができた。また、グループワークで適宜実施することで、授業構築の訓練になった。ここでは、様々なバックグラウンドをもった教員と話し合うことで、様々な視点を補うことができた。今後の教育実践では、早速、来年度のシラバス作成に適用してみたい。また、演習等でグループディスカッションの方法を取り入れられたいか検討したい。

プログラム番号 I-001, I-002

授業デザインワークショップ

FD

*主な対象

- ・愛媛大学教員のうち、下記のいずれかに該当する者
- ①新規採用された教員（大学での授業担当経験5年以上を除く）
- ②新たに大学の授業を担当した教員
- ③昨年度対象者で都合により欠席した該当教員
- ④参加を希望する教職員・SPOD加盟校教職員のうち、参加を希望する者

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

1. 適切な目的・目標設定ができるようになる。
2. わかりやすいシラバスを書けるようになる。
3. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
4. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
5. 学習者の学習を促す要因を説明できる。
6. グループ学習の手法を、自らの授業で導入するためのヒントを得る。

*講師

小林直人、佐藤浩章、山田剛史、大竹奈津子（愛媛大学教育企画室）、仲道雅輝（愛媛大学総合メディアセンター兼教育企画室）

*日時

7月6日(土)～7月7日(日)(第20回)
9月2日(月)～9月4日(水)(第21回)

*場所

久万高原ふるさと旅行村
(7月, 第20回)
愛媛大学愛大ミュージアムアクティブ・ラーニングスペース2
(9月, 第21回)

*受講定員

7月 20名
9月 30名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

内容 (二日間ワークショップ場合)

1日目

1. オリエンテーション
 - ・研修の目的・目標の確認
 - ・スタッフの紹介とお願い
2. アイスブレイキング
 - ・自己紹介とグループワーク
 - ・アイスブレイキングの意義
3. 講義 I
 - 「シラバスの書き方」
 - ・目的・目標の立て方
 - ・授業計画の立て方
4. グループワーク I
 - 「共通教育科目の開発 I」
 - ・目的・目標設定
 - ・コースデザイン
5. 講義 II
 - 「何が学生の学びを促進するのか？」
6. 講義 III
 - 「様々な授業方法」
 - ・講義形式のメリット・デメリット
 - ・講義形式以外の授業方法
7. 講義 IV
 - 「よりよい成績評価の仕方」
 - ・成績評価の目的
 - ・評価方法と評価対象
8. グループワーク II
 - 「共通教育科目の開発 II」
 - ・コースデザイン
 - ・学習評価
9. 中間発表
10. グループワーク III, IV
 - 「共通教育科目の開発 III, IV」
 - ・授業計画案作成

2日目

11. グループワーク V
 - 「共通教育科目の開発 IV」
 - ・ミニ授業練習
12. ミニ授業
 - 「ミニ授業（導入の10分）」
 - ・授業紹介
 - ・ミニ授業
 - ・討議・検討
13. 振り返り



※第20回は1泊2日の宿泊研修。

※第21回は3日間宿泊なしの研修。第20回と同じ内容となっております。

▶参考資料

『愛媛大学FDハンドブック もっと!!授業を良くする』第1巻（オリジナルテキスト）
『愛媛大学FDハンドブック もっと!!授業を良くする』第2巻（オリジナルテキスト）
佐藤浩章 編『大学教員のための授業手法とデザイン』（玉川大学出版部）

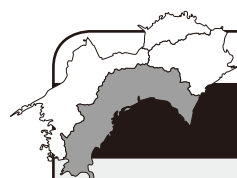
▶受講者の声

「当初はあまり乗り気ではなかったが、スタッフの教育に対する姿勢と知識に驚かされてとても有意義な時間が過ごせました。ありがとうございました。」

「専門を異にする他学部の教員と専門外のシラバスを作るという作業は、様々な考え方や物の見方に触れることができ、刺激に満ちたものだった。」

「キャンパスを離れた自然の豊かな高原で、日常の煩雑な業務で疲労した心身をリフレッシュすることができました。タイトスケジュールにより内容の充実した研修が展開されたことにより、参加したことに一層大きな意義を感じました。数多くのグループワークを通して、学生の立場から改めて授業運営を見つめ直すことができました。」

「研修を通じて、授業の意味や教員の役割を改めて考えることができ、学生の視点やレディネスについて意識するようになった点が良かったと思います。独り善がりな授業にしたいくないと強く思うようになりました。今回学んだことは、断続的に実践していきたいと思います。私は授業経験がなく不安を感じながら参加しましたが、分かりやすい講義内容だし、グループワークにも参加しやすく、構えなくても参加できる研修でした。このような有意義なワークショップにもっと多くの教員が参加することを望みます。」



プログラム番号 Y-001

学生の学びを支援する授業準備ワークショップ

FD

*主な対象

大学での授業担当経験 5 年未満の教員、新たに大学の授業を担当した教員および参加を希望する教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

塩崎俊彦、立川明、俣野秀典（高知大学総合教育センター）

*日時

9月2日(月)～9月3日(火)(2日間)
9:00～17:00

*場所

高知大学共通教育棟3号館
1階310教室

*受講定員

40 名

*主催

高知大学総合教育センター大学
教育創造部門

*メー

要問い合わせ

*申込先・問合先

高知大学学務部学務課
E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

1. 適切な授業の目的・目標設定ができるようになる。
2. わかりやすいシラバスを書けるようになる。
3. 学習成果（ラーニング・アウトカムズ）を意識して授業デザインができるようになる。
4. 学生参加型のグループ作業を自らの授業で導入することができるようになる。

内容

1日目

1. オリエンテーション／アイスブレイク
2. グループワーク「良い授業とは？」
3. ミニレクチャー「目標設定と授業計画、シラバスの書き方」
4. グループワーク「共通教育科目の開発①（目標設定と授業計画）」
5. ミニレクチャー「様々な授業形態、それぞれのメリットとデメリット」
6. ミニレクチャー「様々な成績評価、その目的と方法」
7. グループワーク「共通教育科目の開発②（授業計画と評価の方法・スケジュール）」
8. グループ発表「グループワーク中間報告」
9. グループワーク「共通教育科目の開発③（授業の計画・指導案）」

2日目

10. グループワーク「共通教育科目の開発④（最終発表準備）」
11. グループ発表「新科目の紹介とミニ授業」
12. ふりかえり



▶参考資料

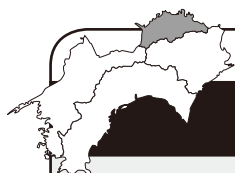
『大学教員のための授業方法とデザイン』（佐藤浩章編／玉川大学出版部）

『FDハンドブック Tips集 1～6』（高知大学総合教育センター）

『授業をもっと良くできる！授業改善アンケート、ピア・レビュー、授業参観の進め方』（高知大学総合教育センター）

▶受講者の声

○シラバスの作り方（目的・目標・成績評価の書き方など）や注意点がよくわかった。
○「評価」も期末レポート（試験）の一発勝負だったので、今後は工夫しようと思いました。
○初めてグループワークを経験しましたが、メンバーと短時間で親密になることができたので良かったです。グループワークを自分の講義に活かそうと思いました。
○他の大学の方とグループワークの中で話ができて、授業の進め方や方法についてヒントを教わり、各々が抱えている問題点も共有できて良かった。
○グループワーク等に具体的なコメントを返して下さっており、今後役に立つコメントを受講中多く頂きました。



プログラム番号 K-006

学生の学びを促すシラバスの書き方

FD

主な対象

教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

葛城浩一（香川大学大学教育開発センター）

日時

12月16日(月)13:00~14:30

場所

香川大学 生涯学習教育研究センター
第1講義室（研究交流棟6階）

受講定員

50名

主催

香川大学大学教育開発センター

メー切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail: gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

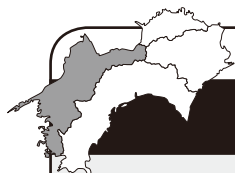
- ・シラバスの定義を説明することができる。
- ・適切な目的を書くことができる。
- ・適切な目標を書くことができる。
- ・効果的な学習を促すスケジュールをデザインできる。
- ・適切な評価方法を書くことができる。

内容

1. シラバスとは何か
2. シラバスの項目例
3. 授業科目名の書き方
4. 目的の書き方
5. 目標の書き方
6. 評価に関わる情報の書き方
7. 授業計画の書き方
8. 教材に関わる情報の書き方
9. オフィスアワーの書き方
10. 受講のルールの書き方

▶準備物

ご自分の授業のシラバスをご持参ください。



プログラム番号 I-019

グラフィック・シラバスの作成方法〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉

FD

主な対象

これから授業を担当する教員、
これまで作ったシラバスをより
良いものにしたい教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

佐藤浩章（愛媛大学教育企画室）

日時

SPODフォーラム期間中

場所

愛媛大学愛大ミュージズ

受講定員

40名

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育
企画室（教職員能力開発拠点）

メー切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. テキスト・シラバスのデメリットを述べるができる。
2. グラフィック・シラバスのメリットを述べるができる。
3. 自身のテキスト・シラバスをグラフィック・シラバスに表現することができる。

内容

一般的な文字で記述されたシラバスでは、学習内容の構造を示すのには限界があります。構造化されていない知識は学生の記憶には残りません。シラバスを図示化することで、学習構造はより明確になり、学生の理解度を高め、記憶度をあげることができます。

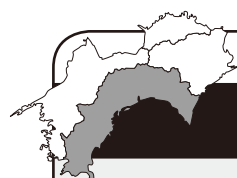
グラフィック・シラバスを作成する過程で、教員自身は学習内容の重複や欠損部分を知ると同時に、本当に学習し

てもらうべき部分（キーコンセプト）はどこかを明確に理解し、扱うべきトピックや教育順序の変更点を見出すことができます。

1. テキスト・シラバスのデメリット
2. グラフィック・シラバスとは何か
3. グラフィック・シラバスのメリット
4. グラフィック・シラバスの作成と相互ブラッシュアップ

▶準備物

ミニレクチャーの後は、ご自身のグラフィック・シラバスを作成する時間となります。参加者は、ご自分の授業のシラバスを持参ください。作成はこちらが用意する紙上で行いますが、パソコン上での作業を希望される方はノートパソコン等を持参ください。



プログラム番号 Y-005

学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方 (春季FDセミナー)

FD*

*主な対象

授業改善をしたい教員
大学の教員を目指す学生

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

塩崎俊彦, 立川明, 俣野秀典 (高知大学総合教育センター)

*日時

1月22日(水) 13:30~16:00

*場所

高知大学共通教育棟3号館1階
310教室 (予定)

*受講定員

30名

*主催

高知大学総合教育センター大学
教育創造部門

*メー

開講日2週間前, 先着順

*申込先・問合先

高知大学学務部学務課
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

- ・学習成果 (ラーニングアウトカムズ) を意識してシラバスを書くことができる。
- ・時間外学習を意識したシラバスを書くことができる。

内容

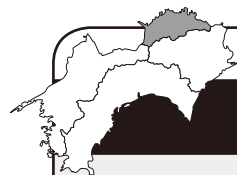
- ・ミニ講義「なぜ良いシラバスを書く必要があるか？」
- ・このワークショップの目標とプログラム
- ・レクチャーおよびワークショップ
 - ・良い目標の書き方
 - ・目標にリンクした成績評価の書き方
 - ・目標にリンクした授業計画の書き方
 - ・その他の項目の書き方

▶準備物について

ご自身のシラバス

▶参考資料

「Faculty Development Handbook Vol.1 第二版 〜もっと！授業を良くするために〜」愛媛大学教育企画室



プログラム番号 K-007

基礎から学ぶ学習評価法

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

佐藤慶太 (香川大学大学教育開発センター)

*日時

12月16日(月) 14:40~16:10

*場所

生涯学習教育研究センター第1
講義室 (研究交流棟6階)

*受講定員

50名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メー

開講日2週間前, 先着順

*申込先・問合先

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail: gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

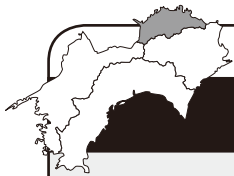
1. 学習評価の意義と原則について説明することができる。
2. 多様な学習評価方法を知り, 自らの授業で活用できる。
3. 成績評価において注意すべき点を説明することができる。

内容

1. 成績評価の意義・目的
どうして成績評価をするのか〔グループワーク1〕
2. 成績評価の原則
いつ, なにを, どのように評価するのか
総括的評価と形成的評価
3. さまざまな評価方法
学習目的に応じた評価方法〔グループワーク2〕
よい成績評価の条件
成績評価のための工夫
ルーブリックを作ってみよう〔グループワーク3〕
4. 評価の際の注意点
成績点と合否判定
GPA制度について
不正行為防止のために

▶受講者の声

- ・ルーブリックなど知ってはいたが, 自分のレポート評価に具体的ににつながる観点がもてた。
- ・評価方法や基準について作業したり, 他の先生の考えを聞くことができた。



プログラム番号 K-019

基礎から学ぶ学習評価法

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

佐藤慶太（香川大学大学教育開発センター）

*日時

9月18日(水)9:00~12:00

*場所

2号館1階
2105・2106講義室

*受講定員

60名

*主催

高松大学・高松短期大学、SPOD

*その他

なし

*申込先・問合せ

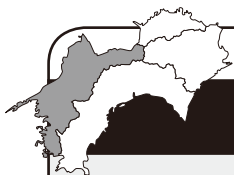
高松大学・高松短期大学 総務部企画課
E-mail: kikaku@takamatsu-u.ac.jp

目標

1. 学習評価の意義と原則について説明することができる。
2. 多様な学習評価方法を知り、自らの授業で活用できる。
3. 成績評価において注意すべき点を説明することができる。

内容

1. 成績評価の意義・目的
どうして成績評価をするのか〔グループワーク1〕
2. 成績評価の原則
いつ、なにを、どのように評価するのか
総括的評価と形成的評価
3. さまざまな評価方法
学習目的に応じた評価方法〔グループワーク2〕
よい成績評価の条件
成績評価のための工夫
ルーブリックを作ってみよう〔グループワーク3〕
4. 評価の際の注意点
成績点と合否判定
GPA制度について
不正行為防止のために



プログラム番号 I-005

学生の能力を高める評価法のコツ（春期FD・SDスキルアップ講座）

遠隔

FD

*主な対象

学習評価に関わる教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

山田剛史（愛媛大学教育企画室）

*日時

4月5日(金)13:00~14:00

*場所

愛媛大学1階アクティブラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

*その他

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. 学習評価の原則を説明することができる。
2. 形成的評価と総括的評価の違いと重要性を説明できる。
3. 多様な学習評価方法を知り、自らの授業で活用できる。

内容

1. 学習評価の基礎知識～目的・原則・方法～
2. よいテストのための条件
3. 様々な学習評価
 - ・ルーブリック評価
 - ・学生の自己評価・相互評価

▶参考資料

ルーブリック評価の例			
項目	レベルA	レベルB	レベルC
準備	すべての適切な材料が揃っており、レポートに配置されている。	すべての材料が出されているが、すべてが配置されているわけではない。もしくは不足している途中で補充しなくてはならない。	必要な材料がなく、レポートへの配置もない。大きな手直しがある。
手順	手順は明確なものとよく書かれており、適切である。	手順は多少と誤りよく工夫することが可能であるが、不適切である。	不適切な手順である。
安全性	安全に保たれ、安全である。	たまたま安全性は保たれたが、リスクを伴った方法である。	危険な行為があった。
説明			
・			
・			
・			

プログラム番号 I-020

学習評価の基本〈夏期 FD・SD スキルアップ講座〉

FD

*主な対象

学習評価に関わる教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

1. 学習評価の原則を説明することができる。
2. 形成的評価と総括的評価の違いと重要性を説明できる。
3. 多様な学習評価方法を知り、自らの授業で活用できる。

*講師

山田剛史(愛媛大学教育企画室)

*日時

SPODフォーラム期間中

*場所

愛媛大学愛大ミューズ

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

内容

1. 学習評価の基礎知識～目的・原則・方法～
2. よいテストのための条件
3. 様々な学習評価
 - ・ルーブリック評価
 - ・学生の自己評価・相互評価
4. Q&A

▶参考資料

ルーブリック評価の例			
項目	レベルA	レベルB	レベルC
準備	すべての適切な材料が揃っており、レポートに添えられている。	すべての材料が揃っているが、レポートに添えられていない。もしくは不揃いである。	必要な材料がなく、レポートの添えられていない。大きな手直しが必要。
手順	手順は明確なものとよく考えられており、適切である。	手順は多少と手順よく工夫されているが、不適切である。	不適切な手順である。
安全性	安全に保たれており、実施できる。	安全に保たれていないが、リスクを減らす方法がある。	危険な作業があった。
説明			
・			
・			

▶受講者の声

○ヒントに満ちた内容でした。ルーブリックの評価への適用も興味深いだけでなく、学生の自主学習を促す工夫の実例なども参考にして、すぐにでも使えそうです。

○具体例を多く挙げていただいたので、理解するだけでなく自分のフィールドを思い浮かべることが出来ました。

○授業プログラム・計画・デザインの必要性を感じ、今後計画表の中に評価基準・方法を入れていきます。

▶準備物について

可能であれば、ご自身の授業シラバスを持参ください

プログラム番号 Y-004

成績評価とフィードバックー評価の原則からルーブリック評価までー(秋季FDセミナー)

遠隔

FD

*主な対象

目標に準拠した評価方法を習得したい教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

俣野秀典(高知大学総合教育センター)

*日時

9月12日(木) 13:30~15:30

*場所

高知大学総合研究棟2階 会議室3

*受講定員

20人

*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

1. 成績評価の意義と目的を説明することができる。
2. 到達目標にあわせた評価の方法・基準を設定・開発できる。
3. 適切なフィードバックを行うことができる。
4. 客観的かつ厳格な成績評価を心がける。

内容

成績評価について、多様な評価基準を設定することが求められております。ある大学の『シラバス入力手順説明書』では、「具体的な評価基準はルーブリック評価シートを事前に配布し、配点30点とする」との例も示されたりしており、「ルーブリックって何??」と、戸惑われた教員の方も多く聞いております。

そこで、本プログラムは、ルーブリックを含めた教育の評価についての基本的な考え方を理解することを目的として実施されます。

1. 背景

- ・厳格な成績評価
- ・近年の高等教育における議論

2. 成績評価

- ・評価の意義と目的
- ・診断的・形成的・総括的評価

・評価規準と評価基準

- ・評価の手順・流れ
- ・さまざまな成績評価の方法

3. ルーブリック評価

- ・ルーブリックとは
- ・ルーブリックの有効性
- ・国内外におけるルーブリックの例
- ・ルーブリック作成ミニ演習

4. フィードバック

- ・フィードバックの意義と目的
- ・フィードバックを促す方法
- ・大人数講義でのフィードバック例

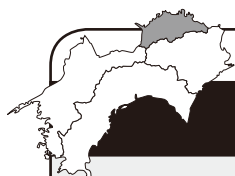
5. まとめ

※ルーブリックとは、「目標に準拠した評価」のための「基準」づくりの方法論であり、評価指標として活用されます。本プログラムでは、学生が何を学習するのかを示す評価規準と学生が学習到達しているレベルを示す具体的な評価基準を示すマトリクスからなる分析的ルーブリックを主に取り上げます。

▶受講者の声

○参加したセミナーで最も目標達成を意識することができた。

○ルーブリック評価のことが分かった！ 特に有効な点が分かった！ ありがとうございます！！



プログラム番号 K-003

大人数講義を魅力的にするテクニック

FD

主な対象

教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

葛城浩一（香川大学大学教育開発センター）

日時

9月17日(火) 13:00～14:30

場所

422講義室（幸町北キャンパス4号館2階）

受講定員

50名

主催

香川大学大学教育開発センター

メー切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

自分の授業で応用可能なコツをひとつ以上持ち帰る。

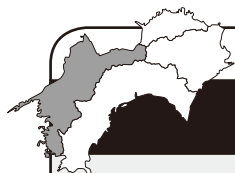
内容

1. 大規模クラスの特異性
2. 構成をしっかり考える
3. 明確に話す
4. 匿名空間にしない
5. ペア／グループ・ワークを挿入する
6. 発問で刺激を
7. 資料配布・回収やテストを効率的に行う
8. 学習を阻害する行為を管理する
9. まとめ



▶受講者の声

- ・具体的な方法やコツを実際に体験も含めて知ることができました。
- ・発問のテクニック、オープン、クローズド、全体、指名、うまく使っていきたいと思います。
- ・発問のスキルが学べた。
- ・学生に対する質問の方法を知ることができた。



プログラム番号 I-047

New!!

学習意欲を高める授業づくりー学生はどんなときに学んでいるのか？ー

FD

主な対象

授業改善に取り組みたい全教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

俣野秀典（高知大学総合教育センター）

日時

9月18日(水) 10:00～12:00

場所

今治明德短期大学会議室または視聴覚室

受講定員

40名

主催

今治明德短期大学FD委員会、SPOD

メー切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

今治明德短期大学FD委員会
E-mail : kouti@meitan.ac.jp

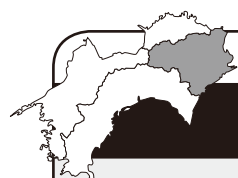
目標

1. 学習意欲におよぼす要因を一つ以上説明できる。
2. 自身の授業をブラッシュアップするためのアイデアを一つ以上持ち帰ることができる。

内容

本プログラムでは、学生の学びへの意欲を手がかりとして、参加メンバーと共に学びながら、自身の授業の学びを高めるために何ができそうかを考えていきます。

1. 学びとは？
2. 学習意欲のデザイン
3. 学習意欲とグループ学習
4. 学生とラポールがとれた授業



プログラム番号 T-011

New!!

学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？

FD

主な対象

全教員

対象校

SPOD加盟校 (高専のみ)

目標

右記参照

講師

岩中貴裕 (香川大学 大学教育
開発センター)

日時

11月下旬

場所

阿南工業高等専門学校4階
マルチメディア室

受講定員

約80名

主催

阿南工業高等専門学校点検・評価
委員会, SPOD

メー切

要問い合わせ

申込先・問合せ

阿南工業高等専門学校総務課
E-mail: s-hosasoumu@
anan-net.ac.jp

目標

学生のやる気を引き出すための理論的な枠組みを理解し、授業に役立つ具体的なアイデアを互いに共有する。

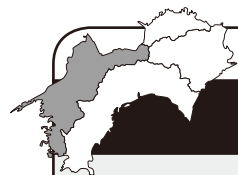
内容

やる気 (学ぶ意欲) は、学生の授業態度、授業外での自主学習の質や量、最終的に学習成果を決定する要因であり、授業を通して学生のやる気を引き出すことは私たちの大切な役割となっている。

DVD教材を使用する、グループ活動を行わせる、ゲーム的要素を盛り込む等、学生のやる気を引き出す方法は様々であるが、その場しのぎの活動になってしまいうと学習成果は期待できない。学生のやる気を引き出しそのやる気を保持するための理論的な枠組みを理解した上で、どのような授業活動を行うのかを講義とワークを通して考える。

▶準備物

本プログラムをよりインタラクティブで実りのあるものにするために、自分の授業において学生のやる気を引き出すためにどのような工夫を行っているのかを簡条書きにしたメモを持参。



プログラム番号 I-004

学習動機を高める第1回目の授業づくり (春期 FD・SD スキルアップ講座)

遠隔

FD

主な対象

学習評価に関わる教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

佐藤浩章 (愛媛大学教育企画室)

日時

4月4日 (木) 13:00~14:00

場所

愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

受講定員

40名

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

メー切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

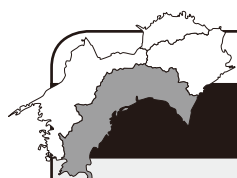
1. 1回目の授業ですべき2つの事を説明できる。
2. 人間関係の緊張関係を低減する方法を複数説明できる。
3. 学習動機を高めるコース・クエスチョンを作成できる。

内容

第1回目の授業を、オリエンテーションをして早めに終了したり、概要はすでにシラバスに掲載していることを理由にすぐに授業を開始してしまっていないか？ 第1回目の授業は、学生の学習動機を高めるために、重要な機会です。第一に人間関係の緊張関係を低減すること (具体的には、教員と学生との距離を縮め、学生同士の人間関係の緊張を短時間で下げる)、第二に学習動機の緊張関係を高めること (具体的には、学期内の授業が終わるまで継続して知的探究心を維持するコース・クエスチョンを問いかけること) で、学生の学習のスタートをより刺激的なものとすることができます。

▶準備物について

参加者は、ご自分の授業のシラバスをご持参ください。



プログラム番号 Y-006

New!!

授業効果をもとめるために授業の最初にすべきこと (春季FDセミナー)

FD*

*主な対象

学生の学ぶ意識を高めたい講義型授業
担当教員。講義型授業をアクティブに
したい教員。教員志望の学生。

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

立川明 (高知大学総合教育センター)

*日時

3月20日(木) 13:30~15:30

*場所

高知大学共通教育棟3号館1階
310教室

*受講定員

60名

*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

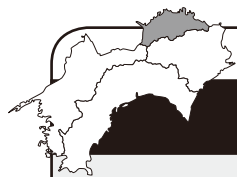
高知大学学務部学務課
E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

各回の授業の最初に何をなすべきか言える。
授業の最初につかう良い問の条件が3つ言える。
授業の最初に使う問を作ることができる。

内容

- ・グループを作ろう!
- ・アイスブレイキングしよう!
- ・学生参加を促す工夫・まずはじめにすること
 - ・サンデル教授の秘密
 - ・問を作る!
 - ・良い問の条件
 - ・World Caféでブラッシュアップ



プログラム番号 K-018

New!!

授業に活かせる理解と記憶の教育学

FD

*主な対象

全教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

佐藤浩章 (愛媛大学教育企画室)

*日時

8月19日(月) 15:00~17:00

*場所

香川県立保健医療大学204講義室

*受講定員

70名

*主催

香川県立保健医療大学FD委員会、SPOD

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

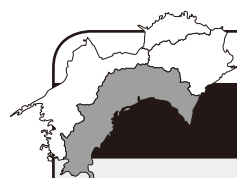
香川県立保健医療大学
E-mail : hokeniryodaigaku@
pref.kagawa.lg.jp

目標

1. 知識獲得のメカニズムを図を使って説明できる。
2. 理解のメカニズムを構成する3つの要素を説明できる。
3. 記憶のメカニズムを構成する3つの要素を説明できる。
4. 自らの授業において、理解と記憶を促進するためにすべきことを1つ以上、見出すことができる。

内容

1. 講義法の意義
2. 知識獲得のメカニズム
3. 理解のメカニズム
 - 3-1. 既有知と関連づける
 - 3-2. 精緻化する
 - 3-3. 注意を喚起する
4. 記憶のメカニズム
 - 4-1. 繰り返す
 - 4-2. 意味づける
 - 4-3. 構造化する
5. 授業への応用ーインストラクショナル・デザイン

プログラム番号 Y-015 **New!!**

授業に活かせる理解と記憶の教育学

FD

*主な対象

効果的に説明する能力を高めたい教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

佐藤浩章(愛媛大学教育企画室)

*日時

9月6日(金)13:00~15:00

*場所

高知学園短期大学711講義室
(7号館1階)

*受講定員

80名

*主催

高知学園短期大学FD委員会,
SPOD

*メ切

要問合せ

*申込先・問合せ

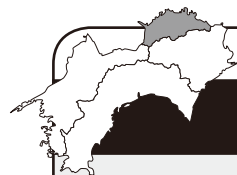
高知学園短期大学教務課
E-mail: kyoumu@
kochi-gc.ac.jp

目標

1. 知識獲得のメカニズムを図を使って説明できる。
2. 理解のメカニズムを構成する3つの要素を説明できる。
3. 記憶のメカニズムを構成する3つの要素を説明できる。
4. 自らの授業において、理解と記憶を促進するためにすべきことを1つ以上、見出すことができる。

内容

1. 講義法の意義
2. 知識獲得のメカニズム
3. 理解のメカニズム
 - 3-1. 既有知と関連づける
 - 3-2. 精緻化する
 - 3-3. 注意を喚起する
4. 記憶のメカニズム
 - 4-1. 繰り返す
 - 4-2. 意味づける
 - 4-3. 構造化する
5. 授業への応用ーインストラクショナル・デザイン



プログラム番号 K-009

「プレゼンテーションの方法」の教え方

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

葛城浩一(香川大学大学教育開
発センター)

*日時

2月28日(金)13:00~14:30

*場所

422講義室(幸町北キャンパス4号館
2階)

*受講定員

50名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メ切

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail: gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

1. プレゼンテーションの方法について学ぶ必要性を述べることができる。
2. わかりやすいプレゼンテーションにする方法を説明することができる。
3. わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。

内容

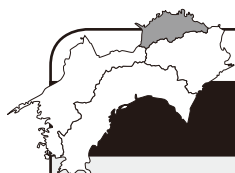
1. はじめに
2. プレゼンテーションって何?
3. わかりやすいコンテンツ(内容)
4. わかりやすくするテクニック(技法)
5. わかりやすくするツール(道具)
6. プレゼンテーションの流れ
7. 聴き手の作法
8. もう一度発表してみよう!
9. まとめ

▶参考資料

香川大学大学教育開発センター編『大学入門ゼミハンドブック』
(参加者には配布いたします。)

▶受講者の声

- ・プレゼンで重要なポイントと教え方を学ぶことが出来ました。
- ・実際に活用できるようなワークの内容が紹介されておりよかった。
- ・具体的な方法がよくわかった。
- ・実際に発表の準備をしてみても、授業のイメージを明確にもつことができた。
- ・プレゼンの姿勢、視線が必要なことが確認できた。(実際はむずかしいけれど)



プログラム番号 K-010

「レポートの書き方」の教え方

FD

主な対象

教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

藤本佳奈（香川大学教育学生支援機構）

日時

2月28日（金）14:40～16:10

場所

422講義室（幸町北キャンパス4号館2階）

受講定員

50名

主催

香川大学大学教育開発センター

メ切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室学修支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

1. レポートの書き方の手順について説明することができる。
2. 出された課題に沿ったレポートを学生に書かせることができる。

内容

1. はじめに
2. レポートと感想文との違い
3. レポート作成の手順
4. レポート作成のルール
5. まとめ

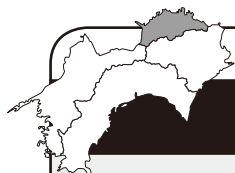
補論. 文献検索の方法

▶参考資料

香川大学大学教育開発センター編『大学入門ゼミハンドブック』（参加者には配布いたします。）

▶受講者の声

- ・学生にさせるワークのイメージがつかめてよかった。
- ・ワークを交えて、学生の視点で受講できたのでよかった。
- ・「レポートの書き方」を学生の視点からとらえなおすことができよかった。
- ・具体的な講義方法がわかった。
- ・具体的な進め方が学べて良かった。



プログラム番号 K-011

「日本語技法」の教え方①

FD

主な対象

教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

高水 徹（香川大学インターナショナルオフィス）

日時

3月4日（火）13:00～14:30

場所

422講義室（幸町北キャンパス4号館2階）

受講定員

50名

主催

香川大学大学教育開発センター

メ切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室学修支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

1. 大人としてのマナーを守り、情報として過不足のない用件のメールを書くことができる。
2. 手順を言語化し、聞き手にわかりやすく伝えることができる。
3. 文章を整理し、理解しやすく、誤りのない状態に仕上げるができる。

内容

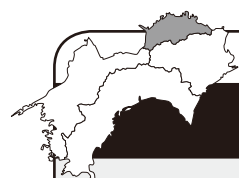
- 技法1：教職員へのメールの書き方
技法2：書き言葉による手順の説明
技法3：推敲の技法
- ・これらの技法がなぜ必要か。
 - ・これらの技法のポイントは何か。

▶参考資料

香川大学大学教育開発センター編『大学入門ゼミハンドブック』（参加者には配布いたします。）

▶受講者の声

- ・メール文章の問題点を具体的に指摘するところ
- ・日本語技法は必要です
- ・日本語技法はバージョンアップしたので受講しました。前よりコンテンツがモジュール化されてつかいやすくなったと思います。



プログラム番号 K-012

「日本語技法」の教え方②

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

高水 徹 (香川大学インターナショナルオフィス)

*日時

3月4日(火)14:40~16:10

*場所

422講義室 (幸町北キャンパス4号館2階)

*受講定員

50名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メー

開講日2週間前, 先着順

*申込先・問合せ先

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

(①からの続き)

4. 適切な表現を用いて, 2つの物事を比較・対照し, 文章で表現できる。
5. 文章のポイントを箇条書きでまとめることができる。
6. 文章の内容を, 必要な情報を損なわずに要約することができる。

内容

(①からの続き)

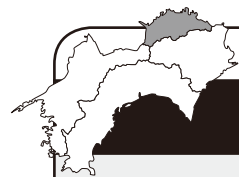
技法4: 比較・対照の技法

技法5: 箇条書きの技法

技法6: 要約の技法

- ・これらの技法がなぜ必要か。
- ・これらの技法のポイントは何か。

▶参考資料

香川大学大学教育開発センター編『大学入門ゼミハンドブック』
(参加者には配布いたします。)

プログラム番号 K-014

「情報整理の方法」の教え方

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

佐藤慶太 (香川大学大学教育開発センター)

*日時

3月7日(金)14:40~16:10

*場所

422講義室 (幸町北キャンパス4号館2階)

*受講定員

50名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メー

開講日2週間前, 先着順

*申込先・問合せ先

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

1. よいノートとはどのようなものか, 説明することができる
2. うまくノートをとるためのコツを説明することができる

内容

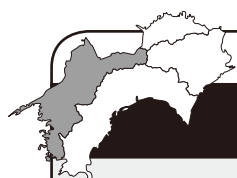
1. ノートをとるってどういうこと?
2. よいノートの条件
3. よいノートをとるためのコツ
 - ・講義のスタイルの違い
 - ・ノートの種類
 - ・授業前/授業中/授業後にすること
 - ・ノートのとり方サンプル紹介
4. もう一度ノートをとってみよう
5. まとめ

▶参考資料

香川大学大学教育開発センター編『大学入門ゼミハンドブック』
(参加者には配布いたします。)

▶受講者の声

- ・ノートの取り方を教えることをしないといけない時代なのだと思って受講しましたが, 納得できました。
- ・ノートの取り方は自身の役に立つと思いましたが, ノートを取りやすい授業の構成にも活かせると思いました。
- ・「ノートをとること」に対して無意識であったが, 学生にとっては重要なテーマであることを認識できた。



プログラム番号 I-005

教室の雰囲気を変えるクラスルーム・コントロール術（春期 FD・SD スキルアップ講座）



FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

秦敬治（愛媛大学教育企画室）

*日時

4月5日（金）11:00～12:00

*場所

愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

*メモ

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ

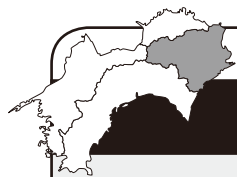
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

- ①学生を授業に集中させることができる
- ②学生のモチベーションを保つことができる
- ③学生とうまくコミュニケーションを取ることができる

内容

「居眠りをさせないためのコツ」「私語をさせないためのコツ」といった、学生を授業にうまく引き込み、学生のモチベーションを最初から最後まで高く維持するための手法について学びます。とくに、授業の準備段階から、授業開始時、途中、終了時において、段階的に効果的な「しかけ」を活用することで、学生が集中して授業に取り組むようになる手法について、講師の実践例を紹介しながら学びます。



プログラム番号 T-009

New!!

教えないで成績を上げるTBL（チーム基盤型学習）という授業方法



FD*

*主な対象

授業で知識をたくさん扱いたい、効率よく学生に記憶させたい、学生を元気にしたい教員と教員志望の学生。

*対象校

SPOD加盟校（徳島・香川県内）

*目標

右記参照

*講師

立川明（高知大学総合教育センター）

*日時

9月12日（木）13:00～16:00

*場所

徳島文理大学徳島キャンパス
徳島文理大学香川キャンパス（遠隔配信）

*受講定員

両キャンパスでそれぞれ50名程度
（香川キャンパスへは遠隔配信）

*主催

徳島文理大学FD研究部会

*メモ

要問い合わせ

*申込先・問合せ

徳島文理大学教育・研究支援グループ
E-mail: kyoken@tokushima.bunri-u.ac.jp

目標

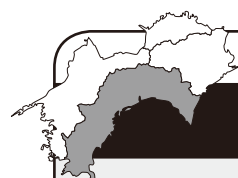
- TBLの流れが説明できる。
- TBLの効果として期待できることが説明できる。
- TBLのための良い問の3つの条件が説明できる。

内容

- ・なぜTBLが有効か？（レクチャー）
Learning in Teaching（LiT）しよう
- ・TBLを体験してみよう！
グループを作ろう！
アイスブレイキングしよう！
個別準備確認試験～グループ準備確認試験～アピール
応用課題
- ・良い問の条件
個人の責任を果たす World Cafe

▶参考資料

「Tips 5」（高知大学総合教育センター）
<https://olss.cc.kochi-u.ac.jp/create/publication/tips/>

プログラム番号 Y-003 **New!!**

コミュニケーションで知識を蓄える TBL チーム基盤型学習法 (秋季 FD セミナー)

FD*

*主な対象

授業で知識をたくさん扱いたい、効率よく学生に記憶させたい、学生を元気にしたい教職員と教員志望の学生。

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

立川明 (高知大学総合教育センター)

*日時

9月6日(金) 13:30~16:30

*場所

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

*受講定員

40名

*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

*メー

要問い合わせ

*申込先・問合せ先

高知大学学務部学務課

E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

TBLの流れが説明できる。

TBLの効果として期待できることが説明できる。

TBLのための良い問の3つの条件が説明できる。

内容

・なぜTBLが有効か? (レクチャー)

Learning in Teaching (LiT) しよう

・TBLを体験してみよう!

グループを作ろう!

アイスブレイキングしよう!

個別準備確認試験~グループ準備確認試験~アピール

応用課題

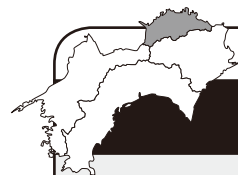
・良い問の条件

個人の責任を果たす World Cafe

▶参考資料

「Tips 5」(高知大学総合教育センター)

<https://olss.cc.kochi-u.ac.jp/create/publication/tips/>



プログラム番号 K-004

学生の参加を促す授業方法

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

藤本佳奈 (香川大学教育学生支援機構)

*日時

12月13日(金) 13:00~14:30

*場所

422講義室 (幸町北キャンパス 4号館2階)

*受講定員

50名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ先

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ

E-mail : gakusenm4@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

目標

1. 学生の授業への参加を促す様々なツールや方法を理解し、説明することができる。

2. 授業の目的・目標にあったツールや方法を選択し、授業に導入することができる。

内容

はじめに

1. 学生の「参加」とは

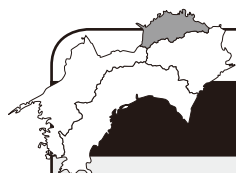
2. 学生の「参加」の形

3. 質問や発言を促す

4. グループワークを導入する

5. 学生の参加を促す授業方法アラカルト

まとめ



プログラム番号 K-013

協同学習の基本（入門編）

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

岩中貴裕（香川大学大学教育開発センター）

*日時

3月7日（金）13:00～14:30

*場所

422講義室（幸町北キャンパス4号館2階）

*受講定員

24名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail: gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

1. 協同学習のメリットについて説明することができる。
2. どのような協同学習があるのかを3つ以上挙げて、その手順を説明することができる。
3. 自らの授業に協同学習を導入することができる。

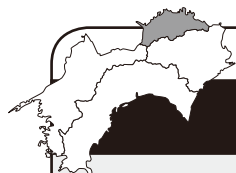
内容

下記の順序で講座を行います。講座は講義の部分と演習の部分から成り立っています。

1. 協同学習とは？（講義）（20分程度）
協同学習についての基礎的な情報を提供し、協同学習が学びを高める根拠について説明します。その後で、代表的な協同学習の手法をいくつか紹介します。
2. 協同学習を体験してみよう（演習）（30分程度）
授業の中で簡単に導入できる協同学習（話し合いの技法）を、3つ体験していただきます。
3. 協同学習を自分の授業に導入してみよう（演習）（30分程度）
各自の授業で、どのように協同学習の技法を導入したら良いのかについて考えてもらい発表してもらいます。
4. 質疑応答・まとめ（10分程度）

▶受講者の声

- ・新しい協同学習の手法を得ることができた。
- ・自分で体験することで重要性がわかった。
- ・協同学習の進め方の基本が理解できた。良い経験だと思う。
- ・協同学習、グループワークの手法が具体的に示され、よく分かった。
- ・協同学習の具体的な方法を教えていただき、授業への応用の仕方をイメージすることができた。



プログラム番号 K-015

授業へのグループワークの効果的な導入

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

清國祐二（香川大学生涯学習教育研究センター）

*日時

未定

*場所

生涯学習教育研究センター第1講義室（研究交流棟6階）

*受講定員

30名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail: gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

- ・授業の目的にあったグループワークの手法が選べる。
- ・汎用性の高いグループワークの手法が理解できる。
- ・ファシリテーションの基本が理解できる。
- ・授業にフィットするアイスブレイキングの手法が習得できる。

内容

1. グループワークに適した授業とは？
2. グループワークで何ができる？
3. グループワークの基本とは？
4. 学生のコミュニケーション能力が高まる？
5. 汎用性の高いグループワークとその効果は？
6. 教員に求められるファシリテーション能力とは？
7. アイスブレイキングの基本とは？
8. 橋渡しとしてのアイスブレイキング
9. 授業設計とグループワーク

プログラム番号 I-021

効果的なグループワークの進め方 (夏期FD・SDスキルアップ講座)

FD

*主な対象

授業でのグループワークやゼミでのディスカッションをより活性化させたい教員

*対象校

SPOD加盟校

*目標

右記参照

*講師

大竹奈津子、津曲陽子 (愛媛大学教育企画室)、仲道雅輝 (愛媛大学総合メディアセンター兼教育企画室)

*日時

SPODフォーラム期間中

*場所

愛媛大学愛大ミューズ

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

*メロ

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

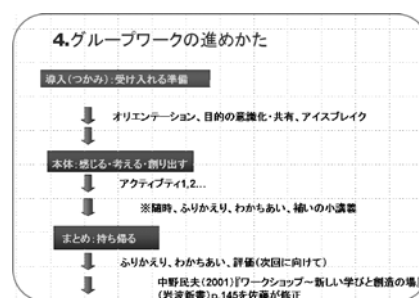
1. 学生がいきいきとグループワークに参加できる仕組みについて説明することができる。
2. 現状よりも活発なグループワークをしかけることができるようになる。

内容

1. アイスブレイク
 - ・自己紹介
2. グループワーク
 - ・いいグループワーク
 - ・悪いグループワーク
3. 成功するグループワークのカギ
 - ・第一のカギ
 - ・第二のカギ
 - ・第三のカギ
4. グループワークの進め方
 - ・グループワークの流れ
 - ・ファシリテーターの基本スキル
5. グループワークの必須アイテム
6. 振り返りと質疑応答

▶受講者の声

- 私にとっては目からうろこでした。グループワークだけでなく日頃の授業にも活かせる内容だったと思います。
- グループワークの具体的な進め方に関して理解することが出来た。



プログラム番号 Y-002

講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン -考え方と進め方- (秋季FDセミナー)

FD

*主な対象

学生の学びを向上させるために、グループ・ペア学習を授業の一部に取り入れたい教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

俣野秀典 (高知大学総合教育センター)

*日時

9月5日(木)13:30~15:30

*場所

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

*受講定員

30名

*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

*メロ

要問い合わせ

*申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

1. グループでの活動による学習の効果を説明できる。
2. 協同的な学習活動を生産的なものにするための条件(要素)について二つ以上説明できる。
3. 学生を参加させるための技法を目的に応じて選択できる。

▶受講者の声

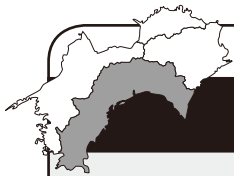
- ・協同学習の定義・効果・技法についてきちんと学ぶことができて、本当によかったと思います。
- ・ジグソー等の具体的手法や、それを取り入れた授業の実例を知ることができ、自分のものに取り入れる際の参考になりました。
- ・系統的な知識を得ることができたので、授業の改善に大変参考になりました。

内容

“学びのプロセスに学生自身がどれだけ関わることができたか”が学習成果を左右すると言われています。ここ数年、学生参加型や双方向型授業といった名称の授業が増えてきていることの大きな理由がここにあります。

そこで本プログラムは、授業の活動性を高めるために、講義の一部にグループ学習やペア学習を取り入れてみたいと考えている教員を主な対象として、そのための考え方や方法を参加メンバーと共に学び、理解することを目的として実施されます。

1. アイスブレイクの基本
2. 小グループ・ペア学習/能動的学習の効果
3. 学生を参加させるための要素・技法
4. 授業等への適用例
5. 学習課題の組み立て方
6. 振り返り



プログラム番号 Y-008

能動的学習支援者必須! グループワークのためのファシリテーション入門 (春季FDセミナー) FD*

*主な対象

グループワークを取り入れている授業担当教員およびTA等として授業の補助を行う学生

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

塩崎俊彦, 立川明, 俣野秀典 (高知大学総合教育センター)

*日時

3月27日(木) 10:00~18:00

*場所

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

*受講定員

30名

*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

*メロ

要問い合わせ

*申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

- ・グループワークを主とする授業担当者にとって必須となる能力: ファシリテーション力を身につける。
- ・グループ活動支援に必要なチームビルディングの方法を知る。
- ・チームビルディングゲームの進め方を知る。
- ・場の構築の重要性を理解する。
- ・フィードバックの重要性を理解する。
- ・ファシリテーションにおける注意点を学ぶ。

内容

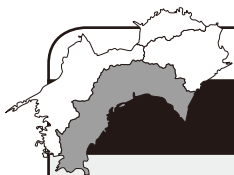
一方的な講義形式の授業から学生参加型/双方向型授業への展開に対応する形で、授業のファシリテーター(学習支援・促進者)としての教員の役割の重要性が顕著になってきています。そこで本プログラムは、グループワークを多用した授業において教員が知っておきたい授業ファシリテーションについてのマインドとスキルについて、特にチームビルディングを重点的に取り上げ、実際に体験しながら習得することを目的として実施されます。

- ・オリエンテーション
- ・導入エクササイズ「グループの作り方とアイスブレイク」
- ・グループ演習「体験学習を体験する」～振り返りと解説
- ・ファシリテーターとしての行動・姿勢
- ・全体の振り返り、分かち合い

※グループ演習(チームビルディングゲーム)は、参加者のニーズ・人数に応じて、下記より3~4種類をピックアップの予定。
・記者会見・総当たりインタビュー・学習スタイル・コンセンサスを求めて・私の価値観/ライフポジション・パスは待ってられない・グループプロセスの観察

▶受講者の声

- ・チームビルディングやチームを深めるための方法が分かった。
- ・他の人の意見を聞くという体験ができ、その重要性に気づいた。



プログラム番号 Y-007

初年次科目のためのグループワークの技法 (春季FDセミナー) FD

*主な対象

グループワーク授業の担当教員、特に初めてこの種の授業を担当する教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

塩崎俊彦, 立川明, 俣野秀典 (高知大学総合教育センター)

*日時

3月26日(水) 13:30~17:00

*場所

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

*受講定員

30名

*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

*メロ

要問い合わせ

*申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

- ・2つのタイプのグループワーク授業のねらいが説明できる。
- ・グループワーク授業において、学習者の能動的な姿勢を引き出すための手法を、実際に体験しながら理解する。
- ・グループワークに関与する際に教員が注意すべき事柄を理解する。

内容

- ・ミニ講義 グループワーク授業/2つのねらいをもって
- ・ワークショップ
 - ① アイスブレイクの手法
 - ② チームビルディングの手法
 - ③ さまざまなグループワーク ZIGZAG・ワールドカフェなど
 - ④ プレゼンテーションの工夫

模擬的にグループワークを行うことで、その運営方法を理解します。

- ・振り返り

ワークショップで得た知見をグループで振り返ります。

プログラム番号 K-005

初年次教育をアクティブに動かす方法

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

三宅岳史（香川大学教育学部）

*日時

12月13日(金)14:40~16:10

*場所

生涯学習教育研究センター第1
講義室（研究交流棟6階）

*受講定員

50名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ先

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

1. 初年次教育の全国的動向をみて、何がポイントかを説明できる。
2. 初年次教育に関する授業法のアイデアを知り、引き出しを増やす。
3. 初年次教育をアクティブに動かすヒントをもちかえる。

内容

1. はじめに：初年次教育の概要
2. 初年次教育の全国的傾向
3. 問題の共有
4. グッド・プラクティスに学ぶ



▶受講者の声

- ・GWの技法をある程度知ることができました。
- ・グループ学習に大切なことがよくわかりました。
- ・具体的に体験できてよかったです。
- ・自己満足に陥っていた授業方法に対して「やっぱりこれで完璧ではないんだ、もっと改善する方法もある。」と思いました。
- ・協同学習の手法への理解が深まりました。
- ・明日から使えるような技法が5つくらい手に入りました。

プログラム番号 K-002 New!!

LMS (Moodle) の講義への活用術

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

林敏浩（香川大学総合情報セン
ター）

*日時

9月17日(火)15:00~17:00

*場所

422講義室（幸町北キャンパス
4号館2階）

*受講定員

20名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メー

開講日1週間前、先着順

*申込先・問合せ先

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

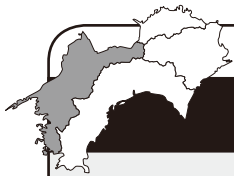
- ・ Moodleでどんなことができるか理解する。
- ・ 自分の講義へLMSを活用することができる。

内容

1. LMS (Moodle) とは何か？
2. Moodleへのアクセス
3. コースの設定方法
4. 講義資料のコンテンツ化
5. 講義資料コンテンツのアップロード
6. レポートや小テストの設定
7. オンラインレポートなどの評価
8. オンデマンドe-Learningコンテンツの作り方（オプション）

▶準備物

- 無線LAN機能を持ったノートPCをご持参ください。
- 香川大学以外の参加者には当日MoodleへのアクセスIDを発行します。



プログラム番号 I-016

New!!

効果的なeラーニングの活用方法 (夏期FD・SDスキルアップ講座)

FD

*主な対象

eラーニングを授業に取り入れてみたい、eラーニングをどのように活用したら良いかわからないなど、eラーニングに興味をもっている教員

*対象校

SPOD加盟校

*目標

右記参照

*講師

仲道雅輝 (愛媛大学総合メディアセンター兼教育企画室)

*日時

9月17日(火)13:00~15:00

*場所

愛大ミュージアム階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

24名程度

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. 実践事例からeラーニングを授業に取り入れる際の効果的なポイントが説明できる。
2. eラーニング要素を活用して自身の授業での課題解決に向けた対策を考えることができる。
3. 自身の授業で使えるようなヒントやアイデア等を一つ以上持ち帰ることができる。

内容

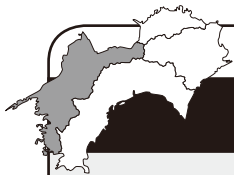
高等教育機関において、学習効果を上げるための方法としてeラーニングが注目されています。本プログラムでは、「eラーニングを授業に取り入れてみたい」「どのように活用するのが有効なのか知りたい」「自身の授業改善に役立てたい」「どこから始めるとよいかかわらない」「実はeラーニングとは何かが

わからない」という方に対して、実際に授業で活用されている様々な事例を紹介するとともに、ワークショップ形式にて自身の授業で、どう活用できるかを探っていきます。

1. 広義・狭義のeラーニング
2. 実践事例の紹介(動画教材・テスト機能・ディスカッション機能・課題提出機能(振り返り)等)
3. eラーニングを取り入れた授業計画案作成に向けて、グループワークによる検討を行う。

▶準備物について

筆記用具、ご自身のシラバスもしくは授業計画等



プログラム番号 I-007

英語で授業をしたい教員のためのワークショップ (夏期FD・SDスキルアップ講座)

FD

*主な対象

教職員

*対象校

SPOD加盟校

*目標

右記参照

*講師

ルース・バーজন (愛媛大学国際教育支援センター)

*日時

8月1日(木)13:00~15:00

*場所

愛大ミュージアム階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

英語で授業をするときの一般的なガイドラインを説明できる。
ロールプレイ形式のワークショップで、英語による授業を経験する。
To learn some general guidelines for teaching in English.
To have an opportunity to practice in a role-play style workshop.

内容

1. 創成授業「異文化のまなざし」での事例報告
2. 英語で授業をする際の一般的なガイドラインについて
3. 質疑応答と休憩時間
4. 授業の「良くない例」の事例実演とフィードバック
5. 英語のミニ講義を作るグループワーク
6. グループごとの模擬授業 ~留学生を前にして~
7. まとめと振り返り

1. Report on the Issues in Research classes
2. Go over general guidelines for teaching in English
3. Q&A/short break
4. Model class to use as demonstration "a bad example"
5. Divide into groups to make a short lecture
6. Presentation by participants
7. Summing up

▶参加者の声

- 久しぶりにネイティブの英語を生で聴けた。
- ワークショップの時間に実際に留学生が参加してくれたことで活気があり、授業中のような展開を想定したやり取りがあった事が特に良かった。
- グループディスカッションの重要性がよく分かった。
- 体験とレクチャーのバランスが良かった。

プログラム番号 I-048 **New!!****担任教員に求められること -担任スキル開発ワーク-****FD*****主な対象**

教員

***対象校**

SPOD加盟校 (高専のみ)

***目標**

右記参照

***講師**

坪井泰士 (阿南工業高等専門学校)

***日時**

6月11日(火)

***場所**

新居浜工業高等専門学校第1会議室

***受講定員**

50名

***主催**

新居浜工業高等専門学校, SPOD

***メモ**

要問い合わせ

***申込先・問合せ**

新居浜工業高等専門学校

学生課教務係

E-mail: kyoumu-c@

off.niihama-nct.ac.jp

目標

担任教員に求められるスキル (学生との接し方, 自殺や不登校およびいじめのサイン, 教育連携の方法, 保護者対応, 学生関係校務) を, 共有するケーススタディにより開発します。

内容

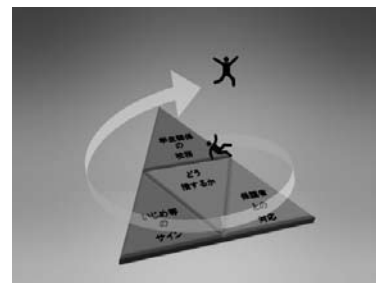
1. 学生サポートに必要な担任スキルを, 具体的に指摘できる。
2. 学生サポートが必要なシチュエーション毎に, 担任スキルの適用方法を説明できる。
3. 学生サポートについて助言しあえる関係をつくる。

▶参考資料

「高専におけるクラス経営・生活指導サポートブック 2版」(講師作成)

▶受講者の声

- 教員間の連携がとても大切であることが改めて理解できた。
- ふだん学生指導で悩んでいる内容について, いろいろと助言をもらえた。
- 事例紹介など, 具体性があった。学生指導, 講義のノウハウがちりばめられていた。

プログラム番号 Y-016 **New!!****担任教員に求められること -担任スキル開発ワーク-****FD*****主な対象**

全教職員

特に現在担任担当中あるいは将来担任を担当する可能性のある教員

***対象校**

SPOD全加盟校

***目標**

右記参照

***講師**

坪井泰士 (阿南工業高等専門学校)

***日時**

8月1日(木)13:30~

***場所**

高知工業高等専門学校

***受講定員**

30名

***主催**

高知工業高等専門学校, SPOD

***メモ**

要問い合わせ

***申込先・問合せ**

高知工業高等専門学校総務課

E-mail: s-hosa@

jm.kochi-ct.ac.jp

目標

担任教員に求められるスキル (学生との接し方, 自殺や不登校およびいじめのサイン, 教育連携の方法, 保護者対応, 学生関係校務) を, 共有するケーススタディにより開発します。

内容

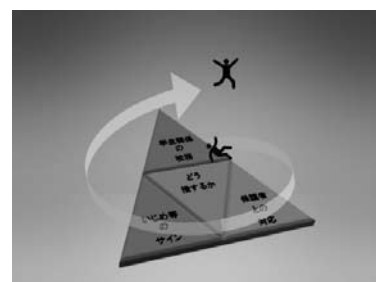
1. 学生サポートに必要な担任スキルを, 具体的に指摘できる。
2. 学生サポートが必要なシチュエーション毎に, 担任スキルの適用方法を説明できる。
3. 学生サポートについて助言しあえる関係をつくる。

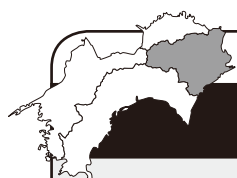
▶参考資料

「高専におけるクラス経営・生活指導サポートブック 2版」(講師作成)

▶受講者の声

- 教員間の連携がとても大切であることが改めて理解できた。
- ふだん学生指導で悩んでいる内容について, いろいろと助言をもらえた。
- 事例紹介など, 具体性があった。学生指導, 講義のノウハウがちりばめられていた。





プログラム番号 T-008

マナー化しない公開授業の秘訣 —公開授業の効果的実践方法—

FD

*主な対象

授業公開を開催している、または開催を考えている大学・高専の教職員。

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

川野卓二（徳島大学教育改革推進センター）

*日時

9月中

*場所

四国大学共通講義棟

*受講定員

150名予定

*主催

四国大学FD委員会、SPOD

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ先

四国大学学部運営支援課

E-mail : kugatakeshi@shikoku-u.ac.jp

目標

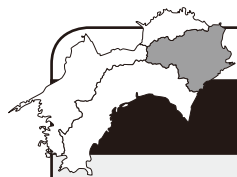
公開授業を行うことと、公開授業に参観することの意義と目的を学び、効果的な公開授業を実践出来るようになる。

内容

公開授業を行ったり、公開授業を参観したりすることにどのような利点があるのか、また、よりよい授業を行うために何に気をつければいいのか、公開授業では何に注意して参加すればいいのかなど、皆さんとともに考えたいと思います。

▶受講者の声

- ・授業参観のためのガイドライン、チェックリストなど具体的に明示されている点、今後の参考になった。
- ・授業の実施に関して重要なポイントについて整理することができた。
- ・出来ていないことが多いことがあらためて分かった。



プログラム番号 T-010

授業アンケートを見直しませんか？—アンケートの効果的実施と活用方法—

FD

*主な対象

授業アンケートの結果を今後の将来改善に生かしたいと思っている教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

塩崎俊彦（高知大学総合教育センター）

*日時

6月3日(月)14:00～15:30

*場所

徳島工業短期大学会議室

*受講定員

30名

*主催

徳島工業短期大学、SPOD

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ先

徳島工業短期大学庶務課

E-mail : y.yamawaki@tokuko.ac.jp

目標

授業アンケートの目的と効果を説明できる。
アンケートから授業改善への手順を説明できる。

内容

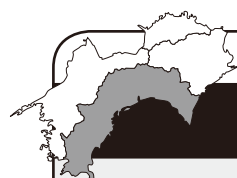
授業アンケートについて、「活用の仕方がわからない」「最後にアンケートをしても改善できない」などの声が驚くほど聞こえてきます。授業改善につながるアンケートの手法と活用方法について考えてみたいと思います。

・ミニ講義

「授業評価アンケート」から「授業改善アンケート」へ
アンケート結果をどのように活用するか

・ディスカッション

学習の質を高めるアンケートとは？

プログラム番号 Y-012 **New!!**

職員相互の公開授業のあり方

FD

*主な対象

全教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

未定

*日時

9月上旬

*場所

高知県立大学 池キャンパス

*受講定員

特になし

*主催

高知県立大学・高知短期大学

*メ切

要問い合わせ

*申込先・問合せ

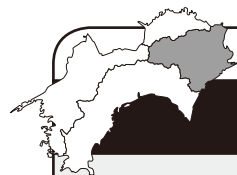
高知県公立大学法人 法人経営室
E-mail: houjin@cc.u-kochi.ac.jp

目標

教員が授業内容・方法の改善に努めることができる。

内容

詳しい内容については、お問い合わせ先にご連絡ください。

詳細は決まり次第、SPODホームページ (<http://www.spod.ehime.ac.jp/>) に掲載しますので、ご参照ください。

プログラム番号 T-005

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ (東四国対象)

FD

*主な対象

東四国加盟校教員

*対象校

SPOD全加盟校
(東四国: 徳島県, 香川県)

*目標

右記参照

*講師

香川順子 (徳島大学教育改革推進センター) ほか

*日時

1月~3月中(3日間)

*場所

未定

*受講定員

20名

*主催

徳島大学 FD委員会

*メ切

要問い合わせ

*申込先・問合せ

徳島大学教育改革推進センター
E-mail: t-spod@cue.tokushima-u.ac.jp

目標

- ティーチング・ポートフォリオとは何かを理解する。
- ティーチング・ポートフォリオの必要性・有効性について知る。
- ティーチング・ポートフォリオ作成の要点と手順を理解する。
- ティーチング・ポートフォリオを作成する。

▶参考資料

TP完成サンプル

内容

3日間を通しての参加となります。メンターによるメンタリングを行いながら作成します。

<1日目>

1. オリエンテーション
2. 昼食会
3. 意見交換
4. メンタリング
5. TP作成作業

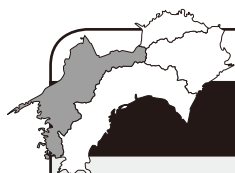
<2日目>

1. TP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業

(夜) 情報交換会 (任意)

<3日目>

1. TP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業
5. TP披露・修了式



プログラム番号 I-024

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（西四国対象）

FD

*主な対象

西四国加盟校教員

*対象校

SPOD全加盟校
(西四国：愛媛県、高知県)

*目標

右記参照

*講師

秦敬治（愛媛大学教育企画室）
ほか

*日時

9月17日(火)～18日(水)
(2日間)

*場所

愛媛大学愛大ミューズ

*受講定員

約20名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
(教職員能力開発拠点)

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

- ティーチング・ポートフォリオとは何かを理解する。
- ティーチング・ポートフォリオの必要性・有効性について知る。
- ティーチング・ポートフォリオ作成の要点と手順を理解する。
- ティーチング・ポートフォリオを作成する。

▶参考資料

TP完成サンプル

内容

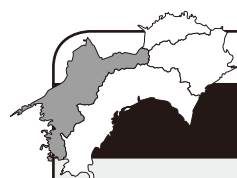
2日間を通しての参加となります。
メンターによるメンタリングを行いながら作成します。

<1日目>

1. オリエンテーション
2. 昼食会
3. 意見交換
4. メンタリング
5. TP作成作業
(夜) 情報交換会（任意）

<2日目>

1. TP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業
5. TP披露・修了式



プログラム番号 I-025

高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

FD

*主な対象

教員 (教育歴5年以上を目安とします)、教育力向上を目指し参加を希望する教員)

*対象校

SPOD全加盟校 (高専のみ)
※高専を対象としていますが、SPOD加盟校からの希望者があれば、参加状況により、受け付ける場合がありますので、ご連絡ください。

*目標

右記参照

*講師

松本高志 (阿南工業高等専門学校)、大竹奈津子 (愛媛大学教育企画室)

*日時

11月15日(金)~11月17日(日)

*場所

愛媛大学愛大ミューズ

*受講定員

15名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec-ehime-u.ac.jp

目標

ティーチング・ポートフォリオ (以下、「TP」という。) を用いて教員による主体的な教育力向上を目指します。TPは自己省察によって、教育業績を整理するのみならず、教員が抱えている教育への情熱を振り返り、その思いを授業改善、さらに教育力向上へ結びつける教員の意識改革 (主体性) を重視するものです。

TP作成者 (ワークショップ参加者) は次回メンター (助言者) として参加し、他者をメンタリングすることにより更なる教育効果が上がり、TP作成者の増加のみならず、メンター養成によって相乗効果が生まれることが期待されます。

内容

プログラムは以下のとおりです。3日間を通しての参加となります。

<1日目>

12:00 ~ 12:30 オリエンテーション
12:30 ~ 13:30 昼食会・意見交換
13:30 ~ 14:30 第1回個人ミーティング
14:30 ~ 17:00 TP作成作業

▶研修風景



<2日目>

9:00 ~ 10:00 TP作成作業
10:00 ~ 11:00 第2回個人ミーティング
11:00 ~ 12:00 TP作成作業
12:00 ~ 13:00 昼食会・意見交換
13:00 ~ 17:00 TP作成作業
18:30 ~ 20:30 情報交換会(任意)

<3日目>

9:00 ~ 10:00 TP作成作業
10:00 ~ 11:00 第3回個人ミーティング
11:00 ~ 12:00 TP作成作業
12:00 ~ 13:00 昼食会・意見交換
13:00 ~ 15:00 TP作成作業、プレゼンテーション準備
15:00 ~ 16:30 TP披露・修了式、修了証書の授与

▶準備物について

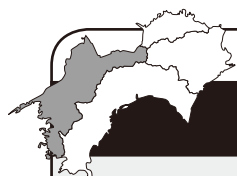
事前に課題 (スタートアップシート) を作成・提出していただきます。

▶参考資料

『大学教育を変える教育業績記録 ティーチング・ポートフォリオ作成の手引』ピーター・セルディン/著 大学評価・学位授与機構/監訳 栗田佳代子/訳 (玉川大学出版)

▶受講者の声

○自分がやりたい教育というものが整理できた。
○スケジュール的には厳しかったのですが、自らの教育経験の統括を行えたからという意味から大変有意義であったと思います。これ程長い時間をかけて自らの教育について考えさせられた時は、今までありませんでした。



プログラム番号 I-026

New!!

ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ

FD

主な対象

TP作成後1年を経過している教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

秦敬治（愛媛大学教育企画室）ほか

日時

7月8日(月)

場所

愛媛大学愛大ミューズ

受講定員

約20名

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

📧切

要問い合わせ

申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

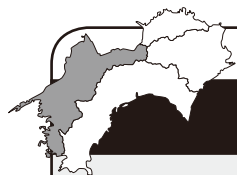
ティーチング・ポートフォリオを更新する。

内容

ティーチング・ポートフォリオの作成に終わりはありません。今回はティーチング・ポートフォリオの更新を目的としてワークショップを実施し、参加者と一緒に、より良いティーチング・ポートフォリオの作成を行います。

▶事前準備

事前にご自身のティーチング・ポートフォリオを読み返し、更新が必要な箇所の検討を付けておく。更新に必要なエビデンスを準備する。



プログラム番号 I-027

New!!

アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ

FD

主な対象

教員（TP作成済み）

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

秦敬治（愛媛大学教育企画室）ほか

日時

9月17日(火)～18日(水)

場所

愛媛大学愛大ミューズ

受講定員

約20名

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

📧切

要問い合わせ

申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

- アカデミック・ポートフォリオとは何かを理解する。
- アカデミック・ポートフォリオの必要性・有効性について知る。
- アカデミック・ポートフォリオ作成の要点と手順を理解する。
- アカデミック・ポートフォリオを作成する。

内容

2日間を通しての参加となります。
メンターによるメンタリングを行いながら作成します。

<1日目>

1. オリエンテーション
2. 昼食会
3. 意見交換
4. メンタリング
5. AP作成作業

(夜) 情報交換会（任意）

<2日目>

1. AP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. AP作成作業
5. AP披露・修了式

▶参考資料 AP完成サンプル

▶準備物 ご自身のティーチング・ポートフォリオ



FD/SDプログラム

(教職員対象)

プログラム番号 I-010

講義のための話し方入門〈夏期 FD・SD スキルアップ講座〉

遠隔

FD/SD

主な対象

教員、とりわけ講義を受け持つようになって間もない教員 (I-022とセットで受講することが推奨されますが、単独受講も大歓迎です)。また、職員の参加も歓迎します

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

大竹奈津子 (愛媛大学教育企画室)、
飯島永津子 (愛媛大学医学部教育協力者)

日時

8月30日(金) 15:30~17:30

場所

愛大ミュージックアクティブ・ラーニングスペース2

受講定員

40名

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

その他

要問い合わせ

申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. 「学生中心の大学」の実現のために
“よい” 授業ができるようになる。
⇒ “良い” 授業とは？
・ わかりやすい授業
・ 知的な緊張感のある授業
・ 学生が積極的に参加し自ら考える授業
2. 講義をするときに注意が必要な話し方のコツを、講習中の実習を通して習得し、習得したことを自分の授業に生かすことができる。

内容

1. イントロダクション

- ・ 本日のメニュー
- ・ 本日の目的と目標

▶受講者の声

- 子音でわかりにくい言葉の事例を聞いて納得。
- 自分では声は大きいし、大丈夫と思ってましたが、話し方には話す内容も大事だということを再認識しました。

▶参考資料

「大学教員のための授業方法とデザイン」
佐藤・編、玉川大学出版部、2010

2. 講師が気をつけていること

- ・ 学生にとってわかりやすい話し方とは？
- ・ どうしたらわかりやすい話し方ができるか？
- ・ 発音しにくい言葉
- ・ 区別しにくい言葉

3. 実例を元に演習

- ・ 聞き手が理解しやすい話し方
- ・ どう話すか？の前に何を話すか？

4. 休憩とストレッチ

5. 外部講師 (教育協力者) による発声練習

- ・ 大きな声を出すためには？
- ・ はっきりと発音するためには？

6. まとめ・セルフアセスメント

- ・ あらためて、「良い」授業とは？

7. 質疑応答

どうしたら 分かりやすい話し方ができるか？

——小林が気をつけていること——

- ・ ゆっくり話す・大きな声で話す
- ・ 子音をはっきり話す
- ・ 否定後や文末を強調する
- ・ アイ・コンタクトして話す
- ・ 聞き手に近寄って行って話す
- ・ 特に抑揚をつけて前後に間を入れて何度も繰り返して
- ・ キーワードを強調して話す
- ・ 紛らわしい言い方は避ける
- ・ 板書やプリントを併用する



プログラム番号 I-022

大人数講義法の基本〈夏期 FD・SD スキルアップ講座〉

FD/SD

主な対象

教員、とりわけ講義を受け持つようになって間もない教員 (I-010とセットで受講することが推奨されますが、単独受講も大歓迎です)。また、職員の参加も歓迎します。

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

小林直人 (愛媛大学教育企画室)

日時

SPODフォーラム期間中

場所

愛媛大学愛大ミュージック

受講定員

40名

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

その他

要問い合わせ

申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. 「学生中心の大学」の実現のために
“よい” 授業ができるようになる。
⇒ “良い” 授業とは？
・ わかりやすい授業
・ 知的な緊張感のある授業
・ 学生が積極的に参加し能動的に考える授業
2. 様々な授業スキルを、実際の体験を通して習得し、習得したことを自分の授業に生かすことができる。

内容

1. はじめに ～敵を知り己を知る～
2. 「授業スキル」のいろいろ
3. 参加/体験型授業の例：グループワークを経験する
4. 「キーワード」を明示する、という課題について考える
5. 休憩とストレッチ
6. 「板書」「プリント」の基本テクニック
7. 学生との「コミュニケーション」の基本テクニック
8. まとめとセルフアセスメント：あらためて、「よい」授業とは？
9. 質疑応答

▶受講者の声

- 学生がノートに書き写しているときに教員は何をするかということが参考になった。
- 大人数講義で、学生とコミュニケーションをとる方法。授業に参加させる方法。授業効果を高める方法等々について、非常に詳しく具体的に学ぶことができた。

▶参考資料

「大学教員のための授業方法とデザイン」
(佐藤・編、玉川大学出版部、2010)

「成長するティップス先生」
(池田ら著、玉川大学出版部、2001)

プログラム番号 I-014

大人数講義法の基本ー遠隔配信プログラムー（夏期FD・SDスキルアップ講座）



*主な対象

教員、とりわけ講義を受け持つようになって間もない教員（I-010とセットで受講することが推奨されますが、単独受講も大歓迎です）。また、職員の参加も歓迎します。

*対象校

SPOD全加盟校（愛媛大学からの遠隔配信を受信できること、または受信できる施設にて受講すること）

*目標

右記参照

*講師

小林直人（愛媛大学教育企画室）

*日時

9月10日(火)15:30～17:30

*場所

愛大ミュージック1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

*メロ

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. 「学生中心の大学」の実現のために“よい”授業ができるようになる。
⇒ “良い”授業とは？
・ わかりやすい授業
・ 知的な緊張感のある授業
・ 学生が積極的に参加し能動的に考える授業
2. 様々な授業スキルを、実際の体験を通して習得し、習得したことを自分の授業に生かすことが出来る。

▶参考資料

「大学教員のための授業方法とデザイン」（佐藤・編，玉川大学出版部，2010）
「成長するティップス先生」（池田ら著，玉川大学出版部，2001）

▶受講者の声

- 遠隔でこのような授業が可能であることが知れた点。
- 時間外学習についての考え方やツールがあることを知ることができた。
- 学生の反応を知る方法を獲得できました。
- 大教室でのコミュニケーションの手法が学べた。授業時間外学習を促すことが大事だということがあった。

内容

1. はじめに 敵を知り己を知る
2. 「授業スキル」のいろいろ
3. 参加/体験型授業の例：グループワークを経験する
4. 「キーワード」を明示する
5. 休憩と質疑応答
6. 「板書」「プリント」の基本テクニック
7. 学生との「コミュニケーション」の基本テクニック
8. まとめとセルフアセスメント：あらためて、「よい」授業とは？

プログラム番号 I-023

学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法



*主な対象

eラーニングを授業に取り入れてみたい、eラーニングをどのように活用したら良いのかわからない方などeラーニングに興味を持たれている方

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

仲道雅輝（愛媛大学総合メディアセンター兼教育企画室）

*日時

1月中旬

*場所

愛大ミュージック1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

*メロ

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

- ①適切な授業目的・目標設定ができるようになる。
- ②わかりやすいシラバスを書くことができるようになる。
- ③学習者が自学自習に励むようなシラバスを書くことができるようになる。

内容

1. 授業デザインの考え方
2. シラバスとは何か？
・ 定義
3. 授業題目・キーワードの書き方
・ わかりやすく書く
4. 目的の書き方
・ 授業の目的の書き方
5. 目標の書き方
・ 到達目標の書き方
6. 授業内容・スケジュールの書き方
・ 無理のない進み具合
7. 授業時間外での学習を促す戦略
・ 外発的・内発的動機づけによる学習課題に取り組みさせるコツ
・ eラーニングを活用した課題への取り組み方

8. 受講条件の書き方

- ・ ニーズと授業内容のミスマッチ防止

9. 受講ルールの書き方

- ・ 受講のマナー

10. 教材に関わる情報の書き方

11. 評価情報の書き方

▶準備物

ご自分の授業のシラバスをご持参下さい

▶参考資料

『FDハンドブック第1巻』『FDハンドブック第2巻』（愛媛大学教育企画室作成）
佐藤浩章編『大学教員のための授業方法とデザイン』（玉川大学出版部）

▶受講者の声

- ・ 具体例が提示されており、自分のシラバス作成における対策がよくわかった。
- ・ 目標が成績評価項目になるという点が実感できた。
- ・ 自分が作成していたシラバスの良い点、改善点がわかった。
- ・ 評価の記述方法がわかった。
- ・ 個別の質問に丁寧に答えていただけた。

プログラム番号 I-009

ルーブリック評価入門-ブレない・速い・楽に成績評価のススメ (夏期FD・SDスキルアップ講座)

遠隔

FD/SD

*主な対象

成績評価の厳密化と効率化を進めたい教員、カリキュラム・プログラム評価に関心のある教職員、人事評価に関心のある教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

佐藤浩章 (愛媛大学教育企画室)

*日時

8月30日(金)13:00~15:00

*場所

愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. ルーブリック評価のメリットを説明することができる。
2. 自らの授業で活用できるルーブリックを作成する。

※ルーブリックとは、教育・学習成果の評価の厳密化と効率化を進めるために使われる評価ツールです。

内容

ルーブリックの作成手続きと様々な事例を紹介しながら、時間内に自らの授業で活用できるルーブリックを作成します。作成し

▶参考資料

Dannelle D. Stevens 2013, *Introduction to Rubrics: An Assessment Tool to Save Grading Time, Convey Effective Feedback and Promote Student Learning*, Second Edition, Stylus Publishing, U.S. (購入の必要はありません)

▶準備物について

各自パソコンを持参してください。持参出来ない方は、貸出可能ですので、愛媛大学教育企画室までお問い合わせください (数量限定)。

ルーブリック評価の例			
項目	レベルA	レベルB	レベルC
課題	課題の目的を明確にしている。課題の重要性が理解できている。課題の達成度が評価されている。	課題の目的が明確にされている。課題の重要性が理解できている。課題の達成度が評価されている。	課題の目的が明確にされている。課題の重要性が理解できている。課題の達成度が評価されている。
手続	手続は明確にされている。手続の重要性が理解できている。手続の達成度が評価されている。	手続は明確にされている。手続の重要性が理解できている。手続の達成度が評価されている。	手続は明確にされている。手続の重要性が理解できている。手続の達成度が評価されている。
結果	結果は明確にされている。結果の重要性が理解できている。結果の達成度が評価されている。	結果は明確にされている。結果の重要性が理解できている。結果の達成度が評価されている。	結果は明確にされている。結果の重要性が理解できている。結果の達成度が評価されている。

たルーブリックは、他者と共有することができます。

1. ルーブリックとは何か?
2. なぜルーブリックを使うのか?
3. ルーブリックをどうやって作成するか?

ルーブリック作成の4段階

第1段階: 振り返り

第2段階: リストの作成

第3段階: グループ化と見出し付け

第4段階: 表の作成

4. ルーブリック作成 (個人ワーク)
5. ブラッシュアップ (ペアワーク)

▶受講者の声

○ルーブリックとは、どのようなものであるべきか、深く理解することができました。学生・教員双方のためのルーブリック作りを行うことで、学習意欲を引き出せるのではないかと思います。

○これまでレポートや授業記録を提出させた後、教員コメントを書くのに手間・時間をかけていたので、今後は効率よく評価できると思います。また、授業態度の評価基準もきちんとしたものではなかったため、学生との合意でやれるのが双方のメリットになると思います。

プログラム番号 T-006

New!!

学習者の学習意欲を高める授業設計を行うための
インストラクショナル・デザイン (ID) 入門 - ARCS 動機づけモデルの活用 -

FD/SD

*主な対象

SPOD加盟校の教職員、学生 (授業等において改善したい課題をもっている教員もしくは、インストラクショナルデザインに関心がある教職員・学生)

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

仲道雅輝 (愛媛大学総合メディアセンター兼教育企画室)

*日時

11月上旬

*場所

徳島大学 大学開放実践センター3階
授業研究インテリジェントラボ等

*受講定員

24名

*主催

徳島大学FD委員会

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

徳島大学大学教育推進改革センター
E-mail: t-spod@cue.tokushima-u.ac.jp

目標

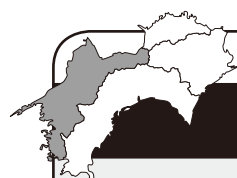
1. 「インストラクショナルデザイン」が課題解決の方法論であることを説明できる。
2. 自分の授業を振り返り、到達目標を明確化するためのポイントが説明できる。
3. 学習者を動機づけるための一つの手法 (ARCS 動機づけモデル) を活用し、授業設計のヒントを得ることができる。

内容

本プログラムでは、これまで自身が実施してきた教育に対する考え方や実施方法について見つめ直し、何が課題であるかについて考えるところからはじめ、教育をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナルデザイン (以下、IDという) の中から、学習者を動機づけるための手法 (ARCS 動機づけモデル) や学習者の学びを支援するための働きかけに関する理論を事例とともに学び、ワークショップ形式にて課題解決策の糸口を探っていきます。

▶準備物

筆記用具、具体的に改善したい課題がある場合はご自身のシラバスもしくは授業計画等

プログラム番号 I-013 **New!!**
**学習者の学習意欲を高める授業設計を行うための
インストラクショナル・デザイン (ID) 入門 - ARCS 動機づけモデルの活用 - (夏期 FD・SD スキルアップ講座)**

FD/SD

*** 主な対象**

授業等において、改善したい課題を持っている教員もしくは、インストラクショナルデザインに関心がある教職員。

*** 対象校**

SPOD全加盟校

*** 目標**

右記参照

*** 講師**

仲道雅輝（愛媛大学総合メディアセンター兼教育企画室）

*** 日時**

9月6日(金) 15:30～17:30

*** 場所**

愛大ミュージム1階アクティブ・ラーニングスペース2

*** 受講定員**

24名

*** 主催**

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

*** メモ**

要問い合わせ

*** 申込先・問合せ**

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

*** 目標 ***

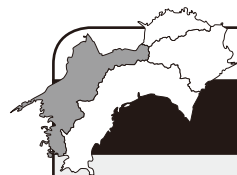
1. 「インストラクショナル・デザイン」が課題解決の方法論であることを説明できる。
2. 自分の授業を振り返り、到達目標を明確化するためのポイントが説明できる。
3. 学習者を動機づけるための一つの手法（ARCS動機づけモデル）を活用し、授業設計のヒントを得ることができる。

*** 内容 ***

本プログラムでは、これまで自身が実施してきた教育に対する考え方や実施方法について見つめ直し、何が課題であるかについて考えるところからはじめ、教育をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナルデザイン（以下、IDという）の中から、学習者を動機づけるための手法（ARCS動機づけモデル）や学習者の学びを支援するための働きかけに関する理論を事例とともに学び、ワークショップ形式にて課題解決策の糸口を探っていきます。

▶ 準備物について

筆記用具、具体的に改善したい課題がある場合はご自身のシラバスもしくは授業計画等



プログラム番号 I-044

学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？

FD/SD

*** 主な対象**

教職員

*** 対象校**

SPOD全加盟校

*** 目標**

右記参照

*** 講師**

岩中貴裕（香川大学・大学教育開発センター）

*** 日時**

7月2日(火) 15:00～17:00

*** 場所**

愛媛県立医療技術大学

*** 受講定員**

24名

*** 主催**

愛媛県立医療技術大学、SPOD

*** メモ**

要問い合わせ

*** 申込先・問合せ**

愛媛県立医療技術大学事務局経営企画グループ
E-mail : iryodai@epu.ac.jp

*** 目標 ***

1. 学生の学ぶ意欲を高めるための理論的な枠組みを説明できる。
2. 学生の学ぶ意欲を引き出す授業計画を立てることができる。
3. 授業内の活動を通じて学生の学ぶ意欲を引き出し保持することができる。

*** 内容 ***

学ぶ意欲は、学生の授業態度、授業外での自主学習の質や量、最終的に学習成果を決定する要因です。授業を通して学生のやる気を引き出すことは私たちの大切な役割です。DVD教材を使用する、グループ活動を行わせる、ゲーム的要素を盛り込む等、学生のやる気を引き出す方法は様々ですが、その場しのぎの活動になってしまうと学習成果は期待できません。学生のやる気を引き出し、そのやる気を保持するための理論的な枠組みを理解した上で、どのような授業活動を行うのかを考えていく必要があります。本プログラムを通して、参加者の皆さんに学生のやる気を引き出すための理論的な枠組みを理解していただき、授業に役立つ具体的なアイデアを互いに共有しましょう。

▶ 準備物について

皆さんは、授業を魅力的で分かりやすいものにするためにどのような工夫をしていますか。具体的に挙げられるように準備した上で講座に参加してください。

プログラム番号 I-008

動機を高め記憶に残る講義法ー理解・記憶・動機づけの理論ー(夏期FD・SDスキルアップ講座)

FD/SD

*主な対象

教える仕事に就いている全ての教職員、学習者の理解と記憶と動機を高めたい教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

佐藤浩章(愛媛大学教育企画室)

*日時

8月27日(火)13:00~17:00

*場所

愛大ミュージアムアクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. 知識獲得のメカニズムを図を使って説明できる。
2. 理解を促す3つの教授技法を説明できる。
3. 記憶を促す3つの教授技法を説明できる。
4. 動機を促す3つの教授技法を説明できる。
5. 自らの授業において、理解と記憶と動機を促進するためにすべきことを1つ以上、見出すことができる。

内容

新しい教育方法としてアクティブ・ラーニングが推奨されています。しかしながら、単に学生を活動に参加させるだけでは、アクティブ・ラーニングにはなりません。一方、様々な制約から講義法で授業を教えなければならぬこともあります。講義法においても、アクティブ・ラーニングを取り入れることは可能です。行動だけではなく思考においてもアクティブに学習させるためには、人間の認知のメカニズムを踏まえた、授業設計を行う必要があります。
本プログラムでは、2011年に実施したSPOD内教員ニーズアンケートでも要望の

高かった、「理解と記憶と動機づけ」に関わる心理学等の理論を、どのように授業に活用できるのかを学習します。理解する、記憶する、忘却する、学習動機を高めるとは、どういうことなのか。さらに理解や記憶を促し、忘却させない授業、動機を高める授業を設計するための工夫について考えます。レクチャーをベースに適宜ペアワーク、グループワークを入れ込みながら進めていきます。

はじめに、マイクロティーチング(1回目)

1. 講義法の意義

2. 知識獲得のメカニズム

3. 理解のメカニズム

3-1. 既有知と関連づける

3-2. 精緻化する

3-3. 注意を喚起する

4. 記憶のメカニズム

4-1. 繰り返す

4-2. 意味づける

4-3. 構造化する

5. 動機のメカニズム

5-1. 目標達成を促す

5-2. 自信をつける

5-3. 学習を自己制御させる

おわりに、マイクロティーチング(2回目)

プログラム番号 I-003

学生を眠らせない講義法のコツ(夏期FD・SDスキルアップ講座)

FD/SD

*主な対象

講義を受け持つようになって間もない教員。また、受講を希望される職員の参加も歓迎します。

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

小林直人(愛媛大学教育企画室)

*日時

4月4日(木)11:00~12:00

*場所

愛大ミュージアムアクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

- 1 講義中に学生の集中力を維持するための様々な講義スキルを学ぶ。
- 2 自分が担当する講義で活用できる講義の“パーツ”を列挙できる。
- 3 自分の講義中に複数の“シーン”を切り替えることができる。

内容

大教室でも可能なアクティブ・ラーニング(能動的学習法)の具体的な方法について皆さんと考えます。

(この講習自体が授業のメタファーです。授業の“シーン”が切り替わる様子を体験してください。)

- 1 小テストを体験してみる:「授業の“パーツ”」を列挙する
- 2 学生に質問を投げかける方法を体験してみる:大教室でのコミュニケーション
- 3 「Think, Pair, Share」の手法を体験してみる:小規模のグループワーク
- 4 質疑応答
- 5 アクティブ・ラーニングについて考えてみる:得るものと失うもの
- 6 宿題を出すことについて:授業時間外学習を促すために
- 7 まとめ

▶参考資料

「大学教員のための授業方法とデザイン」
佐藤・編、玉川大学出版部、2010

▶準備物について

自分が担当する授業のシラバス(もしあれば)



プログラム番号 K-008

クリッカーで教育・研究が変わる！

FD/SD

主な対象

教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

真鍋芳樹（香川大学アドミッションセンター）

日時

12月17日(火)13:30～15:30

場所

422講義室（幸町北キャンパス4号館2階）

受講定員

30名

主催

香川大学大学教育開発センター

メー切

開講日1週間前、先着順

申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室学修支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

- ・クリッカー&制御ソフト（TurningPoint）の使用方法を習得し、実際に使用できるようになる。
- ・クリッカーを用いた教育方法ならびに研究方法の展開を考えることができる。

内容

1. TurningPointのインストール
2. プレゼンテーション資料作成
 - 2-1.新規にスライドを作成する
 - 2-2.既存のPowerPointスライドを利用する
3. プレゼンテーション事前確認
4. プレゼンテーション実行
5. 集計結果の保存
6. 集計結果の利用



▶受講者の声

- クリッカーと言うものを、研修の案内があるまで知らなかったなので、興味を引く、また、すぐに理解度を知る方法があることが分かりよかった。
- 教員にすぐ理解度などがフィードバックされること
- 使い方をわかりやすく解説されていたので、非常に用いる気持ちが湧いた。
- 実際の授業場面に則して、使い方を理解することができる。

プログラム番号 K-020

New!!

教職員のための PowerPoint -分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方-

FD/SD

主な対象

PowerPointを仕事で使いたい、分かり易い話し方と聴き出し方を身につけたい、プレゼンのブラッシュアップを自分でしたい教職員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

立川明（高知大学総合教育センター）

日時

6月15日(土)9:30～12:30

場所

香川短期大学5階講義室

受講定員

70人

主催

香川短期大学, SPOD

メー切

要問い合わせ

申込先・問合せ

香川短期大学
E-mail : hino@kjc.ac.jp

目標

- PowerPointを使った資料作成の操作を同僚に教えられる。
- 分かり易く伝えるための話の組み立て方が説明できる。
- 分かり易い自己紹介ができる。

内容

- ・グループを作ろう！
- ・自己紹介しよう！
- ・PowerPointで資料を作ってみよう！
- ・自己紹介しよう！
- ・QUEの理論を学んでみる。
- ・QUEを使って自己紹介してみよう！

▶準備物について

- *PC（WindowsまたはMacでプレゼンウェアインストール済み）必携で参加下さい。
- 電源ケーブル、延長ケーブルもご持参下さい。
- *動画撮影できるデジカメ、携帯等を持参してください。
- デジカメ、携帯の充電と録画容量の確認を忘れずに！

プログラム番号 I-015

New!!

教職員のための PowerPoint - 分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方 (夏期 FD・SD スキルアップ講座)

FD/SD

*主な対象

PowerPointを仕事で使いたい
教職員
分かり易い話し方と聴き出し方
を身につけたい教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

立川明 (高知大学総合教育センター)

*日時

9月13日(金) 13:00~16:00

*場所

愛大ミューズ1階アクティブラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画
室 (教職員能力開発拠点), SPOD

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

PowerPointを使った資料作成の操作を同僚に教えらる。
分かり易く伝えるための話の組み立て方が説明できる。
分かり易い自己紹介ができる。

内容

- ・グループを作ろう!
- ・自己紹介しよう!
- ・PowerPointで資料を作ってみよう!
- ・自己紹介しよう!
- ・QUEの理論を学んでみる。
- ・QUEを使って自己紹介してみよう!

▶準備物について

- *PC (プレゼンウェアインストール済み) 必携で参加下さい。
電源ケーブルもご持参下さい。
- *動画撮影できるデジカメ、携帯等を持参してください。
デジカメ、携帯の充電と録画容量の確認を忘れずに!

プログラム番号 I-012

パワーポイント2010 基本技・便利技 (夏期 FD・SD スキルアップ講座)

FD/SD

*主な対象

パワーポイントの基本から、図形・
写真・グラフ・動画の挿入・アニメ
ーションについて学びたい方

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

二神透 (愛媛大学防災情報セン
ター)

*日時

9月6日(金) 13:00~15:00

*場所

総合メディアセンター演習室1

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教
育企画室 (教職員能力開発拠点)

*その他

要問い合わせ

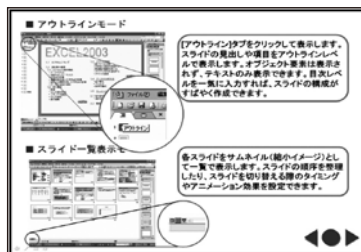
*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. プレゼンテーションと基本操作の習得
2. 図形・写真・表やグラフの作成・挿入
3. 動画の挿入・ハイパーリンクの活用
4. 各種アニメーションの設定と実行

▶参考資料



▶受講者の声

「今まで適当に使っていた機能の効率的な使い方が良く分かった。」
「基本的なものから、とても分かりやすく学べてよかったです。」

内容

1. 基本操作編
 - ・効果的なプレゼンとは
 - ・Power Point2010 の基本
 - ・スライド作成の基本
2. 図形・写真・表やグラフの作成・挿入
 - ・図形を描こう
 - ・写真の加工
 - ・表を作成しよう
 - ・グラフを作成しよう
 - ・パワーポイントへの挿入
3. 動画の挿入・ハイパーリンクの活用
 - ・ハイパーリンクとは
 - ・動画の挿入
4. 最終調整、資料準備編
 - ・スライドのデザイン
 - ・スライドショーの設定
 - ・配布資料の作成
5. プレゼンテーション実行編
 - ・スライドショー
 - ・動作設定ボタンの利用
 - ・アニメーション

プログラム番号 I-018

eラーニング入門 - Moodle ソフトを活用してきめ細やかな
学習支援を実現しよう (夏期 FD・SD スキルアップ講座)

FD/SD

*主な対象

eラーニングを使ってみたい、
eラーニングで何ができるのか
知りたい教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

仲道雅輝 (愛媛大学総合メディアセ
ンター兼教育企画室)、佐々木隆志 (愛
媛大学総合情報メディアセンター)

*日時

9月20日(金) 13:00~15:00

*場所

総合メディアセンター演習室 1

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教
育企画室 (教職員能力開発拠点)

*メ

要問い合わせ

*申込先・問合先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. eラーニングソフト Moodleを操作できるようになる。
2. eラーニングでの学習方法やLMS機能について説明ができる。
3. eラーニングのコースを作成できる。

内容

1. Moodleとは
2. コースへのログイン
3. コンテンツ (文書&動画) のアップロード
4. フォーラム (掲示板) によるディスカッション
5. レポート課題の提出
6. 小テストの作成と実施
7. アンケート機能
8. 採点と成績 (評定) の管理
9. メールの送信 (クイックメール)
10. 受講ログの確認



▶受講者の声

「資料が充実していて、わかりやすく受講できました。」

「学生とのコミュニケーションが出来き、細かい指導が可能だと思いました。」

プログラム番号 I-011

Adobe Premiere Elements を使った動画教材作成法 (夏期 FD・SD スキルアップ講座)

FD/SD

*主な対象

動画の基本編集と各種形式ファ
イルへの書き出し、DVDへの
書き込み方法を知りたい方

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

二神透 (愛媛大学防災情報セン
ター)

*日時

9月3日(火) 13:00~15:00

*場所

総合メディアセンター第1演習室

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教
育企画室 (教職員能力開発拠点)

*メ

要問い合わせ

*申込先・問合先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. Premiere Elementsの基本操作の習得
2. 複数動画の編集操作の習得
3. wmv, mpeg, DVDへの動画保存と再生



内容

1. はじめに
2. ソフトの起動
3. 画面説明
 - ・プロジェクトウィンドウ
 - ・モニタウィンドウ
 - ・ランタイムウィンドウ
4. 編集
 - ・ファイルの貼り付け
 - ・ファイルの確認
5. 映像に変化をつける
 - ・エフェクトの挿入
6. 録画したビデオの編集
 - ・タイトルの編集・保存
7. BGMの挿入
8. 各種形式ファイル書き出し
9. DVDへの書き込み
10. ムービーの再生

▶受講者の声

「授業で、例えば実験操作を映像にとって学生に示すことに役立てようと思っている。」
「初めて動画の取り込みを経験したので是非講義に試してみた。」

プログラム番号 I-017

New!!

聴覚障がい学生支援における合理的配慮とは (夏期 FD・SD スキルアップ講座) FD/SD

主な対象

教職員 (特に障がい学生が在籍している学部の教職員)

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

金澤貴之 (群馬大学教育学部)

日時

9月17日(火) 15:30~17:30

場所

愛大ミュージアムアクティブ・ラーニングスペース2

受講定員

30名

主催

教育・学生支援機構学生支援センター、
教育学生支援部バリアフリー推進室

メモ

要問い合わせ

申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. 障がい学生支援をめぐる行政の動きや法的根拠を理解する。
2. 聴覚障がい学生支援における基本的な視点を理解する。
3. 実際の授業における合理的な配慮のあり方について理解する。



▶参考資料

<http://www.ehime-u.ac.jp/section/bfree/index.html>

▶準備物について

受講生が用意するものは特にありません。

内容

障がい学生の高等教育進学者の増加していく中、愛媛大学を含めたいくつかの先駆的な大学では、障がい学生への支援体制を率先して構築してきました。そしてそうした大学が全国の大学を牽引していく形で、全国的にも支援体制の整った大学が増えつつあります。

その一方で、障がい者権利条約の批准を目指し、障がい者の権利に関する国内法が改正されていく中、2012年度から文部科学省高等教育局でも、本格的に障がい障がい学生支援の体制整備に乗り出しました。ここでキーワードとなる言葉が、改正障がい者基本法第4条でも規定された、「合理的な配慮」です。これまで先進的に支援体制を構築してきた大学も含め、「ボランティアによる障がい学生支援」から、法に基づく「権利としての障がい学生支援」への意識の転換が求められています。

では、「権利としての障がい学生支援」の視点に立った場合、実際の聴覚障がい学生支援においてどのような合理的な配慮が求められるのでしょうか。

本講座では、この問題について、皆様とともに考えていきたいと思います。

プログラム番号 T-003

FD・SDセミナー

遠隔

FD/SD

主な対象

SPOD加盟校の教職員、学生

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

未定

日時

奇数月に実施
(年4回程度実施予定)

場所

徳島大学 大学開放実践センター3階
授業研究インテリジェントラボ等

受講定員

40名程度

主催

徳島大学FD委員会

メモ

要問い合わせ

申込先・問合せ

徳島大学 教育改革推進センター
E-mail: t-spod@cue.tokushima-u.ac.jp

目標

教育方法・授業改善のために利用できる、様々な方法を習得するためのスキルアップと、学生支援や研究支援に必要な能力開発を目指す。

▶研修風景

(2012年度FD・SDセミナーより)



内容

現段階では未定であるが、開催する約1か月前までには決定し、決定次第ホームページ等でテーマ、詳細な内容、及び日時、場所等を周知する。

※参考として2011年度、2012年度に実施したセミナーのテーマを紹介する。

- ・授業時間外の英語学習支援体制
- ・学生と共に進める徳島大学のFD&学生支援の展望
- ・「共通教育賞」受賞者から学ぶ授業改善
- ・ティーチング・ポートフォリオ入門
- ・徳島大学全学FDの在り方～全FDへの提案～
- ・効果的なグループワークの技法
- ・図書館を利用した学習支援
- ・学生の学びを促すための取り組みとその背後にある教育観

※実施希望テーマ案として、「アクティブ・ラーニング」、「Institutional research (IR)について」などが挙げられている。

プログラム番号 I-046 **New!!****教育の質保証と学習成果アセスメント**

FD/SD

主な対象

教職員

対象校

SOPD全加盟校

目標

右記参照

講師

山田剛史（愛媛大学教育企画室）

日時

6月20日（木）14:00～

場所

松山大学（教室未定）

受講定員

60名

主催

松山大学FD委員会、SPOD

***メー**

開講日3週間前、先着順

申込先・問合先

松山大学教務部教務課

E-mail: morioka@
matsuyama-u.jp***目標***

1. 学習成果アセスメントをめぐる動向について知り、理解することができる。
2. 学習成果アセスメントに用いられる様々な方法の特徴について知り、理解することができる。
3. 所属組織において学習成果アセスメントの結果を有効活用するための方策についてデザインすることができる。

内容

大学のマス化に伴う学生の多様化、学生の進路先の多様化、大学の機能分化など状況の変化の中で、従来の大学の質保証システムは十分に機能することが難しくなっており、学生が大学教育をとおして具体的にどのような知識や技能を習得したか（学習成果）を明らかにしようとする学習成果アセスメントが、教育の質保証を補完するものとして注目されている。

本プログラムでは、学習成果アセスメントをめぐる議論を概観し、いくつかの事例やワークを踏まえて、所属組織において望ましい学習成果アセスメントの手段や活用方法について共に理解を深める。

プログラム番号 I-030

教育系外部資金獲得のための申請書作成ワークショップ

FD/SD

主な対象

これまでに教育系競争的資金獲得のための申請書を作成したことがある教職員。また今後、教育系競争的資金獲得のための申請書を作成する可能性のある教職員の方を歓迎いたします。

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

佐藤浩章、秦 敬治、山田剛史、大竹奈津子、阿部光伸（愛媛大学教育企画室）、仲道雅輝（愛媛大学総合メディアセンター兼教育企画室）

日時

3月中

場所

愛媛大学愛大ミュージズ

受講定員

30名

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

***メー**

要問い合わせ

申込先・問合先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

- ① 所属学部・学科の教育課題を複数あげることができる。
- ② 上記課題の解決を目的として、プロジェクトを企画することができる。
- ③ 資金申請書執筆の10のコツを参照しながら、上記企画を魅力的に記載することができる。

内容

高等教育に関する予算状況が厳しい中、各大学・学部には、教育系競争的資金（文部科学省等による教育改革を支援する資金、学内GP等の資金など）の獲得が、継続して求められています。こうした資金の獲得にむけて、申請書作成時のテクニックやポイントについて学びながら、実際に申請書を完成させていきます。

研修形態は、ミニレクチャーと、同じ組織内の参加者でのペアワークを組み合わせで実施されます。ペアワークでは、机の上での分類作業やパソコンを使った文書作成を行います。

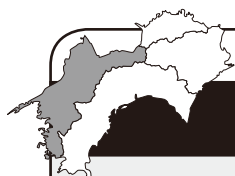
* 同じ機関、部局内で、2名ないし4名といった偶数名での参加が望ましい。1名でも作業は可能ですが、作業負荷が高くなります。また3名でも作業は可能ですが、パソコンでの共同作業がしにくくなります。

<ワークショップの流れ>

- (1) 講義「資金を獲得できる申請書づくりのための10のコツ」(30分)
- (2) 講義「大学教育改革のトレンドを読む2013-2014」(30分)
- (3) オptional・メニュー (60分)
以下のいずれかを選択できます。経験豊富な講師が作業をサポートします。
A: 申請書執筆
(個人もしくはグループ作業。申請予定の申請書様式並びにパソコンをご持参ください。)
- B: 所属組織の教育課題リストアップ
(ブレインストーミングとKJ法によるワークを通して、課題を洗い出します。)
- C: 申請書のコンサルティング
(すでに申請書を完成された方については事前に送付いただいた上で個別対応します。)

▶ 準備物について

オプション・メニュー Cを選択される方は事前に申請書を送付下さい。送付していただいた申請書は上記目的以外に使用いたしません。



プログラム番号 I-041

メンタルヘルス研修

FD/SD

*主な対象

教員、事務系職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

外部講師

*日時

6月上旬

*場所

愛媛大学会議室

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学総務部人事課

*メー

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学総務部人事課

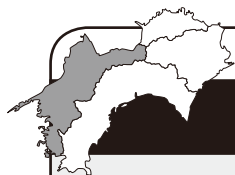
E-mail: jinshoku@stu.ehime-u.ac.jp

目標

・教員及び事務系職員に対し、不調者の早期発見・早期対処方法等についての基礎知識を習得させることにより、学生・教職員の心の健康保持増進を図る。

内容

メンタルヘルスへの対応について



プログラム番号 I-042

高等教育機関における安全衛生

FD/SD

*主な対象

教員、事務系職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

濱井盟子（愛媛大学医学部安全衛生管理室）、ほか

*日時

9月中

*場所

愛媛大学

*受講定員

20名

*主催

愛媛大学総務部人事課

*メー

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学総務部人事課

E-mail: jinshoku@stu.ehime-u.ac.jp

目標

1. 高等教育機関の職員として求められる安全衛生についての素養を習得することができる。
2. 他機関と課題を共有し意見交換することによって、自機関の安全衛生に係る課題解決が推進される。

内容

- ・安全衛生の基礎知識
- ・高等教育機関の安全衛生の動向について
- ・グループワークによる課題提起及び意見交換



▶受講者の声

- ・他大学の取り組みや状況がよく分かった。今後の参考にしていきたい。
- ・他大学の同じような立場の方と、話す機会が持て有意義だった。



FDer養成プログラム

(ファカルティ・ディベロッパー対象)

プログラム番号 T-001

FDファシリテーター (FD担当者) 養成研修

FDer

*主な対象

FDを担当する教員

*対象校

SPOD加盟校

*目標

右記参照

*講師

川野卓二, 宮田政徳, 香川順子,
吉田博 (徳島大学教育改革推進
センター)

*日時

6月22日(土)~23日(日)

*場所

独立行政法人国立青少年教育振
興機構「国立淡路青少年交流の
家」(兵庫県南あわじ市)

*受講定員

30名

*主催

徳島大学FD委員会

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

徳島大学 教育改革推進センター
E-mail: t-spod@cue.
tokushima-u.ac.jp

目標

この研修は一泊二日の合宿形式で行い、各大学・部局でFDを企画・実施する立場にあるFDリーダーを養成するものである。FD担当者として次の三つの目標を達成することを目指している。

1. FD活動の理念と活動計画を理解し、独自のFDプログラムを開発する。
2. FDリーダーとして活動できる能力と資質を体得する。
3. FDリーダー間の仲間づくり、FDネットワークづくりをする。

内容 (予定)

1日目

①オリエンテーション

(研修のねらいと進め方)

②アイスブレイク

③FD活動の理解

・FDとは何か?

・徳島大学全学FD推進プログラムの理解

④FDファシリテーターの役割とFD実践

・FDファシリテーターとは?

・各部局FDの紹介とその視点

⑤各部局FDの課題把握(ワーク)

⑥FDプログラムの企画・立案(ワーク)

〈夜〉交流会

2日目

①プログラム評価の仕方(講義・ワーク)

②FDプログラムの仕上げ(ワーク)

③FDプログラムの発表と相互交流

④研修のまとめ(感想・アンケート)

(備考)

※ワークの部分は、グループでのワークを中心に実施していきます。

※二日間通しの参加となります。一日だけの参加はできません。

※徳島大学~会場までの移動は、往復借り上げバスとなります。

▶研修風景 (2012年度FDファシリテーター養成研修より)



▶受講者の声 (2011年度FDファシリテーター養成研修アンケートより)

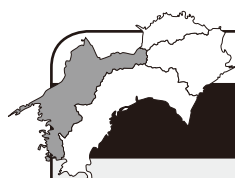
- FDの根拠、理論が分かった。
- FDへの取組の内容を知ることができた。
- FD研修を実践していくためのモチベーションアップにつながった。
- FDプログラムの組み立て方について、基本的なところを学べた。
- 他大学、他学部のような問題や対応が聴けて良かった。
- 宿泊研修のメリット(効果)を実感できた。

▶参考資料

FD担当者必携マニュアル第1巻「FDプログラムの開発・実施・評価」

▶準備物

- FD担当者必携マニュアル第1巻「FDプログラムの開発・実施・評価」
- FDプログラム作成用ノートパソコン
- FDプログラム「実施要項」及び「日程」のテンプレート(事前配布予定)



プログラム番号 I-028

ファカルティ・ディベロッパー養成研修

FDer

*主な対象

全学において2年以上FDを担当している教職員(全学FD委員、大学教育センター等教職員など)
(FDを担当して2年未満の教職員の方は、より基礎的な内容を学ぶ、FDファシリテーター養成講座への参加を推奨します(p.58参照)。学部等に所属している方も参加可能な場合があります。愛媛大学教育企画室にお問い合わせください。)

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

川島啓二(国立教育政策研究所)、井上史子(帝京大学)、小林直人、佐藤浩章、秦敬治、山田剛史、清水栄子、大竹奈津子(愛媛大学教育企画室)、仲道雅輝(愛媛大学総合メディアセンター兼教育企画室)

*日時

10月4日(金)13:00~
6日(日)15:00 終了予定

*場所

キャンパスプラザ京都

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

FDを企画・実施する立場にあるファカルティ・ディベロッパー(FDer)に求められる知識・技能・態度を育成することを目的とし、本研修では以下の到達目標を設定しています。

- 1) 自らのFD活動を振り返り、強みと課題を抽出することができる。
- 2) 新しい情報や他者からの助言を踏まえて、自らのFD活動に関わる課題の解決策を見出すことができる。
- 3) 各機関のニーズに対応したFDプログラムを開発することができる。
- 4) 他大学のFDerと意味のあるネットワークを構築することができる。

内容

1日目「FD活動の振り返りとFDニーズの把握」

ワークショップⅠ「FD活動の振り返り」

FDマップとFD活動分析シートを活用して、自らのFD活動の振り返りをします。グループ・ディスカッションを通して、課題解決の方途を探ります。

レクチャー：高等教育開発の意義と可能性

高等教育開発

ワークショップⅡ：ニーズに対応したFDプログラムの開発

FDプログラムをグループで開発する作業を通して、ニーズに対応したFD

2日目「ミクロ・ミドル・レベルのFD活動」※ワークショップⅢもしくはⅣを選択

ワークショップⅢ：【ミクロ・レベルのFD】授業アンケートの見直しと活用方法

現状の授業アンケートの項目、実施方法、活用方法を見直し、自大学の教育目標を達成するための意味あるツールとして作り変えます。・ワークショップ2：3つのポリシー策定とカリキュラム評価(ミドル・レベルのFD)

ワークショップⅣ：【ミドル・レベルのFD】IRの基礎とカリキュラム評価

IRとは何かという基本的な知識を学び、自大学のカリキュラムやプログラムの評価を行うために何から始めたらよいのか、どのような体制を学内に構築したらよいのかについてプランニングします。

3日目「マクロ・レベルのFD活動」と「アクションプランの作成」

ワークショップⅤ：【マクロ・レベルのFD】教学マネジメント組織のデザイン

教育に関する意思決定のあり方を見直し、自大学の理想的な教学マネジメント組織をデザインします。

(備考)

※基本的には3日間通しの参加となります。1日目、2日目については部分的な参加も可能ですが、3日目については、1日目と2日目の両日を参加された方のみ参加可能となっています。

※内容については、参加者のニーズにより変更することがあります。

▶研修風景 (2012年度FDファシリテーター養成研修より)

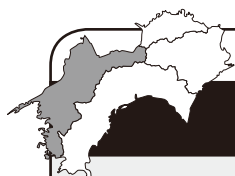






SDプログラム

(職員対象)



プログラム番号 I-032

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルI）第1回

SD

*主な対象

新任職員（H24年4月2日～
H25年4月1日採用の職員）

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

*講師

SPOD内講師

*日時

5月9日(木)～10日(金)

*場所

愛媛大学

*受講定員

60名

*主催

愛媛大学（教職員能力開発拠点）、SPOD

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学総務部人事課
E-mail: jinshoku@stu.
ehime-u.ac.jp

内容

・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルI）のうち、3つの研修科目を実施する。（原則として全部受講とするが、部分受講も可。）

■ビジネスマナー入門編

目標

- ・ビジネスマナーの基本を実践することができる
- ・一般的なビジネス文書を作成することができる
- ・議事録を作成することができる
- ・基本的な電話対応、接客対応を行うことができる

内容

- ・ビジネス文書とは ～基礎知識
- ・ビジネス文書作成時のポイント
- ・文書作成スキルを向上させるヒント
- ・議事録作成のポイント
- ・ビジネスマナーの基本
- ・来客対応・訪問のマナー
- ・電話対応
- ・「ホウ・レン・ソウ」の重要性



■コミュニケーション入門

目標

- ・傾聴することができる
- ・周囲の者と積極的に会話することができる
- ・上司、同僚に相談することができる

内容

- ・コミュニケーションのスタートライン
- ・職場のコミュニケーション～周囲の気持ちを理解する
- ・「聴く」スキル＝「傾聴力」のポイント
- ・「訊く」スキル＝「質問力」のポイント
- ・言いたいことをわかりやすく伝えるスキル

■職員キャリア形成入門

目標

- ・自分のキャリアを話すことができる
- ・自分のキャリアプランニングを作成することができる
- ・自己管理を行うことができる

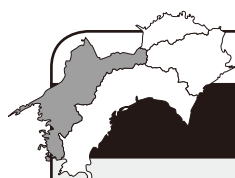
内容

- ・キャリアとは
- ・個人の特性を把握する
- ・これからを考える ～この2年、10年を主体的に生きる



▶受講者の声

- ・ビジネスマナー、コミュニケーションの大切さを再認識することができた。
- ・自分のキャリアを振り返り、自分の目指す場所を認識することができた。



プログラム番号 I-033

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルI）第2回

SD

* 主な対象 *

係員相当級の職員

* 対象校 *

SPOD全加盟校

* 目標 *

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

* 講師 *

SPOD内講師

* 日時 *

10月17日(木)～18日(金)

* 場所 *

愛媛大学

* 受講定員 *

30名

* 主催 *

愛媛大学（教職員能力開発拠点）、SPOD

* 大切 *

要問い合わせ

* 申込先・問合せ *

愛媛大学総務部人事課
E-mail : jinshoku@stu.
ehime-u.ac.jp

* 内容 *

・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルI）のうち、3つの研修科目を実施する。（原則として全部受講とするが、部分受講も可。）

■プレゼンテーション入門

* 目標 *

- ・相手に分かりやすい資料を作成することができる
- ・相手に分かりやすい説明をすることができる

* 内容 *

- ・プレゼンテーションの基礎
- ・誰でも簡単にプレゼンテーションを成功させるコツ
- ・プレゼンテーション資料の作成
- ・分かりやすい話しの組み立て方
- ・分かりやすい話し方
- ・「ヒアリング」スキルとは？



■タイムマネジメント論

* 目標 *

- ・上手な時間の使い方を説明することができる
- ・スケジュールの優先順位をつけることができる
- ・業務上の個人・係レベルのスケジュール計画・管理を行うことができる

* 内容 *

- ・時間管理について
- ・タイムマネジメントの原則
- ・優先順位のつけ方
- ・仕事を円滑に進めるためには？

■リーダーシップ入門

* 目標 *

- ・リーダーシップ（必要性、スタイル等）について述べるができる
- ・フォロアーシップ（必要性、手法等）について述べるができる
- ・自己の仕事レベルでリーダーシップを発揮することができる
- ・自己の仕事レベルでフォロアーシップを発揮することができる

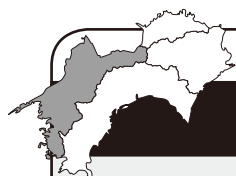
* 内容 *

- ・リーダーシップとは
- ・リーダーシップを発揮するための仕事力
- ・リーダーシップを発揮するための人間力



▶受講者の声

- ・プレゼンテーションで人に伝えるにはどうすべきか、考えるきっかけになった。
- ・実践レベルでの研修ができたので、仕事で役立つと思う。



プログラム番号 I-034

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅡ）

SD

*主な対象

係長・主任相当級の職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

仲道雅輝（愛媛大学総合メディアセンター兼教育企画室）、津曲陽子（愛媛大学教育企画室）

*日時

9月26日(木)～27日(金)

*場所

愛媛大学

*受講定員

30名

*主催

愛媛大学（教職員能力開発拠点）、SPOD

*※切

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学総務部人事課
E-mail : jinshoku@stu.
ehime-u.ac.jp

目標

- ・高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅡ）のうち、プロジェクト・イノベーション実践 区分1, 3, 5を実施する。（原則として全部受講とするが、部分受講も可。）

■プロジェクト・イノベーション実践

目標

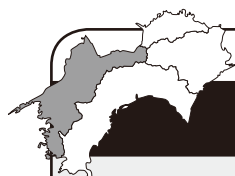
- ・新しい企画を提案することができる
- ・問題を見出し、プロジェクトとして企画することができる
- ・調査・企画ができ、分かりやすい資料を作成することができる
- ・効果的な企画書を作成することができる
- ・効率性を考えて、仕事をすることができる
- ・プロジェクトのスケジュール管理をすることができる
- ・プロジェクトの広報を行うことができる（HP、ポスター）

内容

- ・詳しい内容については、愛媛大学総務部人事課にお問い合わせください。詳細は決まり次第、SPODホームページ（<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>）に掲載しますので、ご参照ください。

▶受講者の声

- ・他機関の方と交流を深めることができた。
- ・職場にかえっても実践可能な内容だったので良かったと思う。



プログラム番号 I-035

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅢ）

SD

* 主な対象

課長，課長補佐相当級の職員

* 対象校

SPOD全加盟校

* 目標

右記参照

* 講師

阿部光伸（愛媛大学教育企画室），米澤慎二（愛媛大学教育
学生支援部）

* 日時

7月4日(木)～5日(金)

* 場所

愛媛大学

* 受講定員

30名

* 主催

愛媛大学（教職員能力開発拠点），SPOD

* 〆切

要問い合わせ

* 申込先・問合せ先

愛媛大学総務部人事課
E-mail : jinshoku@stu.
ehime-u.ac.jp

* 目標 *

- ・ 高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

* 内容 *

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅢ）のうち，人材育成論区分1・4・5を実施する。（原則として全部受講とするが，部分受講も可。）

■ 大学政策論

* 目標 *

- ・ 部下の仕事状況に応じた管理を行うことができる
- ・ 仕事内容と部下の適正に応じた仕事の割り振りを行うことができる
- ・ メンタルヘルス等について配慮することができる
- ・ 適正な人事評価をもとに部下の能力を向上することができる
- ・ 組織や集団のマネジメントを行うことができる

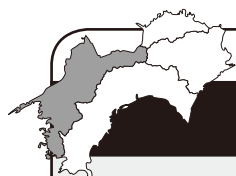
* 内容 *

詳しい内容については，愛媛大学総務部人事課にお問い合わせください。
詳細は決まり次第，SPODホームページ（<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>）に掲載しますので，ご参照ください。

▶ 受講者の声

- ・ 他大学の方との交流や情報交換ができた。
- ・ 専門的な知識，スキルを身につけることができ，視野が広がった。





プログラム番号 I-036

New!!

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（共通科目）

SD

主な対象

OA事務中級職員（業務で多数のExcel形式の表、データや帳票等を使用している方）

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

仲道雅輝（愛媛大学総合メディアセンター兼教育企画室）、池住元秀、瀧本笑子（愛媛大学総合情報メディアセンター）

日時

12月上旬
（1泊2日）

場所

愛媛大学総合メディアセンター
内演習室

受講定員

30名

主催

愛媛大学（教職員能力開発拠点）、SPOD

その他

要問い合わせ

申込先・問合先

愛媛大学総務部人事課
E-mail: jinshoku@stu.
ehime-u.ac.jp

目標

・高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（共通科目）のうち、情報科学応用編 区分2「Access」を実施する。（原則として全部受講とするが、部分受講も可。）

■情報科学応用編「Access」基礎

（Microsoft Office Access2010の活用方法をパソコンを用いた演習を交えて習得します。）

目標

- ・データベースとは何かを説明することができる
- ・データベースを設計・作成できる
- ・テーブルを作成できる
- ・リレーションシップを作成できる
- ・クエリを利用できる
- ・フォームの作成と編集ができる
- ・レポートを利用できる

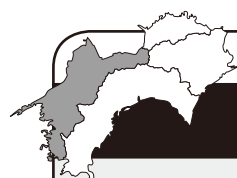
内容

- ・Accessの基本操作
Accessの概要、画面構成、データベース操作など、Accessを操作するうえで知っておきたい基礎知識
- ・データベースの設計と作成
- ・テーブルによるデータの格納
フィールドの設定、主キーの設定、データ入力、データのインポートなど
- ・リレーションシップの作成
- ・クエリによるデータの加工
共有フィールドの結合、演算フィールドの作成など、データを加工する方法
- ・フォームによるデータの入力
データを効率よく入力するための画面を作成する方法
- ・クエリによるデータの抽出と集計
条件に合致するデータを抽出したり、データを集計したりする方法
- ・レポートによるデータの印刷
データをさまざまな形式で印刷する方法
- ・便利な機能
ナビゲーションフォームの作成、ピボットテーブルとピボットグラフの作成、オブジェクトの依存関係の確認などデータベースを活用するときに役立つ便利な機能



▶受講者の声

- ・Accessを活かしきれていなかったことがあり、業務や抽出内容の幅が広がった。
- ・実務で使用はしていたが、研修を受けたことで内容の改善に着手できそうである。



プログラム番号 I-039

学務系職員養成プログラム研修（レベルⅠ）

SD

*主な対象

現在、学務系業務を担当している係員相当級の職員
今後、学務系業務に携わる意欲のある係員相当級の職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

SPOD内講師

*日時

SPODフォーラム期間中

*場所

愛媛大学

*受講定員

各30名

*主催

愛媛大学（教職員能力開発拠点）、SPOD

*メー

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育企画課

E-mail : spod@stu.ehime-u.ac.jp

目標

・高等教育機関の学務系業務担当職員として求められる専門的な素養を習得することができる

内容

学務系職員養成プログラム（レベルⅠ）のうち、3つの研修科目を実施する。（原則として全部受講とするが、部分受講も可。）

■入試広報入門

目標

・入試制度について説明することができる。
・募集要項について説明することができる。

内容

※受講者募集時の募集要項参照。

■就職支援入門

目標

・学生にエントリーシート・履歴書の書き方を指導することができる。
・学生に効果的な面接について説明することができる。

内容

※受講者募集時の募集要項参照。

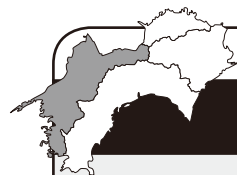
■対学生コミュニケーション入門

目標

・学生が話した内容を的確に述べるができる。
・学生が納得するように説明することができる。
・積極的に学生に関わることができる。
・学生の手本となる言動をとることができる。

内容

※受講者募集時の募集要項参照。



プログラム番号 I-040 New!!

学務系職員養成プログラム研修（レベルⅡ）

SD

*主な対象

係長・主任相当級の職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

SPOD内講師

*日時

7月中旬
（1泊2日）

*場所

愛媛大学

*受講定員

各30名

*主催

愛媛大学（教職員能力開発拠点）、SPOD

*メー

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育企画課

E-mail : spod@stu.ehime-u.ac.jp

目標

・高等教育機関の学務系業務担当職員として求められる専門的な素養を習得することができる

内容

学務系職員養成プログラム（レベルⅡ）のうち、3つの研修科目を実施する。（原則として全部受講とするが、部分受講も可。）

■課外活動支援実践

目標

・サークルリーダー養成やサークル活動のための企画を実施することができる。

内容

※受講者募集時の募集要項参照。

■FD実践

目標

・自大学等のFDを教員と一緒に分析することができる。
・FDを教員と一緒に企画・実施することができる。

内容

※受講者募集時の募集要項参照。

■キャリアカウンセリング実践Ⅰ

目標

・学生の自己分析データを基に進路選択の助言をすることができる。
・就職活動が順調でない学生の問題点を分析・指導することができる。

内容

※受講者募集時の募集要項参照。

プログラム番号 I-037, Y-017, K-017, T-007

次世代リーダー養成ゼミナール

SD

*主な対象

- ・以下の条件を満たす者。
- ・40歳以下を原則とする
- ・各機関の長が推薦する者
- ・SPOD加盟校の職員
- ・次世代リーダー養成研修受講希望者は、スタッフ・ポートフォリオWSを受講し、受講申し込み時に提出すること
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（400文字程度）で提出できる者
- ・専門職養成プログラム（共通教育・専門教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

外部講師、SPOD内講師

*日時

第1回 5月23日(木)～25日(土)
 第2回 8月1日(木)～3日(土)
 第3回 11月14日(木)～16日(土)
 第4回 1月23日(木)～24日(金)

*場所

第1回 愛媛大学
 第2回 南大阪コンソーシアム(会場提供)
 第3回 香川大学
 第4回 徳島大学

*受講定員

15名

*主催

SPOD

*協力校

高知大学

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学総務部人事課
 E-mail: jinshoku@stu.
 ehime-u.ac.jp

目的

将来、事務職員がトップリーダー（経営者・管理者）として、大学等の経営を担うために必要な知識（理論）・技能（実践力）・態度を段階的に養成する。

目標

【知識（理論）】

大学等の経営に必要な以下のことができる。

- ・高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用する。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用する。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用する。

【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要な以下のことができる。

- ・情報収集・分析を行う。
- ・企画策定・提案を行う。
- ・判断を行う。
- ・折衝・調整を行う。
- ・後継者育成を行う。

【態度】

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

※講義については、SPODへ開放する予定

内容

1年目

第1回 1日目

- ・オリエンテーション
- ・アイスブレイク
- ・二年目受講生とのメンタリング実践Ⅰ
- ・リーダーシップ論&実践Ⅰ
- ・E L S

2日目

- ・高等教育ⅠR
- ・高等教育政策論
- ・自大学プレゼンテーション

3日目

- ・高等教育史
- ・自大学プレゼンテーション

第2回 1日目

- ・課題プレゼンテーション
- ・トップリーダーとの対談準備

2日目

- ・トップリーダーとの対談
- ・大学のガバナンスとマネジメント

3日目

- ・二年目受講生によるSPODフォーラムプログラム講義と講評
- ・トップリーダーとの対談振り返り
- ・自大学プレゼンテーション

第3回 1日目

- ・一年目受講生と南大阪コンソーシアム受講生による課題プレゼンテーション
- ・講話
- ・大学職員になろうキャンペーン・企画

2日目

- ・大学職員になろうキャンペーン・企画
- ・危機管理論&実践



**第4回 1日目**

- ・二年目受講生による終了プロジェクト発表

2日目

- ・課題プレゼンテーション
- ・フォローアップ実践
- ・インストラクショナルデザイン（ID）を活用した職員による企画・立案マネジメント

3日目

- ・二年目受講生とのメンタリング実践Ⅱ
- ・大学職員になろうキャンペーン・企画 発表
- ・2年目に向けての意見交換
- ・講話
- ・二年目受講生による発表「次世代リーダー養成研修を振り返って」
- ・修了式

2年目**第5回 1日目**

- ・メンター入門
- ・一年目受講生へのメンタリング実践Ⅰ
- ・SPODフォーラム用シラバス作成
- ・ELS

2日目

- ・プロジェクト企画進捗報告
- ・一年目受講生による自大学プレゼンテーション
- ・SPODフォーラム用シラバス作成

3日目

- ・高等教育史
- ・一年目受講生による自大学プレゼンテーション

第6回 1日目

- ・SPODフォーラムプログラム準備
- ・プロジェクト企画進捗報告

2日目

- ・SPODフォーラムプログラム準備

3日目

- ・SPODフォーラムプログラム講義と講評

第7回 1日目

- ・プロジェクト企画進捗状況報告
- ・SPOD-SDプログラム講師を目指して
- ・講話
- ・大学職員になろうキャンペーン・企画

2日目

- ・大学職員になろうキャンペーン・企画
- ・リーダーシップ論&実践Ⅱ

第8回 1日目

- ・修了プロジェクト発表

2日目

- ・一年目受講生による課題プレゼンテーション
- ・最終口頭試問

3日目

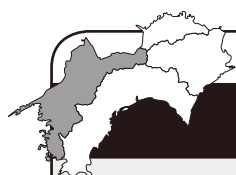
- ・一年目受講生へのメンタリング実践Ⅱ
- ・一年目受講生による大学職員になろうキャンペーン・企画の発表
- ・SDプログラム構築実践
- ・発表「次世代リーダー養成研修を振り返って」
- ・修了式

修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。
- ・修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

▶受講者の声

- ・毎回プレゼンテーションでは、評価シートでプレゼンを評価されるため、自身を振り返ることができた。また、プレゼンテーションスキルを身につけることができた。
- ・プレゼンテーションや課題・講義をとおして、自大学について勉強することができた。
- ・多くの他大学の講師や研修生との出会いがあり、話を聞くことができた。
- ・他大学の方と親密に接する機会ができた。



プログラム番号 I-038

高等教育トップリーダーセミナー

SD

*主な対象

大学、短期大学及び高等専門学校
の学長、校長、理事、副学長、
事務局長、部長クラス

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

外部講師、SPOD内講師

*日時

SPODフォーラム期間中

*場所

愛媛大学

*受講定員

未定

*主催

SPOD

*メー

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学総務部人事課
E-mail: jinshoku@stu.
ehime-u.ac.jp

目的

・高等教育界をリードする大学等のトップリーダー（経営者・管理者）として、
大学等の経営管理を担うために必要な情報を収集し、トップリーダーとしての能
力を高めることを目的とする。

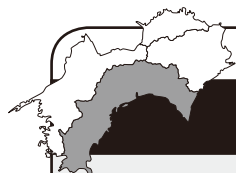
内容

下記のプログラムの中から、希望するプログラムを選択し、受講する。

【プログラム】

- (1) 教育論・高等教育論
- (2) 高等教育史
- (3) 教育法規
- (4) 高等教育政策・行政
- (6) 経営管理
- (7) 財務管理
- (8) 危機管理
- (9) 教育研究の水準向上
- (10) 地域・諸外国との連携や貢献
- (11) リーダーシップ論
- (12) 学生支援

※特定非営利活動法人大学職員サポートセンターが行っているプログラムを参考



プログラム番号 Y-013

スタッフ・ポートフォリオ入門ー職員と大学が共に輝くためにー SD

*主な対象

職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

阿部光伸（愛媛大学教育企画室）

*日時

9月中

*場所

高知県立大学 池キャンパス

*受講定員

40名

*主催

高知県立大学・高知短期大学、
SPOD

*メー

要問い合わせ

*申込先・問合せ

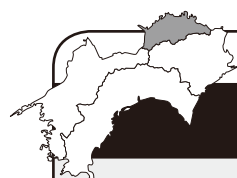
高知県立大学法人 法人経営室
E-mail: houjin@
cc.u-kochi.ac.jp

目標

スタッフ・ポートフォリオ（職員業績記録）について理解を深め、大学職員とし
てのビジョンとゴールを明確にすると共に業績をまとめ、職員としてのキャリア
アップを目指す。

内容

スタッフ・ポートフォリオ（職員業績記録）は、職員としての業績をエビデンス
に基づき振り返ることで自身のビジョンとゴールを明確にすることができ、個人
と組織のベクトルをマッチングさせることが出来るツールです。本プログラムで
は、スタッフ・ポートフォリオの有益性とは何かなどを明示した後に、ワーク
ショップをつうじて、スタッフ・ポートフォリオは、大学や大学職員人事マネジ
メントにどのような影響や効果を与えるのか、職員個人にどのような影響や効果
があるだろうか、さらには、簡単に作成することができるのか、作成する場合に
重要なこととは何かといった疑問を一つずつ解決できるようなプログラムです。



プログラム番号 K-016

New!!

若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座

SD

*主な対象

自らが若手・中堅職員であると思われる方であればどなたでもOKです！

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

秦 敬治（愛媛大学教育企画室）

*日時

6月28日(金)13:15～17:15

*場所

香川大学研究交流棟5階

*受講定員

60名

*主催

香川大学経営管理室給与福利グループ、SPOD

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

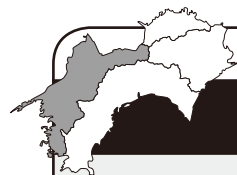
香川大学
経営管理室給与福利グループ
E-mail: jinsenm@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目的

1. 判断力と決断力の違いを説明することができる。
2. 組織の中で判断力・決断力が何のために必要なのかについて、説明することができる。
3. 効果的な判断・決断を行うためのコツを説明することができる。
4. 様々な場面で効果的な判断と決断を下すことができる。

内容

判断・決断は上司や役職者だけが行うものだと思っていませんか。実は、若手・中堅職員においても、業務の中で、判断・決断を下さなければならない場面は多々あります。あなたはどのように判断・決断を行っていますか？そもそも、判断と決断の違いとは何でしょうか？また、判断を速やかに行うには何が必要であり、決断を下すには何をもとに行えば良いのでしょうか？判断や決断が速やかな人は好感を持たれますが、その判断や決断が誤っていると信頼を失います。また一方で、決定しやすい判断が良い判断とは限りません。このように、本セミナーでは、判断力と決断力の違い、それらを効果的に行うために必要な条件を理解した上で、実践トレーニングを行うことで参加者の皆さんの判断力・決断力スキルの向上を図ります。当日は、レクチャーやグループワーク、ディベートなどを組み合わせ、進めていきます。



プログラム番号 I-045

New!!

若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座

SD

*主な対象

自らが若手・中堅職員であると思われる方であればどなたでもOKです！

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

仲道雅輝（愛媛大学総合メディアセンター兼教育企画室）

*日時

8月30日(金)13:30～16:30

*場所

聖カタリナ大学 第1会議室

*受講定員

50名

*主催

聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部SD委員会、SPOD

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

聖カタリナ大学聖カタリナ大学短期大学部 総務課
E-mail: soumu@catherine.ac.jp

目的

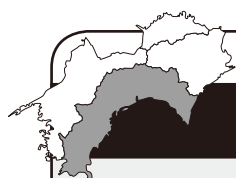
1. 判断力と決断力の違いを説明することができる。
2. 組織の中で判断力・決断力が何のために必要なのかについて、説明することができる。
3. 効果的な判断・決断を行うためのコツを説明することができる。
4. 様々な場面で効果的な判断と決断を下すことができる。

内容

判断・決断は、上司や役職者だけが行うものだと思っていませんか。若手・中堅職員でも業務の中で、リーダーとして判断・決断を行う機会が多々あると思います。どのように判断・決断を行っていますか？判断と決断の違いとは何でしょうか？また、判断を速やかに行うには何が必要であり、決断を下すには何をもとに行えば良いのでしょうか？判断や決断が速やかな人は好感を持たれますが、その判断や決断が誤っていると信頼を失います。さらに、賛成者が多い、意見が出ない提案は必ずしも良いこととは限りません。本セミナーでは、判断力と決断力の違い、それらを効果的に行うために必要な条件を理解した上で、判断・決断を行う場面を設定した上で、実践トレーニングを行うことでスキルの向上を図ります。当日は、レクチャーやグループワーク、ディベートなどを組み合わせ、進めていきます。

▶準備物について

筆記用具



プログラム番号 Y-014

New!!

若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座

SD

*主な対象

自らが若手・中堅職員であると思われる方であればどなたでもOKです！

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

阿部光伸（愛媛大学教育企画室）

*日時

7月26日（金）13:30～16:30

*場所

高知工科大学

*受講定員

50名

*主催

高知工科大学、SPOD

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

高知工科大学人事部
E-mail: personnel@
ml.kochi-tech.ac.jp

目的

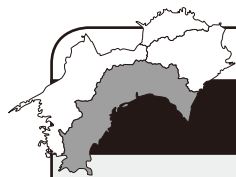
1. 判断力と決断力の違いを説明することができる。
2. 組織の中で判断力・決断力が何のために必要なのかについて、説明することができる。
3. 効果的な判断・決断を行うためのコツを説明することができる。
4. 様々な場面で効果的な判断と決断を下すことができる。

内容

判断・決断は、上司や役職者だけが行うものだと思っていませんか。若手・中堅職員でも業務の中で、リーダーとして判断・決断を行う機会が多々あると思います。どのように判断・決断を行っていますか？判断と決断の違いとは何でしょうか？また、判断を速やかに行うには何が必要であり、決断を下すには何をもとに行えば良いのでしょうか？判断や決断が速やかな人は好感を持たれますが、その判断や決断が誤っていると信頼を失います。さらに、賛成者が多い、意見が出ない提案は必ずしも良いことだとは限りません。本セミナーでは、判断力と決断力の違い、それらを効果的に行うために必要な条件を理解した上で、判断・決断を行う場面を設定した上で、実践トレーニングを行うことでスキルの向上を図ります。当日は、レクチャーやグループワーク、ディベートなどを組み合わせ、進めていきます。

▶準備物について

筆記用具



プログラム番号 Y-011

大学職員のための企画力養成講座

SD

*主な対象

職員（原則として年齢40歳未満の職員）
※以下の該当者は除きます。①平成24年4月2日以降の採用者 ②過去の参加者 ③SPOD次世代リーダー養成セミナーの受講生及び修了生

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

阿部光伸（愛媛大学教育企画室）

*日時

7月18日（木）13:00～17:00

*場所

高知大学総合研究棟2階会議室1

*受講定員

30名程度

*主催

高知大学人事課、SPOD

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

高知大学
総務部人事課労務管理係
E-mail: kj08@kochi-u.ac.jp

目標

- ・問題発見手法を実践できる。
- ・多くの情報をグループ化することができる。
- ・問題解決提案を行うことができる。
- ・企画を効果的にプレゼンテーションすることができる。

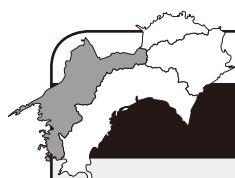
内容

職員に必要な能力として「問題発見・解決能力」がよく取り上げられている。このプログラムは、大学改革、業務改善を行っていく上での「問題発見・解決能力」と「企画提案力」の手法を学ぶものである。研修のための研修ではなく、このプログラムで身につけた手法や企画書を実際に大学に持ち帰り、上司や大学に提案できるよう、実践に即したスタイルで行う。

▶受講者の声（H24年度実施アンケートより）

- 意見のまとめ方を学ぶ事ができました。また、時間配分の難しさなど勉強になりました。
- もう一度自分の職場での態度等を見直すきっかけとなった。
- 企画力が具体的にイメージしづらくて抵抗感がありましたが、この研修で少しつかめたように思います。苦手意識がうすくなりました。
- 同世代の人達と業務について考えることができたので共感できることや参考になることがあった。
- 少人数（2～3人）によるプレゼンで、絶対に分担して一度はしゃべる点、また、コメントも絶対ということ、プレゼンする時も聞く時も一生懸命、話して聞けたと思う。頭を使った4時間でした。
- 普段では体験できない手法を習得できた。
- 業務改善の方法一つとっても、多くの意見が出され、その意見をさらに煮詰めていけばいいと知らされた。





プログラム番号 I-043

講師養成研修

SD

*主な対象

【1回目】

- ・説明会、プレゼンテーション等、人前で話すときに自信を持ちたい職員
- ・将来SPOD-SD講師を目指す職員

【2回目】

平成22年度～平成25年度講師養成研修を受講したSPOD加盟校の職員、次世代リーダー養成研修の修了者（1期生・2期生）

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

阿部光伸（愛媛大学教育企画室）

*日時

1回目：6月13日（木）～14日（金）

2回目：11月8日（金）

*場所

愛媛大学

*受講定員

20名

*主催

愛媛大学（教職員能力開発拠点）、SPOD

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ先

愛媛大学総務部人事課
E-mail：jinshoku@stu.
ehime-u.ac.jp

目標

- ・SPOD-SD講師としての心構えを持つことができる
- ・研修プログラムをデザインすることができる
- ・研修技法を述べることができる

内容

【1回目】

講師として総合的に必要な心構え、知識、技法について研修を実施する。（原則として全部受講とするが、部分受講も可。）

内容

- ・研修講師の役割と心構え
- ・研修プログラムデザイン
- ・レッスンプラン作成
- ・インストラクションの技術
- ・研修技法
- ・インストラクション演習

【2回目】

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅠ）のうち、コミュニケーション入門の講師をすることに特化した研修を実施する。（原則として全部受講とするが、部分受講も可。）

▶受講者の声

- ・説明の組立て方が学べた。
- ・業務に活かせる要素が多く、良かった。
- ・今までやっていたことを見直してみるきっかけができて良かった。

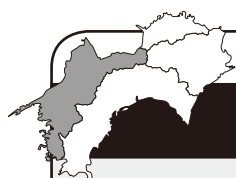






プレFDプログラム

(大学院生対象)



プログラム番号 I-029

教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ プレFD

*主な対象

将来、初等・中等教育や高等教育機関等で教える仕事に就きたい大学院生

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

1. 教え方の基本について説明ができるようになる。
2. 大人の学習の動機づけについて説明ができるようになる。
3. 自分の考えや知識を適切に伝えることができるようになる。
4. メンタリングの基本について説明ができるようになる。

*講師

仲道雅輝（愛媛大学総合メディアセンター兼教育企画室）、清水栄子、大竹奈津子（愛媛大学教育企画室）、吉田博（徳島大学教育改革推進センター）、山内一祥（佐賀大学高等教育開発センター）

*日時

9月12日(木)～13日(金)

*場所

愛媛大学愛大ミューズ

*受講定員

30名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

内容

1日目

1. オリエンテーション
 - ・研修の目的・目標の確認
 - ・スタッフの紹介とお願い
2. アイスブレイキング
 - ・自己紹介
 - ・グループワーク
3. グループワークⅠ
4. 講義Ⅰ
 - 「学びを促す授業と学びを妨げる授業」
 - 「セミナーの作り方」
 - ・教え方の基本
5. グループワークⅡ
 - 「授業開発Ⅰ」
 - ・目標設定
 - ・授業プラン作成
6. 講義Ⅱ
 - 「成人学習論」
 - ・動機づけ
7. 講義Ⅲ
 - 「メンタリングの基本」
 - ・メンタリングの基礎知識
 - ・メンタリングのコツ
8. グループワークⅢ
 - 「授業開発Ⅱ」
 - ・授業プラン作成
9. グループワークⅣ
 - 「授業開発Ⅲ」
 - ・授業プラン作成
10. グループワークⅤ
 - 「授業開発Ⅳ」
 - ・授業プラン作成

2日目

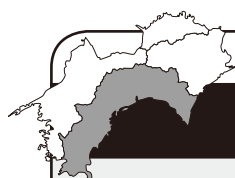
11. 講義Ⅳ
 - 「効果的なプレゼンテーション方法」
 - ・論理的に話すコツ
 - ・魅せるプレゼンの方法
12. グループワークⅥ
 - 「授業開発Ⅴ」
 - ・授業プラン作成
13. グループ発表
 - 「授業プランのプレゼン」
 - ・授業プラン紹介
 - ・他グループからのコメント
 - ・討議・検討
14. 閉会式・振り返り

※二日間通しの参加となります。一日だけの参加はできません。
※内容については、参加者の方のニーズにより変更することがあります。

▶参加者の声

- 研究発表の時、授業の時など、私生活でも、フレームを持って人に伝えるべきことを正確に伝える必要があるときに有効な知識やスキルが学べた。
- 教える仕事に関する不安が少し解消され、どう指導すればいいか、考えるのが楽しみになりました。
- 同じ院生同士で、なおかつ分野や大学の異なる方との交流ができたので、貴重だと思うし、本当に楽しく取り組むことができた。
- 授業プランを提出し、その後何度も改善点を指摘していただき、ありがとうございました。その視点で見ることによって、はじめて自分たちが満足できるプラン作りができたと思います。初心者である自分たちを導いてくれて感謝しています。
- 内容が実践的だった。
- サークルの後輩がよく自分のところへ相談に来るのでメンタリングはすぐ実践できると思った。





プログラム番号 Y-009

ファシリテーション力養成道場

プレFD

*主な対象

話し合いの質を高めたい学部生・院生、実際の授業でファシリテーターを経験したい学生

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

1. ファシリテーターらしい言動について自分の言葉で説明できる。
2. 話し合いのコンテンツとプロセスを区別できる。
3. 話し合いの場のデザインのポイントを挙げられる。
4. 意識的に傾聴と質問ができる。
5. 話し合いの時にボードの横に立つことができる。
6. ファシリテーションについてさらに勉強しようと思える。

*講師

<9月開催>

立川明、塩崎俊彦
(高知大学総合教育センター)

<2月開催>

俣野秀典、塩崎俊彦、立川明
(高知大学総合教育センター)

*日時

<9月開催>

9月26日(木)～27日(金)
10:00～17:00

<2月開催>

2月7日(金)～8日(土)
10:00～17:00

*場所

<9月開催>

高知大学共通教育棟3号館1階
311教室

<2月開催>

高知大学共通教育棟3号館1階
310教室

*受講定員

<9月開催> 20名

<2月開催> 30名

*主催

高知大学コラボレーション・サポート・パーク

*大切

要問い合わせ

*申込先・問合先

高知大学学務部学務課
E-mail: y-spod@
kochi-u.ac.jp

本プログラムは、ファシリテーションの考え方を知り、必要最低限の知識・技術を習得することにより、話し合いのファシリテーションを実践できるようになることを目的に開催されます。

ミニレクチャーとワークを交互に織り交ぜながら進めますので、参加者全員がファシリテーションを体感することができます。

内容

1日目

1. オープニング：趣旨の理解／アイスブレイク
2. FT（ファシリテーション）の考え方と基本を身につけるⅠ
3. FTの考え方と基本を身につけるⅡ
4. グループプロセスを観察する

2日目

1. アイスブレイク～模造紙にイロイロ書いてみよう
2. FG（ファシリテーション・グラフィック）の基本を身につける
3. FGのための図解の方法と板面の使い方
4. 総合演習

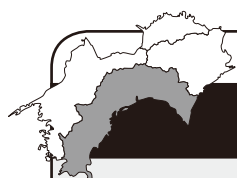
▶参考資料

畠中智子(2008)『つばやきの育て方』南の風社
堀公俊(2004)『ファシリテーション入門』日経文庫

▶参加者の声

- ・難しい内容かと思って構えていましたが、2日とも楽しく仲良く過ごせました。
- ・学んだことをすぐに体験しながら行うスタイルが良かったです。
- ・何よりも楽しい要素が多かった。かつ、悩めた。
- ・いままでの話し合いの方法と全く違う方法で、うまく話し合いができるということを知った。
- ・基礎的なことを学べたことは非常に満足ですが、これからの努力がもっと必要だと感じました。





プログラム番号 Y-010

New!!

TA講習

プレFD

*主な対象

2013年度二学期および2014年度一学期にTA、SA、FTを担当予定の者および将来担当希望の者

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

立川明(高知大学総合教育センター)

*日時

2013年9月30日(月)13:30~17:00

2014年3月31日(月)13:30~17:00

*場所

2013年9月30日(月)

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

2014年3月31日(月)

高知大学(朝倉キャンパス) 未定

*受講定員

TA担当予定者は制限無し

*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ先

高知大学学務部学務課

E-mail: ta-koushu@kochi-u.ac.jp

目標

TAを担当する上で注意すべき事が3つ言える。

TAの職務内容を3つ説明できる。

ホウ・レン・ソウの重要性が分かる。

内容

・グループ作り

・アイスブレイキング

・事務手続きについて(説明)

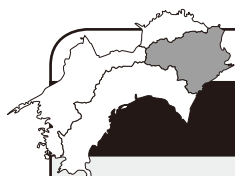
・TAとしての心得・注意点等(説明とグループワーク)

・職務内容(説明)

・社会人としての心得、ホウ・レン・ソウの重要性

・ふりかえり

総合プログラム



プログラム番号 T-004

大学教育カンファレンス in 徳島

FD/SD

*主な対象

教職員、学生、一般市民

*対象校

SPOD 全加盟校

*目標

特色ある授業実践・授業改善例やFD・SDの実践例を発表し、自身または、自機関での教育改善に生かすための情報を共有する。

*発表者

教職員、学生

*日時

年度末（12月～1月中）

*場所

徳島大学 大学開放実践センター1階講義室等

*受講定員

特になし

*主催

徳島大学FD委員会

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

徳島大学
教育改革推進センター
E-mail: t-spod@cue.
tokushima-u.ac.jp

内容

- ・特色ある授業実践例や授業改善例の発表と意見交換
- ・FD・SD実践例の発表と意見交換
- ・ワークショップによる模擬授業
- ・ラウンドテーブルによる課題の共有と意見交換
- ・教育・FD・SDに関する特別講演

○開催概要

- ・1年間の教育活動を総括する場で、四国の高等教育機関で行なわれている教育実践の先駆的な取り組みを共有し、大学教育の質的向上に向けた努力の成果を確認することを目的に開催する。
- ・各プログラムでは、各大学・部局における特色ある授業実践例や授業改善例などの報告・討議が行われ、その場で担当者や質疑応答ができ、より詳しい情報収集をすることができる。
- ・発表の形式には、「口頭発表」「ポスター発表」「ワークショップ」および「ラウンドテーブル」がある。2012年度も各学部及び、徳島県内の高等教育機関から発表があり、口頭発表は20件、ポスター発表は15件、ワークショップ1件、ラウンドテーブル2件であった。そのなかで徳島大学外からの発表が4件あり、ラウンドテーブルⅡでは、学外からの2名を含めた話題提供があった。また、「大学教育改革の課題」と題した特別講演が行われた。このように、1日を通してさまざまな形態のプログラムが実施され、高等教育に関する情報交換が行われる。

○研究発表について（2013年度）

- ・発表者は、常勤・非常勤を問わず、SPOD加盟校の教職員・学生・院生から募集する。
- ・発表内容：全学共通(教養)教育、学部専門教育、大学院教育、公開講座等の授業に関わるもの、また、職員や学生の能力開発に関わるものであること。教育改善・授業改善や、職能開発に関する実践報告にとどまらず、実践成果の評価の分析、および考察を含む発表を歓迎する。

▶準備物

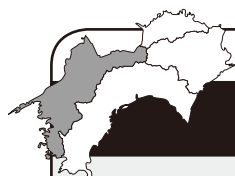
特になし。当日、発表抄録の配布あり。



【研修風景】（特別講演&ワークショップ：平成24年度大学教育カンファレンスin徳島より）

▶参加者の声（平成24年度大学教育カンファレンスin徳島より）

- 自分の経験を伝えることができ、非常に良い機会だった。
- 他の大学、高専の取り組みが良くわかり参考になった。学生活動の全国の様子もわかった。
- いま、大学“組織”が抱えている問題意識を知ることができた。



プログラム番号 I-031

愛媛大学教育改革シンポジウム

FD/SD

*主な対象

愛媛大学の教育内容・方法の改善について興味を持っている教職員、学生等

*対象校

SPOD 全加盟校

*目標

ポスターセッションでの質疑応答や講演の傍聴を通じ、現在、愛媛大学で進めている教育内容・方法の改善に関する取組について理解を深める。

*講師

愛媛大学教員（愛大GP取組担当者）

*日時

1～3月中

*場所

愛媛大学城北キャンパス

*受講定員

特になし。入場自由。

*主催

愛媛大学教育改革諮問委員会

*その他

要問い合わせ

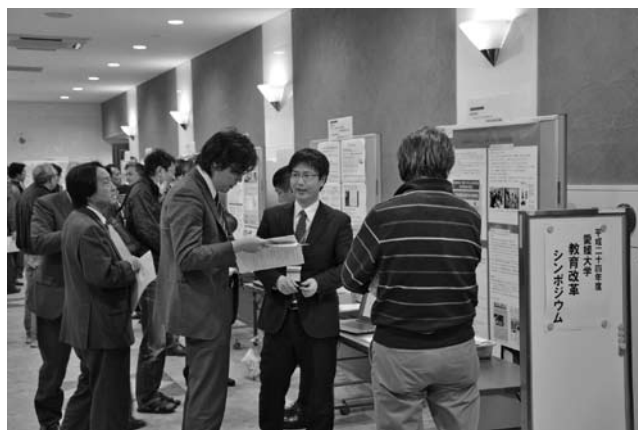
*申込先・問合せ

愛媛大学教育企画課

E-mail : spod@stu.ehime-u.ac.jp

内容

愛媛大学では、平成18年度から、学内での優れた教育取組に支援を行う「教育改革促進事業」（愛媛大学GP）を行っており、採択取組の進捗状況と成果について情報発信することを目的に、毎年「教育改革シンポジウム」を開催しています。主に、採択取組のポスターセッションと講演を中心に行っており、特にポスターセッションでは、その場での質疑応答を通じて、取組担当者の生の声をきくことができます。



▶参考：愛媛大学GPとは

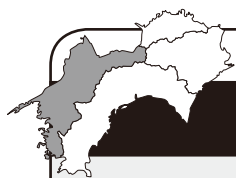
愛媛大学における優れた教育改革の取組を取り上げ、教育経費の重点配分を行い、教育の高度化・活性化を図る事業。学士課程及び大学院課程における組織基盤的な教育改革プログラムや組織横断的な教員グループによる創生的な教育開発プロジェクトを学内から公募。事業期間は2年間で、毎年12件程度の取組を採択。採択された取組の中には、さらに内容を発展させ、文部科学省のGPに応募、採択された例もある。

▶参考資料

平成24年度 採択プログラム・プロジェクト名	
教育学部	eラーニングの活用による実質的な「教職実践演習」の実施－学習の機会と質を保证するためのeラーニング－
理学部	フレッシュマン力全開プロジェクト～人間関係力とモチベーションの高揚～
理学部	E-Learningによる副教材学習システムの構築（3）～動画教材の充実と学生の主体的学習の促進～
医学部	ハワイ大学医学部との共同開発による実践型卒前多職種連携教育プログラム
附属高校	確かな学力と課題発見・解決能力を高めるeラーニング活用
農学部	愛大生の「社会人基礎力」向上のための「学生安全衛生リーダー」育成プログラム
英語教育センター他	英語学習の順次性・系統性を考慮した大学英語教育プログラムの構築 －共通テストの拡充、英語プロフェッショナル養成コースの拡充、E-learningシステムの拡充を通して－
法文学部・国際連携他	日本語リテラシー教育実践における授業システムの構築
学生支援センター他	初年次の健康教育教材の開発～健やかに学び続ける愛大生のために～
教育・学生支援機構他	わが国初、大学生用「食育学」テキストの作成

▶受講者の声

- 学内の取り組みで知らないこともあり、興味深く聞けました。
- 同様の取り組みを考え、実施していることの参考になるものが多かった。
- 他の取り組みを知ることで、自身の学部での取り組みに活かすことができる。



SPOD フォーラム 2013

FD/SD

*主な対象

教育改善に関心のある教職員

*対象校

SPOD 全加盟校

*日時

8月20日(火)～23日(金)

*場所

愛媛大学城北キャンパス愛大
ミュージアムなど

*主催

四国地区大学教職員能力開発
ネットワーク (SPOD)

*問い合わせ先

四国地区大学教職員能力開発
ネットワーク事務局(愛媛大学
教育学生支援部教育企画課)
TEL 089-927-9154
E-mail: spod@stu.
ehime-u.ac.jp

SPODフォーラムは…

大学等の教職員が自らの能力開発のために役立つ、多種多様で質の高いFD/SDプログラム、ならびに組織を超えた持続的な相互交流・関係づくりの場を提供します。

【SPODフォーラムの特徴】

特徴1. 多彩な講師陣

先進的な教育改革で知られる大学のトップ、各大学のFDやSDの第一線で活躍する教職員やディベロッパー、職場の人材育成・能力開発分野で活躍するプロフェッショナルなど、多彩かつ魅力的な講師陣をそろえます。

特徴2. 職場で使える実践型プログラム

講師と受講者の間でのインタラクティブなワークショップ形式のプログラムを数多く開講します。参加者には意見を出し合い、知を共同で作り上げることが求められると同時に、職場ですぐに使える実践的なノウハウを持ち帰ることができます。

特徴3. SDプログラムも多数開講

SPODでは、FD(教員の能力開発)同様にSD(職員の能力開発)に力を入れており、他では体験できないプログラムを数多く開講します。

【SPODフォーラム2013のテーマ】

「ポートフォリオ(TP, SP, LP)による教育の質向上」

SPODフォーラム全体の統一テーマを設定し、シンポジウム、ミニ作成ワークショップを行います。特にシンポジウムでは、パネリストによる実践事例報告を踏まえて、学生・教員・職員の能力開発にあたってのポートフォリオの意義、効果、活用方法等について議論を深めます。

プログラムの一例

- ・ティーチング・ポートフォリオ作成ミニワークショップ
- ・スタッフ・ポートフォリオ作成ミニワークショップ
- ・はじめてのラーニング・ポートフォリオ
- ・中退問題から見る経営改善ワークショップ
- ・発達障がい学生の支援

最新情報は、WEBで随時更新していきますので、ご確認ください(昨年同様、WEB上のみでの申込みを予定)

<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>





学内向け研修プログラム

学内向け研修プログラム

徳島大学

大学開放実践センター TEL : 088-656-9865 FAX : 088-656-9865
E-mail : t-spod@cue.tokushima-u.ac.jp 担当者/吉田

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
授業コンサルテーション・授業研究会	「教育力開発基礎プログラム」受講者+希望者	随時	大学開放実践センターの教員が中心となり授業改善のためのコンサルティングを行う。方法としては、授業参観(ビデオ録画・学生アンケートを含む)を行い、それらのデータをもとに授業記録を作成し、授業研究会を行う。学部FD委員会と共催で開催する。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

鳴門教育大学

経営企画本部 人事課 人事労務チーム TEL : 088-687-6265 FAX : 088-687-6072
E-mail : jinji@naruto-u.ac.jp 担当者/林

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新 任 職 員 研 修	新規採用者(教職員)	4月上旬	新任職員に対し、本学の中期目標・中期計画を基に本学が達成すべき諸課題等について研修を行い、本学の職員として必要な基礎的知識を養うことを目的とする。
放 送 大 学 研 修	事務系職員	第1学期：4月上旬～ 第2学期：10月上旬～	長期的な視点から業務への活用効果も考慮に入れた上で、選択した放送大学の授業科目を本学の事務系職員に履修させることにより、職務遂行に必要な幅広い知識を身に付けさせ、職員としての資質の向上を図ることを目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

香川大学

教育・学生支援室修学支援グループ TEL : 087-832-1153 FAX : 087-832-1155
E-mail : gakusenm4@jim.ao.kagawa-u.ac.jp 担当者/石井

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新 任 教 員 研 修 会	新規採用者(全学教員)	4月下旬	本学の新任教員を対象に、国立大学法人を取り巻く諸情勢と本学の今後の課題及び大学教育等について、理解を深めることを目的とする。
全 学 共 通 教 育 の 平 成 26 年 度 実 施 に 向 け た 研 修 会	全教員(特に平成26年度全学共通教育担当予定の教員)	12月中旬	全学共通科目担当にあたって、第1部では全学共通教育における現状と課題を把握し、現在取り組んでいる事業及び事務的な手続について知る。第2部では、各分科会に分かれ、授業改善に関する具体的な事例紹介と設定したテーマについての意見交換を行い、全学共通教育に関する理解を深める。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

愛媛大学

教育・学生支援機構 教育企画室 TEL : 089-927-8922 FAX : 089-927-8922
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp 担当者/大竹

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新 任 教 職 員 研 修	新規採用者(教職員)	4月2日(火)～3日(水)	新たに採用になった教職員に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
放 送 大 学 研 修	事務系・技術系職員	第1学期：4月上旬～ 第2学期：10月上旬～	放送大学の授業受講を通じて職務遂行に必要な知識を修得させ、その資質の向上を図ることを目的とする。
有 期 契 約 職 員 研 修	有期契約職員(事務系)	4月下旬	新たに採用になった有期契約職員(事務系)に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
英 語 研 修	教職員、有期契約職員	前期：5月上旬～ 後期：11月上旬～	職員の英語によるコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする。
会 計 系 実 務 研 修	事務系職員(主に会計系以外)	7月下旬	大学改革の推進等により、大学の会計系事務も複雑多岐にわたることから、会計系TL等が講師となり、担当チームの事務分掌等について講義することにより、本学事務系職員に会計系事務の必要な知識を修得させるとともに、事務系職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とし、職員相互の意識及び資質の向上を図る。

総務系実務研修	事務系職員 (主に総務系以外)	9月上旬	大学改革の推進等により、大学の総務系事務も複雑多岐にわたることから、総務系TL等が講師となり、担当チームの事務分掌等について講義することにより、本学事務系職員に総務系事務の必要な知識を修得させるとともに、事務系職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とし、職員相互の意識及び資質の向上を図る。
研究支援・社会連携・国際連携実務研修	事務系職員 (主に研究支援・社会連携・国際連携系以外)	10月下旬	大学改革の推進等により、大学の研究支援・社会連携・国際連携系事務も複雑多岐にわたることから、研究支援・社会連携・国際連携系TL等が講師となり、担当チームの事務分掌等について講義することにより、本学事務系職員に研究支援・社会連携・国際連携系事務の必要な知識を修得させるとともに、事務系職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とし、職員相互の意識及び資質の向上を図る。
人権啓発研修	教員及び事務系職員	10月中	教職員に対し、人権問題についての正しい認識を養うとともに、人権侵害を防止し、より一層快適な教育環境及び職場環境を整えることを目的とする。
教育学生支援実務研修	事務系職員 (主に学務系以外)	12月上旬	大学改革の推進等により、大学の学務系事務も複雑多岐にわたることから、学務系TL等が講師となり、担当チームの事務分掌等について講義することにより、本学事務系職員に学務系事務の必要な知識を修得させるとともに、事務系職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とし、職員相互の意識及び資質の向上を図る。
愛媛大学TA・SA研修会	TA・SAを活用する教員及び新TA・SA採用予定者	4月9日(火)	TA・SAの心構えや業務に就く際の注意事項を学び、わかりやすく教える技術を習得することを目的とする
教育コーディネーター研修会	各学部の教育コーディネーター	年4回程度	教育コーディネーター間での意思疎通を図り、教育改革の方向性について共通認識を持つことを目的としている。研修会テーマは毎回、全学的かつ重要な教育課題となるものを採りあげている。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

高知大学 学務部学務課 TEL:088-844-8652・8140 FAX:088-844-8367 E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp 担当者/有澤, 石川			
研修名	対象者	開催時期	目的・内容
全学新任教職員研修	新規採用者 (教職員)	4月上旬	新たに採用になった教職員に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
新任職員研修	新規採用者 (一般職員、施設系技術職員含む)	4月下旬	新たに採用となった事務職員に対し、本学の理念・目標など大学運営の基礎となる事項について理解させるとともに、新規採用職員として業務遂行に必要な基本的知識を習得させる。
学務系初任者研修	学務部(学務経験者を除く)に新たに勤務することになった職員	5月	学務をめぐる諸課題と学務部業務全般に関わる基礎的知識を習得させることを目的とする。
放送大学研修	附属学校教員、看護師等医療職員、事務職員(技術職員含む)	第1学期 4月上旬～ 第2学期 10月上旬～	本学職員に対し、自己啓発意欲の高揚と能力開発のために、放送大学の授業科目を受講して自己研鑽を行う機会を与えることにより、大学職員としての資質の向上を図る。
英会話研修 (初級・中級)	窓口業務など職務上英会話を必要とする者及び英会話能力を向上させたい者	(初級) 5月～7月 (中級) 11月～1月	事務職員に対し、大学の国際化に対応するため、英会話能力を身につけさせ、国際交流の推進役として“国際感覚のある職員を育成”することを目的とする。
事務職員研修報告会	全事務職員	各部(課)主催 随時 全学主催 12月	事務職員を対象に、研修受講者の発表能力(プレゼンテーション)の向上、受講しなかった者への情報提供等を目的とする。
学務系実務研修	学務部職員	年度内数回	学務関係の学外研修において得た情報や最新の学務をめぐる情報などの共有を図るとともに、講師となった学務部職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とする。
研究協力部SD研修会	研究協力部職員	年度内数回	研究協力部職員の幅広い知識を習得するとともに職員の連携を図ることを目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

四国大学・四国大学短期大学部

学部運営支援課 TEL: 088-665-9909 FAX: 088-665-9958
E-mail: gakuji@shikoku-u.ac.jp 担当者/石田

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新規採用教職員研修	新規採用者 (教職員)	4月上旬	本学教職員としての心構え並びに勤務にあたってこれからの教育や職務に対する必要な知識等を習得することを目的とする。
ポ ー ト フ ォ リ オ 研 修 会	全教職員	4月・9月・2月	ポートフォリオシステムの更なる周知、徹底を図り、利用促進に繋げることを目的に実施する。
就業力育成セミナー	全教職員	8月	学生への「就業力育成」に関する意識の向上やノウハウを学ぶことを目的に実施する。
パ ソ コ ン 研 修	教職員	8月・9月	情報セキュリティ対策の研修、ワード、エクセル等の練習問題に取り組みながら様々なテクニックを確認し、事務処理能力を向上していくことを目的とする。
大学事務運営懇話会	職員	9月	事務を本務とする職員が自らの研修と情報交換を行うことで、大学職員としての資質向上を図ることを目的とする。
人権啓発問題研修会	教職員	9月中旬	人権尊重の徹底と人権啓発の充実及び人権への意識を高めることを目的とする。
キャリア相談研修会	全教職員	9月・2月	学生のキャリア相談に応じる力量を向上させることを目的に実施する。
ハラスメント研修会	教職員	2月	セクハラ、アカハラ、パワハラについての認識を深めるとともに、修学、教育研究、就労上のすべてのハラスメントの防止及び排除することを目的とする。
教育問題懇話会	教職員	未定	これからの教育諸問題に対する適切な対応や指導の在り方についてお互いに意見交換を行い、解決策を探っていく。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部

教育・研究支援グループ TEL: 088-602-8670 FAX: 088-602-8781
E-mail: kyokeng@tokushima.bunri-u.ac.jp 担当者/新見

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修会	新任教職員	4月4日(木)	新任教職員に対し、本学の教職員としての使命と心構えについて自覚させるとともに、服務及び学務について理解させ、業務遂行に必要な基礎知識と能力等を要請することを目的とする。
研 究 授 業	全教員	前期及び後期	授業改善を目的とし、教員相互の授業参観を実施する。
防 災 研 修	全教職員	12月初旬	火災・地震・津波に対応する知識、役割等の研修を通して災害時の対応の仕方を身につけることを目的とする。
セクシャルハラスメント防止研修会	全教職員	2月中旬	セクシャルハラスメント防止の講演会を開催する。
学内人権教育研修会	全教職員	2月中旬	人権教育の観点から、講演会を開催する。
A E D (自動体外式除細動器) 講習会	全教職員	2月下旬	救急体制強化のための講演会を開催する。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

高松大学・高松短期大学

総務部企画課 TEL: 087-841-2164 FAX: 087-841-3064
E-mail: kikaku@takamatsu-u.ac.jp 担当者/高橋

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者 (教職員)	4月1日	新たに採用になった教職員に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
F D 研 修 会	専任教員、 非常勤講師	9月中旬、 2月中旬	全教員を対象に、本学における教育の現状と課題について理解を深め、具体的な対策を講じることを目的に、年2回実施する。
研 究 授 業	専任教員、 非常勤講師	6月、12月	授業の改善のために、各学部、学科で年2回研究授業を実施する。授業後には検討会を行い、互いの授業改善に活かすことを目的とする。
S D 研 修 会	専任職員	8月上旬、 1月上旬	活気のある事務局づくりを目指し、大学職員としての意識、知識、資質向上を目的に、年2回実施する。
放 送 大 学 研 修	専任職員	第1学期: 4月上旬~ 第2学期: 10月上旬~	放送大学の科目を履修することで、職員の資質向上及び自己啓発を目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部

学生部教務課 TEL: 089-993-1082 FAX: 089-993-0900
E-mail: kyomuka@catherine.ac.jp 担当者/矢野

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教員研修	新規採用者(教員)	4月3日(水)	新たに採用になった教員に対して、本学教員としての使命と心構えを自覚させるとともに、本学の建学の精神、教育理念、業務遂行に必要な基礎知識を養成することを目的とする。
F D 研修会	専任教員	2月	全専任教員を対象に、授業・教授法の改善、カリキュラム改善、組織の整備・改善等、更なる教育力向上を図ることを目的として実施する。
事務職員研修会	事務職員	8月、12月	時宜に応じたテーマの選定により、事務職員として必要な知識、情報、技術の習得を図る。また、学外研修において得た知識や情報の報告を行うことにより、その共有化を図るとともに、報告者のプレゼンテーション能力の向上を図る。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

TEL: 089-931-6211 FAX: 089-934-9055

E-mail: tokunaga@shinonome.ac.jp 担当者/徳永

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者(教職員)	4月1日(月)	新任教職員に対し、本学の建学の精神、学園の沿革および教育体制等について理解を深める。
学園創立記念教職員研修会	教職員	9月13日(金)	学園創立記念日(9月16日)にあわせ、建学の精神の浸透ならびに教育目標達成のために研修会を実施する。
S D 研修会	事務職員	8月、3月	事務職員の能力向上を目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

今治明德短期大学

TEL: 0898-22-7279 FAX: 0898-22-7857

E-mail: smori@meitan.ac.jp 担当者/原

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
H25年度新任教職員研修会	新任教職員	4月初旬	本学に対する理解を深め、教職員としての自覚を醸成する。
大学職員のICT入門	全教職員	5月	昨年に続き、職務遂行に必要なICT技術を学ぶ。
公開授業	全教員	6～7月	学科から選出された授業を公開し、参観後にディスカッションして、授業の質の向上に繋げる。
学内FD研修会	全教員	9月	学外SPOD講師による、教育方法の改善を目的とした研修をおこなう。
卒業生に対する授業評価	2年生	H26年3月	2年生に対し、卒業直前に満足度調査をおこない、授業の質の向上に繋げる。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

環太平洋大学短期大学部

総務課 TEL: 0895-22-0274 FAX: 0895-22-0274

E-mail: fujita@aitan.ac.jp 担当者/藤田

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新規採用者(教職員)研修	新規教職員	4月初旬	新規教職員に対し、本学の見学の精神・学園の沿革および教育体制等について理解を深めることを目的としております。
学生の自立を促す学生支援のコツ	全教職員	9月上旬～中旬頃	目標：学生の自立を促すために教職員の関わりについて、他大学の正課、正課外活動等の事例とコツを学び、自大学での取り組み案のたたき台を構築することを目指します。 内容：・事例大学(国立4大学)の実践事例紹介(実践事例とその特徴紹介と成果報告) ・導入の仕掛け(どうやって大学や学生、教職員を巻き込むか、大学に取り組みを認めてもらうか) ・事例大学での教職員の関わりのコツ(学生を自立させるためのコツ) ・学生の生の声紹介(学生プレゼンもしくはDVD映像) ・質疑応答 ・自大学で取り組むためのたたき台作成 講師：吉田 博(徳島大学教育改革推進センター)

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

阿南工業高等専門学校

総務課 TEL: 0884-23-7212 FAX: 0884-22-5424
E-mail: s-hosasoumu@anan-nct.ac.jp 担当者/吉本

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
夏季教員研修会	全教員	9月下旬	年に2回、時機にあったテーマを決めて、講演、分科会、ワークショップ等を実施し、教員の資質向上と円滑な学校運営を図ることを目的とする。
冬季教員研修会	全教員	11月下旬	

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

香川高等専門学校

総務課 TEL: 087-869-3864 FAX: 087-869-3819
E-mail: s_hosa@t.kagawa-nct.ac.jp 担当者/笹嶋

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教員研修	新任教員	4月・6月・10月	本学の新任教員に対して、教員としての心構えを自覚させるとともに、学校運営に必要な基礎知識の習得及び資質の向上を図ることを目的とする。
FD・SD研修会	全教職員	7月23日(火)	香川高専の課題とその対応を討議することにより、全教職員がそれらを共有する機会とすることを目的とする。
教育実践事例報告会	全教職員	12月	学生の教育意欲を増進させる教育実践事例や創意工夫などFDに寄与する事項を公開することにより、教職員のFDに対する意識高揚を目的とする。
ハラスメント防止講演会	全教職員	未定	セクシャル・ハラスメントが発生した場合の対応や再発防止措置を実施するための講演会を開催する。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

弓削商船高等専門学校

学生課教務係 TEL: 0897-77-4620 FAX: 0897-77-4693
E-mail: kyoumu@yuge.ac.jp 担当者/衣川、羽藤

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者(教職員)	4月1日	新たに採用になった教職員に対し、本校職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
クラスルームコントロール	教員	6月7日(金)	内容:「居眠りをさせないためのコツ」「私語をさせないためのコツ」といった、学生を授業にうまく引き込み、学生のモチベーションを最初から最後まで高く維持するための手法について学びます。とくに、授業の準備段階から、授業開始時、途中、終了時において、段階的に効果的な「しかけ」を活用することで、学生が集中して授業に取り組むようになる手法について、講師の実践例を紹介しながら学びます。 講師: 秦敬治(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長)

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

高知工業高等専門学校

総務課 TEL: 088-864-5601 FAX: 088-864-5606
E-mail: s-hosa@jm.kochi-ct.ac.jp 担当者/三宮

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者(教職員)	採用時	新たに採用になった教職員に対し、本校教職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
放送大学研修	教職員	1学期・2学期	放送大学高知地域学習センターの協力のもとに、職務遂行に必要な幅広い知識及び視野、基本的な社会知識を習得させ、教職員の資質の向上を図ることを目的とする。
心身の健康管理に関する講習会	教職員	未定	教職員の心身の健康管理について毎回テーマを絞り、正しい理解と対処方法についての知識を高めることを目的とする。
新任教員FD研修	本校着任以前に授業経験が3年未満の教員	通年	通年にわたり、指導教員との相互授業参観や指導教員からの授業方法等に関するアドバイス等を受けることで、授業力や教育力を向上させ、学生によりよい授業が提供できる教員育成を目的とする。
FD研修会	全教員	未定	テーマを絞った教育改善のための研修会を実施する。 (例) PBLとは? 楽しい授業とは?
教員の相互授業参観	全教員	7月中旬～9月中旬	教員が相互に授業を参観し、授業改善への意識の向上を図るとともに、学生が授業に取り組む姿勢を見学して授業改善の必要性を感じてもらうことを目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

各種研修プログラムの
お申し込み・お問い合わせ
について

■お申し込み・お問い合わせ先一覧■

徳島大学 〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1-1

徳島大学 教育改革推進センター (担当/吉田)

TEL : 088-656-9865 FAX : 088-656-9865 E-mail : t-spod@cue.tokushima-u.ac.jp
ホームページ <http://www.tokushima-u.ac.jp/>

香川大学 〒760-8521 香川県高松市幸町1-1

香川大学 教育・学生支援室修学支援グループ (担当/石井)

TEL : 087-832-1153 FAX : 087-832-1155 E-mail : gakusenm4@jim.ao.kagawa-u.ac.jp
ホームページ <http://www.kagawa-u.ac.jp/>

愛媛大学 〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

【FDプログラム】愛媛大学 教育・学生支援機構 能力開発室 (担当/猪崎, 秋山)

TEL : 089-927-8922 FAX : 089-927-8922 E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

【SDプログラム】愛媛大学 総務部人事課 (担当/大本, 神谷)

TEL : 089-927-9047 FAX : 089-927-9027 E-mail : jinshoku@stu.ehime-u.ac.jp
ホームページ <http://www.ehime-u.ac.jp/>

高知大学 〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5-1

【FDプログラム】高知大学 学務部学務課 (担当/有澤, 石川)

TEL : 088-844-8652 FAX : 088-844-8367 E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

【SDプログラム】高知大学 総務部人事課SD担当 (担当/川崎)

TEL : 088-844-8140 FAX : 088-844-8367 E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp
ホームページ <http://www.kochi-u.ac.jp/JA/>

香川県立保健医療大学 〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281番地1

香川県立保健医療大学 (担当/堀・新名)

TEL : 087-870-1212 FAX : 087-870-1212 E-mail : hokeniriyodaigaku@pref.kagawa.lg.jp
ホームページ <http://www.pref.kagawa.lg.jp/daigaku/>

愛媛県立医療技術大学 〒791-2101 愛媛県伊予郡砥部町高尾田543

愛媛県立医療技術大学事務局経営企画グループ (担当/芝)

TEL : 089-958-2111 FAX : 089-958-2177 E-mail : iryodai@epu.ac.jp
ホームページ <http://www.epu.ac.jp/>

高知県立大学・高知短期大学 〒781-8515 高知県高知市池2751-1

高知県公立大学法人 法人経営室 (担当/岡山, 石田)

TEL : 088-847-8574 FAX : 088-847-8670 E-mail : houjin@cc.u-kochi.ac.jp
ホームページ <http://www.u-kochi.ac.jp/>

高知工科大学 〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185

高知工科大学人事部 (担当/高橋)

TEL : 0887-53-1112 FAX : 0887-57-2000 E-mail : personnel@ml.kochi-tech.ac.jp
ホームページ <http://www.kochi-tech.ac.jp/>

四国大学・四国大学短期大学部 〒771-1192 徳島市応神町古川

四国大学学部運営支援課 (担当/久我)

TEL : 088-665-9909 FAX : 088-665-9958 E-mail : kugatakeshi@shikoku-u.ac.jp
ホームページ <http://www.shikoku-u.ac.jp/>

徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部		〒770-8514 徳島市山城町西浜傍180
徳島文理大学教育・研究支援グループ （担当／新見，藤本）		
TEL：088-602-8670・088-602-8664 FAX：088-602-8781 E-mail：kyoken@tokushima.bunri-u.ac.jp		
ホームページ http://www.bunri-u.ac.jp/		
高松大学・高松短期大学		〒761-0194 香川県高松市春日町960番地
高松大学・高松短期大学 総務部企画課 （担当／中岡）		
TEL：087-841-2164 FAX：087-841-3064 E-mail：kikaku@takamatsu-u.ac.jp		
ホームページ http://www.takamatsu-u.ac.jp		
聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部		〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地
聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部 総務課 （担当／大浦）		
TEL：089-993-0702 FAX：089-993-0900 E-mail：soumu@catherine.ac.jp		
ホームページ http://www.catherine.ac.jp/		
松山大学		〒790-8578 愛媛県松山市文京町4-2
松山大学教務部教務課 （担当／森岡）		
TEL：089-926-7137 FAX：089-923-8920 E-mail：morioka@matsuyama.jp		
ホームページ http://www.matsuyama-u.ac.jp/		
徳島工業短期大学		〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字蓮花谷100番地
徳島工業短期大学庶務課 （担当／山脇）		
TEL：088-672-2311 FAX：088-672-2162 E-mail：y.yamawaki@tokuco.ac.jp		
ホームページ http://www.tokuco.ac.jp		
香川短期大学		〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地
香川短期大学 （担当／日野）		
TEL：0877-49-8049 FAX：0877-49-5252 E-mail：hino@kjc.ac.jp		
ホームページ http://www.kjc.ac.jp/		
今治明德短期大学		〒794-0073 愛媛県今治市矢田甲688番地
今治明德短期大学FD委員会 （担当／河内）		
TEL：0898-22-7279 FAX：0898-22-7857 E-mail：kouti@meitan.ac.jp		
ホームページ http://www.meitan.ac.jp		
高知学園短期大学		〒780-0955 高知県高知市旭天神町292-26
高知学園短期大学教務課 （担当／佐竹）		
TEL：088-840-1121 FAX：088-840-1123 E-mail：kyoumu@kochi-gc.ac.jp		
ホームページ http://www.kochi-gc.ac.jp		
阿南工業高等専門学校		〒774-0017 徳島県阿南市見能林町青木265
阿南工業高等専門学校総務課 （担当／吉本）		
TEL：0884-23-7212 FAX：0884-22-5424 E-mail：s-hosasoumu@anan-net.ac.jp		
ホームページ http://www01.anan-nct.ac.jp/		
新居浜工業高等専門学校		〒792-8580 愛媛県新居浜市八雲町7-1
新居浜工業高等専門学校学生課教務係 （担当／井上，高倉）		
TEL：0897-37-7724 FAX：0897-37-7844 E-mail：kyoumu-c@off.niihama-nct.ac.jp		
ホームページ http://www.niihama-nct.ac.jp/		
高知工業高等専門学校		〒783-8508 高知県南国市物部乙200-1
高知工業高等専門学校総務課 （担当／三宮）		
TEL：088-864-5601 FAX：088-864-5606 E-mail：s-hosa@jm.kochi-ct.ac.jp		
ホームページ http://www.kochi-ct.ac.jp/		

■お申し込み方法■

下記の内容を開催大学の申し込み先にメールで送付ください。

- ①氏名
- ②所属大学
- ③所属学部，所属部署など
- ④職種（教員，職員等）
- ⑤プログラム番号
- ⑥プログラム名

※遠隔配信プログラムをご希望の場合は，その旨も一緒にお知らせください。

各プログラムには，受講定員があります。そのため，申し込み受付は，先着順とさせていただきます。

SPODは，加盟校の皆様の会費によって運営しています。そのため，原則としてSPOD加盟校以外の教職員の皆様が研修プログラムを受講する場合には，研修料を徴収させていただきます。（研修料については下の表をご参照ください。）

区 分	2時間以下の プログラム	1日で終了する プログラム	1泊2日の プログラム	2泊3日以上 のプログラム	左記に関わらず 外部委託する研 修プログラムの 研修料は，委託 費の総額を受講 定員で除した金 額とする。
研修料	2,000円	3,000円	5,000円	7,000円	

【研修料に関するお問い合わせ先】

SPOD事務局（愛媛大学教育企画課）

TEL：089-927-9154 E-mail：spod@stu.ehime-u.ac.jp

■SPODホームページについて■

SPODホームページでは、研修プログラムやSPODフォーラムの内容を随時更新し公表しています。また、これまでのSPODの取組についても掲載しておりますので、是非、ご参照ください。

The screenshot displays the SPOD homepage with the following elements:

- Header:** SPOD logo and text "四国地区大学教職員能力開発ネットワーク" (SPOD = hikoku professional and rganizational development Network in Higher Education).
- Navigation Bar:** Links for TOP, SPODについて, 各種リンク, and サイトマップ. A search bar is also present.
- Left Sidebar:**
 - イベント情報** (Event Information)
 - SPODについて** (About SPOD): 設置目的, 規約, 取組内容, 関連情報, 加盟校一覧, 研修講師一覧.
 - 研修プログラムガイドを見る** (View Training Program Guide)
 - 研修テキストを見る** (View Training Texts): FD (Faculty Development), SD (Staff Development).
 - 関連資料を見る** (View Related Materials): 会議 (Meetings), 調査・報告 (Surveys/Reports).
 - メルマガ登録** (Newsletter Registration)
 - 各種様式** (Various Forms)
 - 加盟校専用 (要ID, PW)** (Exclusive for Member Schools).
- Main Content Area:**
 - 学生豊かな学びと成長を支援する 実践的力をもった 高等教育のプロフェッショナルの輩出** (Supporting rich learning and growth of students, producing practical professionals in higher education). Includes a map of Shikoku and text: "ネットワーク加盟校総数 33校 (大学16、短期大学12、高等専門学校5)".
 - SPODフォーラム** (SPOD Forum): "自らの能力開発のために役立つ多種多様な質の高いFD/SDプログラムならびに組織を超えた持続的な相互交流・関係づくりの場を提供します".
 - 4月のイベント情報** (April Event Information):
 - 【愛媛/研修/FD】学生の能力を高める評価法のコツを4月5日(金)に開催
 - 【愛媛/研修/FD】教室の雰囲気を変えるクラスルームコントロール術を4月5日(金)に開催
 - 【愛媛/研修/FD・SD】動機を高める第1回目の授業づくりを4月4日(木)に開催
 - 【愛媛/研修/FD・SD】学生を驚かせない講義法のコツを4月4日(木)に開催
 - 更新情報** (Update Information):
 - 【全体/報告/FD・SD】平成24年度活動報告書
 - 【全体/報告/FD・SD】平成23年度活動報告書
 - 【全体/報告/FD・SD】平成22年度活動報告書
 - 【全体/報告/FD・SD】平成21年度活動報告書
 - 【全体/報告/FD・SD】SPODフォーラム開催概要
- Footer:**
 - 問合せ先/四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事務局(愛媛大学教育学生支援部教育企画課)
 - TEL:089-927-9154/FAX:089-927-8100 問合せメール
 - Copyright (C) 2009 SPOD All Rights Reserved.

SPODホームページアドレス <http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

研修プログラムガイド 2013

平成25年5月 発行

発 行 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

(事務局：愛媛大学教育学生支援部教育企画課)

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

TEL/FAX 089-927-9154

E-mail spod@stu.ehime-u.ac.jp

ホームページ <http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD)」は、
加盟校の共同事業として運営しています。

SPOD=Shikoku
Professional and
Organizational
Development Network in Higher Education

